

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	医学部の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	コクワダクフクシケン カクサクダク 国立大学法人 長崎大学							
フリガナ大学の名称	カクサクダク 長崎大学 [Nagasaki University]							
大学本部の位置	長崎県長崎市文教町1番14号							
大学の目的	長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献するとの理念に基づき、教育研究の高度化及び個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに歩みつつ、世界にとって不可欠な知の情報発信拠点であり続けるとともに、地域及び国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的	多くの離島を抱える長崎県では、かねてよりの医師不足に重ね専門医指向等により都市部病院へ医師が集中し、地域間の医師の偏在が顕著になっており、特に離島及び本土の県北部における医師不足は厳しい状況が続いている。そうした状況の下、本学では平成22年6月18日に閣議決定された「新成長戦略」等を踏まえ、地域医療を担う医師を養成し、長崎県内における医師確保のために貢献することを目的として、平成30年度から医学部医学科の入学定員を5名増員する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	【学部】	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	多文化社会学部 多文化社会学科	4	100	—	400	学士（多文化社会学）	平成26年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号
	教育学部 学校教育教員養成課程	4	240	—	960	学士（教育学）	平成10年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号
	経済学部 総合経済学科 昼間コース 夜間主コース	4	265 60	3年次 10 5	1,080 250	学士（経済学）	平成10年4月 第1年次	長崎市片淵4丁目2番1号
	医学部 医学科	6	120 (115)	2年次 5 (5)	645 (635)	学士（医学）	平成30年4月 第1年次	長崎市坂本1丁目12番4号
	保健学科	4	106	3年次 10	444	学士（看護学） 学士（保健学）	平成14年4月 第1年次	長崎市坂本1丁目7番1号
	歯学部 歯学科	6	50	—	300	学士（歯学）	昭和54年10月 第1年次	長崎市坂本1丁目7番1号
	薬学部 薬学科 薬科学科	6 4	40 40	— —	240 160	学士（薬学） 学士（薬科学）	平成18年4月 第1年次 昭和61年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号 "
	工学部 電気電子工学科 情報システム工学科 構造工学科 材料工学科 応用化学科 各学科共通 工学科	4 4 4 4 4 — 4	0 0 0 0 0 — 380	— — — — — 3年次 — —	0 0 0 0 0 0 1,520	学士（工学） " " " " " "	平成10年4月 第1年次 " 昭和42年4月 第1年次 昭和45年4月 第1年次 平成 3年4月 第1年次 平成18年4月 第3年次 平成23年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号 " " " " " " 長崎市文教町1番14号
	環境科学部 環境科学科	4	130	3年次 5	530	学士（環境科学）	平成9年10月 第1年次	長崎市文教町1番14号
	水産学部 水産学科	4	110	—	440	学士（水産学）	昭和48年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号

（ ）内は平成29年度を期限とする医学部臨時定員の再度の定員増を行わなかった場合の、入学定員、編入学定員、収容定員となる。
また、医学部医学科の平成29年度の入学定員120名のうち、
・5名は平成21年度に「緊急医師確保対策」による臨時増。
・15名は平成22年度に「経済財政改革2009」による臨時増。
・1名は平成23年度に「新成長戦略」による臨時増。
・2名は平成28年度に「地域枠」による臨時増。
・2名は平成29年度に「地域枠」による臨時増。
また、平成29年度の編入学定員は二次編入が5名、収容定員は727名である。
今回の5名の入学定員の増員は平成29年度を期限とする医学部臨時定員の再度の定員増による平成31年度までの臨時定員増である。

平成23年度より学生募集停止

新設学部等の概要	【研究科】 多文化社会学研究科 (修士課程) 多文化社会学専攻	2	10	—	20	修士(学術)	平成30年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号	平成23年度より学生募集停止
	教育学研究科 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	28	—	56	教職修士(専門職)	平成20年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号	
	経済学研究科 (博士前期課程) 経済経営政策専攻	2	15	—	30	修士(経済学) 修士(経営学)	平成16年4月 第1年次	長崎市片淵4丁目2番1号	
	(博士後期課程) 経営意思決定専攻	3	3	—	9	博士(経営学)	〃	〃	
	生産科学研究科 (博士後期課程) システム科学専攻	3	0	—	0	博士(学術) 博士(工学) 博士(水産学) 博士(環境科学)	平成12年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号	
	海洋生産科学専攻	3	0	—	0	〃	平成13年4月 第1年次	〃	
	環境科学専攻	3	0	—	0	〃	平成16年4月 第1年次	〃	
	工学研究科 (博士前期課程) 総合工学専攻	2	220	—	440	修士(工学)	平成23年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号	
	(博士後期課程) 生産システム工学専攻	3	15	—	45	博士(工学)	平成23年4月 第1年次	〃	
	(5年一貫制博士課程) グリーンシステム創成科学専攻	5	5	—	25	博士(工学)	平成23年4月 第1年次	〃	
	水産・環境科学総合研究科 (博士前期課程) 水産学専攻	2	35	—	70	修士(学術) 修士(水産学)	平成23年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号	
	環境科学専攻	2	25	—	50	修士(学術) 修士(環境科学)	平成27年4月 第1年次	〃	
	(博士後期課程) 環境海洋資源学専攻	3	12	—	36	博士(学術) 博士(水産学) 博士(環境科学)	平成23年4月 第1年次	〃	
	(5年一貫制博士課程) 海洋フィールド生命科学専攻	5	5	—	25	博士(水産学) 博士(環境科学) 博士(海洋科学)	平成23年4月 第1年次	〃	
	医歯薬学総合研究科 (修士課程) 保健学専攻	2	20	—	40	修士(看護学) 修士(理学療法学) 修士(作業療法学)	平成18年4月 第1年次	長崎市坂本1丁目7番1号	
	災害・被ばく医療科学 共同専攻	2	10	—	20	修士(医科学) 修士(看護学)	平成28年4月 第1年次	長崎市坂本1丁目12番4号	
	(博士課程) 医療科学専攻	4	60	—	240	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	平成14年4月 第1年次	長崎市坂本1丁目12番4号	
	新興感染症病態制御 学系専攻	4	20	—	80	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	〃	〃	
放射線医療科学専攻	4	5	—	20	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	〃	〃		
先進予防医学共同専攻	4	10	—	40	博士(医学)	平成28年4月 第1年次	〃		
(博士前期課程) 生命薬科学専攻	2	36	—	72	修士(薬科学)	平成14年4月 第1年次	長崎市文教町1番14号		
(博士後期課程) 生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士(学術) 博士(薬科学)	〃	〃		

新設学部等の概要	国際健康開発研究科 (修士課程) 国際健康開発専攻	2	0	—	0	修士(公衆衛生学)	平成20年4月 第1年次	長崎市坂本1丁目12番4号	平成27年度より学生募集停止	
	熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (博士前期課程) グローバルヘルス専攻	2	37	—	62	修士(熱帯医学) 修士(公衆衛生学) 修士(医科学)	平成27年4月 第1年次	長崎市坂本1丁目12番4号		
	(博士後期課程) グローバルヘルス専攻	3	5	—	15	博士(グローバルヘルス)	平成30年4月 第1年次	〃		
	長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻	3	5	—	15	博士(グローバルヘルス)	〃	〃		
計				第2年次 5 (5) 第3年次 2,232 (2227)	30 (34)	8,409 (8399)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>【研究科の専攻に係る課程の変更】 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (博士後期課程) グローバルヘルス専攻 (5) (平成29年3月 意見伺い)</p> <p>【研究科の専攻の設置(国際連携専攻)】 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (博士後期課程) 長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻 (5) (平成29年3月 意見伺い)</p> <p>【研究科の設置】 多文化社会学研究科 (修士課程) 多文化社会学専攻 (10) (平成29年3月 意見伺い)</p> <p>【入学定員の変更】 教育学研究科 (専門職学位課程) 教職実践専攻 (定員減) (△10) (平成30年4月)</p> <p>【編入学定員の変更】 医学部 保健学科3年次編入学 (定員減) (△4) (平成30年4月)</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
	—	講義	演習	実験・実習	計	—	—	—	単位	
教員組織の概要	新設分	学部等の名称		専任教員等					兼任	任
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	教員	等
		【学部】	人	人	人	人	人	人	人	人
		多文化社会学部 多文化社会学科	14 (14)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	23 (25)	
		教育学部 学校教育教員養成課程	23 (23)	35 (35)	0 (0)	4 (4)	62 (62)	0 (0)	87 (87)	
		経済学部 総合経済学科 昼間コース	21 (21)	28 (26)	2 (2)	3 (3)	54 (52)	0 (0)	14 (14)	
		夜間主コース	21 (21)	28 (26)	2 (2)	3 (3)	54 (52)	0 (0)	0 (0)	
		医学部 医学科	36 (36)	31 (31)	24 (24)	64 (64)	155 (155)	0 (0)	191 (191)	
		保健学科	21 (21)	15 (15)	0 (0)	14 (15)	50 (51)	0 (0)	18 (18)	
		歯学部 歯学科	21 (18)	20 (18)	0 (0)	45 (51)	86 (87)	0 (0)	63 (63)	
薬学部 薬学科	11 (11)	10 (10)	0 (0)	8 (8)	29 (29)	0 (0)	5 (5)			
薬科学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	5 (5)			
工学部 工学科	36 (36)	46 (46)	0 (0)	24 (24)	106 (106)	1 (1)	64 (64)			

教員組織の概要	新設分	環境科学部 環境科学科	23 (22)	20 (19)	0 (0)	5 (6)	48 (47)	0 (0)	14 (14)	平成29年3月 意見伺い
		水産学部 水産学科	26 (26)	22 (22)	0 (0)	7 (7)	55 (55)	0 (0)	16 (16)	
		【研究科】 多文化社会学研究科 多文化社会学専攻	15 (15)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	8 (12)	
		教育学研究科 教職実践専攻(専門職学位課程)	18 (18)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	60 (60)	
		経済学研究科 経済経営政策専攻(博士前期課程)	21 (21)	27 (24)	0 (0)	0 (0)	48 (45)	0 (0)	0 (0)	
		経営意思決定専攻(博士後期課程)	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	
		工学研究科 総合工学専攻(博士前期課程)	36 (36)	46 (46)	0 (0)	24 (24)	106 (106)	0 (0)	16 (16)	
		生産システム工学専攻(博士後期課程)	26 (26)	41 (41)	0 (0)	0 (0)	67 (67)	0 (0)	2 (2)	
		グリーンシステム創成科学専攻(5年一貫制博士課程)	10 (10)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
		水産・環境科学総合研究科 水産学専攻(博士前期課程)	25 (25)	20 (20)	0 (0)	3 (3)	48 (48)	0 (0)	0 (0)	
		環境科学専攻(博士前期課程)	26 (25)	22 (21)	0 (0)	5 (6)	53 (52)	0 (0)	0 (0)	
		環境海洋資源学専攻(博士後期課程)	34 (33)	36 (35)	0 (0)	4 (5)	74 (73)	0 (0)	12 (12)	
		海洋フード生命科学専攻(5年一貫制博士課程)	14 (14)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	8 (8)	
		医歯薬学総合研究科 保健学専攻(修士課程)	20 (20)	14 (14)	0 (0)	6 (6)	40 (40)	0 (0)	13 (13)	
		災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
		医療科学専攻(博士課程)	72 (72)	50 (50)	10 (10)	14 (14)	146 (146)	0 (0)	26 (26)	
		新興感染症病態制御学専攻(博士課程)	23 (23)	11 (11)	5 (5)	4 (4)	43 (43)	0 (0)	6 (6)	
		放射線医療科学専攻(博士課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	
		先進予防医学共同専攻(博士課程)	9 (9)	3 (3)	6 (6)	6 (6)	24 (24)	0 (0)	5 (5)	
		生命薬科学専攻(博士前期課程)	9 (9)	10 (10)	0 (0)	4 (4)	23 (23)	0 (0)	20 (20)	
生命薬科学専攻(博士後期課程)	9 (9)	10 (10)	0 (0)	4 (4)	23 (23)	0 (0)	0 (0)			
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻(博士前期課程)	21 (29)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	25 (33)	0 (0)	14 (19)			
グローバルヘルス専攻(博士後期課程)	5 (9)	6 (6)	0 (1)	8 (8)	19 (24)	0 (0)	0 (0)			
長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻(博士後期課程)	5 (9)	6 (6)	0 (1)	9 (9)	20 (25)	0 (0)	0 (0)			
計	680 (690)	630 (618)	49 (51)	278 (288)	1637 (1647)	1 (1)	697 (708)			
既設分	該当なし	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	計	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
合計		()	()	()	()	()	()			
教員以外の職員の概要	職 種	専 任	兼 任		計					
	事 務 職 員	472人 (472人)	538人 (538人)		1010人 (1010人)					
	技 術 職 員	102人 (102人)	66人 (66人)		168人 (168人)					
	図 書 館 専 門 職 員	10人 (10人)	-		10人 (10人)					
	そ の 他 の 職 員	1297人 (1297人)	774人 (774人)		2071人 (2071人)					
計	1881人 (1881人)	1378人 (1378人)		3259人 (3259人)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	275,425 m ²	0 m ²	0 m ²	275,425 m ²					
	運 動 場 用 地	101,030 m ²	12,748 m ²	0 m ²	113,778 m ²					
	小 計	376,455 m ²	12,748 m ²	0 m ²	389,203 m ²					
	そ の 他	166,344 m ²	107,538 m ²	0 m ²	273,882 m ²					
合 計	542,799 m ²	120,286 m ²	0 m ²	663,085 m ²						
						借用面積106m ²				
						借用面積3,190m ²				

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		180,939 m ² (180,939 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	180,939 m ² (180,939 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	100 室	236 室	486 室	26 室 (補助職員 人)	6 室 (補助職員 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
大学全体					室				
図書・ 設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	(大学全体の共用分)	
	大学全体	1,024,000 [295,000] (1,018,000 [295,000])	25,400 [7,700] (24,500 [7,400])	11,500 [10,300] (16,500 [14,800])	7,200 (6,500)	12,952 (12952)	78 (78)	図書 1,024,000 [295,000] (1,018,000 [295,000]) 視聴覚資料 7,200 (6,500)	
	計	1,024,000 [295,000] (1,018,000 [295,000])	25,400 [7,700] (24,500 [7,400])	11,500 [10,300] (16,500 [14,800])	7,200 (6,500)	12,952 (12952)	78 (78)		
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		10,735 m ²		1,274 席	961,917 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		12,541 m ²		弓道場, テニスコート, ハンドボールコート, プール等					
経費の 見及び 維持方 法の概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等							
	共同研究費等								
	図書購入費								
	設備購入費								
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
大 学 の 名 称		長崎大学							既設大学等の 状況
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
【 学 部 】	年	人	年次 人	人		倍			
多文化社会学部 多文化社会学科	4	100	—	400	学士(多文化社会学)	0.96	平成26年度	長崎市文教町1番14号	
教育学部 学校教育教員養成課程	4	240	—	960	学士(教育学)	1.00	平成10年度	長崎市文教町1番14号	
経済学部 総合経済学科 昼間コース 夜間主コース	4 4	265 60	3年次 10 5	1080 250	学士(経済学)	1.03	平成10年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
医学部 医学科 保健学科	6 4	120 106	2年次 5 3年次 14	727 452	学士(医学) 学士(看護学) 学士(保健学)	1.00 1.00	平成28年度 平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号 長崎市坂本1丁目7番1号	
歯学部 歯学科	6	50	—	300	学士(歯学)	1.00	昭和54年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
薬学部 薬学科 薬科学科	6 4	40 40	— —	240 160	学士(薬学) 学士(薬科学)	1.01 1.03	平成18年度 昭和61年度	長崎市文教町1番14号	
工学部 電気電子工学科 情報システム工学科 構造工学科 材料工学科 応用化学科	4 4 4 4 4	0 0 0 0 0	— — — — —	0 0 0 0 0	学士(工学) 〃 〃 〃 〃		平成10年度 〃 昭和42年度 昭和45年度 平成3年度	長崎市文教町1番14号 〃 〃 〃 〃	
各学科共通	—	—	3年次 —	0	〃		平成18年度	〃	
工学科	4	380	—	1520	学士(工学)	1.03	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
環境科学部 環境科学科	4	130	3年次 5	530	学士(環境科学)	1.02	平成9年度	長崎市文教町1番14号	
水産学部 水産学科	4	110	—	440	学士(水産学)	1.02	昭和48年度	長崎市文教町1番14号	

既設大学等の状況	【研究科】 教育学研究科 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	38	—	76	教職修士(専門職)	0.77	平成20年度	長崎市文教町1番14号	平成23年度より学生募集停止
	経済学研究科 (博士前期課程) 経済経営政策専攻	2	15	—	30	修士(経済学) 修士(経営学)	0.83	平成7年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	(博士後期課程) 経営意志決定専攻	3	3	—	9	博士(経営学)	1.00	平成16年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	生産科学研究科 (博士後期課程) システム科学専攻	3	0	—	0	博士(学術) 博士(工学) 博士(水産学) 博士(環境科学)		平成12年度	長崎市文教町1番14号	
	海洋生産科学専攻	3	0	—	0	〃		平成13年度	〃	
	環境科学専攻	3	0	—	0	〃		平成16年度	〃	
	工学研究科 (博士前期課程) 総合工学専攻	2	220	—	440	修士(工学)	0.98	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	(博士後期課程) 生産システム工学専攻	3	15	—	45	博士(工学)	1.04	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	(5年一貫制博士課程) グリーンシステム創成科学専攻	5	5	—	25	博士(工学)	0.80	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	水産・環境科学総合研究科 (博士前期課程) 水産学専攻	2	35	—	70	修士(学術) 修士(水産学)	0.95	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	環境科学専攻	2	25	—	50	修士(学術) 修士(環境科学)	0.84	平成27年度	長崎市文教町1番14号	
	(博士後期課程) 環境海洋資源学専攻	3	12	—	36	博士(学術) 博士(水産学) 博士(環境科学)	1.05	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	(5年一貫制博士課程) 海洋フィールド生命科学専攻	5	5	—	25	博士(水産学) 博士(環境科学) 博士(海洋科学)	0.40	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	医歯薬学総合研究科 (修士課程) 保健学専攻	2	20	—	40	修士(看護学) 修士(理学療法学) 修士(作業療法学)	1.00	平成14年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
	災害・被災く医療科学共同専攻	2	10	—	20	修士(看護学) 修士(医科学)	1.00	平成28年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	(博士課程) 医療科学専攻	4	60	—	244	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.15	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	新興感染症病態制御学系専攻	4	20	—	80	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.06	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	放射線医療科学専攻	4	5	—	26	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	0.77	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	先進予防医学共同専攻	4	10	—	20	博士(医学)	1.05	平成28年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	(博士前期課程) 生命薬科学専攻	2	36	—	72	修士(薬科学)	0.86	平成14年度	長崎市文教町1番14号	
(博士後期課程) 生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士(学術) 博士(薬科学)	0.93	平成14年度	長崎市文教町1番14号		
国際健康開発研究科 (修士課程) 国際健康開発専攻	2	0	—	0	修士(公衆衛生学)		平成20年度	長崎市坂本1丁目12番4号		
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (修士課程) グローバルヘルス専攻	2	37	—	52	修士(熱帯医学) 修士(公衆衛生学) 修士(医科学)	0.98	平成27年度	長崎市坂本1丁目12番4号		

<p>附属施設の概要</p>	<p>(附置研究所)</p> <p>○熱帯医学研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：昭和24年5月（昭和42年6月 風土病研究所から改称） 規模等：土地 92, 176㎡ 建物 9, 506㎡ 目的：熱帯医学に関する学理及びその応用を研究する。</p> <p>○原爆後障害医療研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成25年4月 規模等：土地 92, 176㎡ 建物 4, 719㎡ 目的：放射線の人体への影響を国内外のヒパクシャを対象として研究により究明して、人類の安全と安心に寄与する放射線健康リスク評価・管理学を實踐し、全人的被ばく医療学を推進するとともに、国際的な放射線被ばく影響の実態調査、ヒパクシャの試料・資料の収集及びデータベースの構築を行うことを目的とする。</p> <p>(附属学校)</p> <p>目的： (1)教育基本法及び学校教育法に定める教育又は保育を行う。 (2)教育学部における児童若しくは生徒の教育又は幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施にあたる。 (3)教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行う。</p> <p>○教育学部附属幼稚園 所在地：長崎市文教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51, 185㎡ 建物 1, 148㎡</p> <p>○教育学部附属小学校 所在地：長崎市文教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地（上記に含む） 建物 7, 240㎡</p> <p>○教育学部附属中学校 所在地：長崎市文教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地（上記に含む） 建物 7, 613㎡</p> <p>○教育学部附属特別支援学校 所在地：長崎市柳谷町42番1号 設置年月：昭和46年4月 規模等：土地 12, 529㎡ 建物 3, 518㎡</p> <p>(学部等の附属施設)</p> <p>○地域教育総合支援センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成13年4月（教育学部附属教育実践総合センターを改組） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 532㎡ 目的：教育実践に関する研究、指導及び研修を総合的にを行い、教師教育の充実を図る。</p> <p>○水産学部附属練習船鶴洋丸 設置年月：昭和50年6月（現船：平成16年12月） 規模等：アルミニウム合金船 155トン 最大搭載人員 36名 目的：航海・漁労実習、海洋環境観測、海洋生物資源調査</p> <p>○水産学部附属練習船長崎丸 設置年月：昭和27年3月（現船：昭和61年2月） 規模等：鋼船 842トン 最大搭載人員 69名 目的：トロール漁業実習、海洋学実習、航海運用実習</p> <p>○海洋未来イノベーション機構 所在地：長崎市多以良町1551番7号 設置年月：平成28年4月 規模等：土地 10, 900㎡ 建物 1, 943㎡ 目的：21世紀の最重要課題である地球環境保全及び食料供給の持続性確保に向けて、長崎に隣接する東シナ海及びその沿岸域を主な対象として国内外の研究機関とも緊密に連携しながら、水圏・大気圏・陸圏の環境保全及び多様な生物資源の持続的生産の基盤となる学際領域の研究を推進する拠点として機能することを目的とする。</p> <p>○医薬学総合研究科附属先進予防医学研究センター 所在地：長崎県五島市三尾野1-7-1 設置年月：平成29年6月 規模等：土地 4, 826㎡ 建物 39㎡ 目的：長崎大学医薬学総合研究科における先進予防医学に関する国内外の研究機関との共同研究の推進に寄与する。</p> <p>○医薬学総合研究科附属薬用植物園 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：昭和47年5月（平成15年4月 薬学部附属施設から医薬学総合研究科附属施設へ移行） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 445㎡ 目的：園内に薬用植物を栽培し、もって学術研究及び教育に資する。</p> <p>○熱帯医学研究所附属アジア・アフリカ感染症研究施設 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成20年4月（熱帯感染症研究センターを改組） 規模等：土地 92, 176㎡ 建物 74㎡ 目的：アジアやアフリカにおける熱帯病・新興再興感染症の発生・拡大に関与する現地長期調査及び複合要因の解析並びに予防制圧に資する研究及び教育を行うことにより、当該分野の学術研究の進展及び人材育成に寄与する。</p>	
----------------	--	--

<p>附属施設の概要</p>	<p>○熱帯医学研究所附属熱帯医学ミュージアム 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成20年4月（熱帯感染症研究センターを改組） 規模等：土地 92,176㎡ 建物 382㎡ 目的：熱帯医学に関する資料・情報を収集、整理、保存、解析及び提供するとともに、公衆への供覧等を行うことにより、熱帯医学に対する社会の理解を深め、学術研究の進展に寄与する。</p> <p>（附属病院） ○長崎大学病院 所在地：長崎市坂本1丁目7番1号 設置年月：昭和24年5月（平成21年4月 医学部・歯学部附属病院を改組） 規模等：土地 86,807㎡ 建物 86,200㎡ 目的：患者の診療を通じて医歯薬学関連の教育及び研究を行う。</p> <p>（学内共同教育研究施設等） ○保健・医療推進センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：昭和41年4月（平成20年4月 保健管理センターを改組） 規模等：土地 187,125㎡ 建物 540㎡ 目的：長崎大学の学生及び職員の健康を守り、予防に努めるとともに、保健・医療分野での医療教育、本学の地域連携及び地域貢献を県及び自治体と連携し、推進する。</p> <p>○先導生命科学研究支援センター 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成15年4月（アイトープ総合センター、遺伝子実験施設及び医学部附属動物実験施設を統合再編） 規模等：土地 91,231㎡ 建物 9,818㎡ 目的：放射性同位元素等、動物資源及びゲノム情報・遺伝子を用いる教育研究にその施設等を供するとともに、本学における総合的な生命科学の推進及び支援を行い、もって教育研究の進展に資する。</p> <p>○ICT基盤センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成16年12月（総合情報処理センターを改組） 研究科附属施設へ移行） 規模等：土地 187,125㎡ 建物 1,189㎡ 目的：ICTを活用した教育研究環境を提供するため、情報政策の企画立案・実施、高度情報化技術に基づく情報基盤の整備、教育の情報化及び情報教育の推進を行うことを目的とする。</p> <p>○大学教育イノベーションセンター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 779㎡ 目的：本学の教育理念を達成するために、学士課程教育及び大学教育の在り方に関する研究を行うとともに、その改善に資するデータ蓄積とそれを活用した入学者選抜支援、教育支援等の業務を行うことを目的とする。</p> <p>○先端計算研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成22年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 405㎡ 目的：次世代並列コンピュータに関する研究開発及び教育を推進し、次世代並列コンピュータを利用した新たな産業創出に資する。</p> <p>○言語教育研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 400㎡ 目的：本学における外国語教育に関する教育及び研究を推進するとともに、外国語教育の実施に関する企画運営を行う。</p> <p>○核兵器廃絶研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 187,125㎡ 建物 230㎡ 目的：ヒロシマ・ナガサキを現在の世界の潮流の中で新たに位置づけ、学問的調査・分析を通して核兵器廃絶に向けた情報や提言を様々な角度から世界に発信するため、長崎市、長崎県等と連携を図りながら核兵器廃絶に係る教育研究活動を行うことにより、もって本学の教育研究の進展に資する。</p>	
----------------	--	--

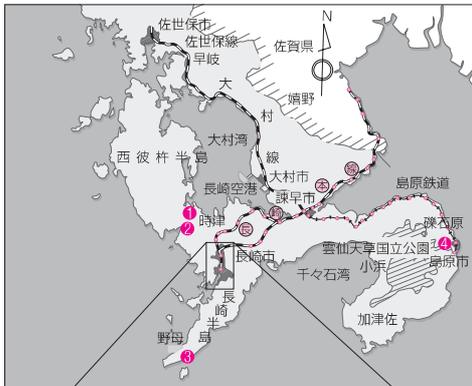
（注）

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校が収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人長崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成30年度(医学部定員増をしなかった場合)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度(医学部定員増をした場合)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
長崎大学				長崎大学				
多文化社会学部				多文化社会学部				
多文化社会学科	100	—	400	多文化社会学科	100	—	400	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	240	—	960	学校教育教員養成課程	240	—	960	
経済学部				経済学部				
総合経済学科(昼間コース)	265	10	1080	総合経済学科(昼間コース)	265	10	1080	
総合経済学科(夜間主コース)	60	5	250	総合経済学科(夜間主コース)	60	5	250	
医学部				医学部				定員変更(5)
医学科	115	5	635	医学科	120	5	645	
保健学科	106	10	444	保健学科	106	10	444	
歯学部				歯学部				
歯学科	50	—	300	歯学科	50	—	300	
薬学部				薬学部				
薬学科	40	—	240	薬学科	40	—	240	
薬科学科	40	—	160	薬科学科	40	—	160	
工学部				工学部				
工学科	380	—	1520	工学科	380	—	1520	
環境科学部				環境科学部				
環境科学科	130	5	530	環境科学科	130	5	530	
水産学部				水産学部				
水産学科	110	—	440	水産学科	110	—	440	
計	1636	35	6959	計	1641	35	6969	
長崎大学大学院				長崎大学大学院				
多文化社会学研究科				多文化社会学研究科				
多文化社会学専攻(修士課程)	10		20	多文化社会学専攻(修士課程)	10		20	
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践専攻(専門職学位課程)	28		56	教職実践専攻(専門職学位課程)	28		56	
経済学研究科				経済学研究科				
経済経営政策専攻(博士前期課程)	15		30	経済経営政策専攻(博士前期課程)	15		30	
経営意思決定専攻(博士後期課程)	3		9	経営意思決定専攻(博士後期課程)	3		9	
工学研究科				工学研究科				
総合工学専攻(博士前期課程)	220		440	総合工学専攻(博士前期課程)	220		440	
生産システム工学専攻(博士後期課程)	15		45	生産システム工学専攻(博士後期課程)	15		45	
グリーンシステム創成科学専攻(博士課程)	5		25	グリーンシステム創成科学専攻(博士課程)	5		25	
水産・環境科学総合研究科				水産・環境科学総合研究科				
水産学専攻(博士前期課程)	35		70	水産学専攻(博士前期課程)	35		70	
環境科学専攻(博士前期課程)	25		50	環境科学専攻(博士前期課程)	25		50	
環境海洋資源学専攻(博士後期課程)	12		36	環境海洋資源学専攻(博士後期課程)	12		36	
海洋フィールド生命科学専攻(博士課程)	5		25	海洋フィールド生命科学専攻(博士課程)	5		25	
医歯薬学総合研究科				医歯薬学総合研究科				
保健学専攻(修士課程)	20		40	保健学専攻(修士課程)	20		40	
災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)	10		20	災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)	10		20	
医療科学専攻(博士課程)	60		240	医療科学専攻(博士課程)	60		240	
新興感染症病態制御学系専攻(博士課程)	20		80	新興感染症病態制御学系専攻(博士課程)	20		80	
放射線医療科学専攻(博士課程)	5		20	放射線医療科学専攻(博士課程)	5		20	
先進予防医学共同専攻(博士課程)	10		40	先進予防医学共同専攻(博士課程)	10		40	
生命薬科学専攻(博士前期課程)	36		72	生命薬科学専攻(博士前期課程)	36		72	
生命薬科学専攻(博士後期課程)	10		30	生命薬科学専攻(博士後期課程)	10		30	
熱帯医学・グローバルヘルス研究科				熱帯医学・グローバルヘルス研究科				
グローバルヘルス専攻(博士前期課程)	37		62	グローバルヘルス専攻(博士前期課程)	37		62	
グローバルヘルス専攻(博士後期課程)	5		15	グローバルヘルス専攻(博士後期課程)	5		15	
長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 国際連携グローバルヘルス専攻(博士後期課程)	5		15	長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 国際連携グローバルヘルス専攻(博士後期課程)	5		15	
計	591		1440	計	591		1440	

長崎大学位置図



- ① 臨海研修所
- ② 海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センター
- ③ 野母崎研究施設
- ④ 九州地区国立大学島原共同研修センター
- ⑤ 教育学部附属幼稚園, 附属小学校, 附属中学校
- ⑥ 教育学部附属特別支援学校
- ⑦ 計画・評価本部, 産学官連携戦略本部, 広報戦略本部, 研究推進戦略本部, 国際教育リエゾン機構, 海洋未来イノベーション機構, 地方創生推進本部, 感染症共同研究拠点, 監査室, 事務局, 多文化社会学部, 教育学部, 教育学研究科, 薬学部, 工学部, 環境科学部, 水産学部, 附属図書館, 工学研究科, 水産・環境科学総合研究科, 医歯薬学総合研究科(薬学系), 附属薬用植物園, 保健・医療推進センター, ICT 基盤センター, 大学教育イノベーションセンター, 先端計算研究センター, 言語教育研究センター, 核兵器廃絶研究センター, 学務情報推進室, やってみゅーでスク, ダイバーシティ推進センター, 先端創薬イノベーションセンター, 地域教育総合支援センター, 障がい学生支援室, 福島未来創造支援研究センター, インスティテューショナル・リサーチ室
- ⑧ 国際交流会館
- ⑨ 国際連携研究戦略本部, 医学部(医学科), 熱帯医学研究所, 原爆後障害医療研究所, 医歯薬学総合研究科(医学系), 国際健康開発研究科, 先端生命科学支援センター, 附属図書館(医学分館), 熱帯医学・グローバルヘルス研究科
- ⑩ 病院, 歯学部, 薬学部
医歯薬学総合研究科(保健学系・歯学系・薬学系), 医学部(保健学科), 国際交流会館坂本分館, 原子力災害対策戦略本部, 子どもの心の医療・教育センター
- ⑪ 経済学部, 経済学研究科, 附属図書館(経済学部分館)
- ⑫ 国際学寮ホルテンシア

最寄駅からの図面・キャンパス間の移動関係



■ 坂本キャンパス

● JR 長崎駅から

路面電車

「長崎駅前」→(赤迫行き)→「浜口町」下車→徒歩

長崎バス

「長崎駅前」→(8番系統下大橋行き(医学部経由))→「医学部前」下車

● JR 浦上駅から

路面電車

「浦上駅前」→(赤迫行き)→「浜口町」下車→徒歩

● 長崎空港から

県営バス

「長崎空港4番のりば」→(昭和町・浦上経由長崎方面行き)→「浦上駅前」下車→(「JR 浦上駅から」へ)

■ 坂本キャンパス(医学部)と文教キャンパス(全学教育)間の移動関係

- 1) 距離 2 km, 移動時間 20 分, 交通手段は路面電車「浜口町」～「長崎大学前」
- 2) 全学教育は, 1 年次が水曜日・木曜日・金曜日, 2 年次が月曜日・火曜日に文教キャンパスで受講することにして, 専門教育との受講日を曜日で分け, 同じ日にキャンパス間の移動がないようにしている。

校舎・運動場等の図面

坂本キャンパス ①



坂本キャンパス ②

医学部 (保健学科)
 歯学部
 薬学部
 大学病院

- ① すかいらうんじ ぼんぺ
- ② 水壺を捧げる子供の像
- ③ 被爆したクスノキ
- ④ 院内ぎやらりー
- ⑤ コリドール
- ⑥ 長崎医科大学附属病院碑
- ⑦ ローソン
- ⑧ 福利厚生施設 (生協食堂)
- ⑨ // (売店)



長崎大学学則の変更の事由及び変更点

変更の事由

医学部医学科の入学定員を見直すため、所要の改正を行うものである。

変更点

医学部医学科の入学定員及び収容定員に関する規定を整備すること。

目次

第1章 総則（第1条—第3条）

第2章 修業年限，在学期間，学年，学期及び休業日（第4条—第9条）

第3章 入学，編入学，転入学，転学部等，休学，復学，留学，退学，転学，再入学及び除籍（第10条—第28条）

第4章 教育課程の編成，授業科目の区分等，単位，履修方法，考查及び単位の授与（第29条—第44条）

第5章 卒業及び学位並びに教員の免許状授与の所要資格の取得（第45条—第48条）

第6章 賞罰（第49条・第50条）

第7章 検定料，入学料，授業料及び寄宿料（第51条—第60条）

第8章 科目等履修生，研究生，特別聴講学生，特別の課程及び外国人留学生（第61条—第65条）

第9章 雑則（第66条・第67条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 長崎大学（以下「本学」という。）は，国立大学法人長崎大学基本規則（平成16年規則第1号）第3条に規定する理念に基づき，実践教育を重視した最高水準の教育を提供し，幅広い視野と豊かな教養及び深い専門知識を備え，課題探求能力及び創造力に富んだ人材を養成し，もって地域及び国際社会に貢献することを目的とする。

2 本学の学部の修業年限，教育課程，教育研究組織その他の学生の修学上必要な事項については，この学則の定めるところによる。

（教育研究上の目的の公表等）

第1条の2 各学部は，学部，学科又は課程ごとに，人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部規程に定め，公表するものとする。

（学部，学科，課程及び収容定員）

第2条 本学の学部に，次の学科及び課程を置く。

学部	学科及び課程
多文化社会学部	多文化社会学科
教育学部	学校教育教員養成課程

経済学部	総合経済学科
医学部	医学科, 保健学科
歯学部	歯学科
薬学部	薬学科, 薬科学科
工学部	工学科
環境科学部	環境科学科
水産学部	水産学科

2 経済学部は昼夜開講制とし、昼間に授業を行うコース（以下「昼間コース」という。）及び主として夜間に授業を行うコース（以下「夜間主コース」という。）を置く。

3 収容定員は、別表第1のとおりとする。

（講座等）

第3条 前条第1項に掲げる学部又は学科に、講座、学科目等を置く。

2 前項の講座、学科目等は、別に定める。

第2章 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

（修業年限）

第4条 学部の修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科にあつては、6年とする。

（入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算）

第5条 大学の学生以外の者が第61条に規定する科目等履修生として一定の単位（第11条に規定する入学資格を有した後、修得したものに限る。）を修得した後に本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して所属学部教授会の議を経て学長が定める期間を修業年限に通算することができる。ただし、その期間は、修業年限の2分の1を超えてはならない。

（在学期間）

第6条 本学における在学期間は、修業年限の2倍を超えることができない。

（学年）

第7条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

（学期）

第8条 学年を分けて、次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 前項に定める各学期は、前半及び後半に分けることができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学部の事情により、学長が変更することがある。

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日及び土曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

開学記念日 5月31日

春季休業 3月21日から4月7日まで

夏季休業 8月11日から9月30日まで

冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学部の事情により、学長が変更することがある。
- 3 学長は、必要があると認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、編入学、転入学、転学部等、休学、復学、留学、退学、転学、再入学及び除籍
(入学の時期)

第10条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、後期の始めに入学させることができる。

(入学資格)

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入学した者であつて、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると

認められた者で、18歳に達したもの

(入学志願の手続)

第12条 入学志願者は、所定の手続により、願い出なければならない。

(選抜試験)

第13条 入学志願者に対しては、長崎大学入学者選抜規則(平成16年規則第16号)の定めるところにより、選抜試験を行う。

(合格者の決定)

第14条 前条の選抜試験による合格者の決定は、各学部教授会の議を経て、学長が行う。

(編入学定員を有する学部への編入学)

第15条 経済学部、医学部保健学科又は環境科学部の第3年次に編入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、かつ、当該学部が別に定める出願資格を有する者とし、選抜試験を行った上、当該学部教授会の議を経て、学長が入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 短期大学若しくは高等専門学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者
- (4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(第11条に規定する入学資格を有する者に限る。)
- (8) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(第11条に規定する入学資格を有する者に限る。)

2 医学部医学科の第2年次に編入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とし、選抜試験を行った上、当該学部教授会の議を経て、学長が入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程

を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(欠員のある場合の編入学及び転入学)

第16条 次の各号のいずれかに該当する者については、欠員のある場合に限り、選考の上、当該学部教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。

- (1) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者で、編入学を志望するもの
- (2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者で、編入学を志望するもの
- (3) 教育学部若しくは学芸学部の2年課程を修了した者又は学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に規定する従前の規定による学校の課程を修了し、若しくはこれらの学校を卒業した者で、編入学を志望するもの
- (4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者で、編入学を志望するもの
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者で、編入学を志望するもの
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、編入学を志望するもの
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(第11条に規定する入学資格を有する者に限る。)で、編入学を志望するもの
- (8) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(第11条に規定する入学資格を有する者に限る。)で、編入学を志望するもの
- (9) 他の大学に在学する者又は卒業し、若しくは退学した者で、転入学を志望するもの
- (10) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学する者又は当該課程を修了し、若しくは退学した者で、転入学を志望するもの(第11条に規定する入学資格を有する者に限る。)

2 前項各号に掲げるもののほか、医学又は歯学の進学課程を修了した者又はこれと同等以上の学力が

あと認められる者の編入学については、医学部又は歯学部が別に定める。

(編入学又は転入学を許可された者の修業年限等)

第17条 前2条の規定により入学を許可された者の入学する前に履修した授業科目について修得した単位及び入学する前に行った第37条第1項に規定する学修の取扱い並びに在学すべき年数については、所属学部教授会の議を経て、学長が定める。

2 前項の規定により在学すべき年数を定められた者の在学期間は、第6条の規定にかかわらず、在学すべき年数の2倍を超えることができない。

3 第1項の規定により在学すべき年数を定められた者の休学期間は、第22条第2項の規定にかかわらず、在学すべき年数に相当する年数を超えることができない。

(入学手続)

第18条 選抜試験又は選考の結果に基づき、入学の合格通知を受けた者は、所定の期日までに次の手続をしなければならない。

(1) 入学料を納付すること。

(2) 誓約書及び保証書を提出すること。ただし、第64条に規定する外国人留学生については、誓約書のみの提出とする。

2 保証書の保証人は、原則として父母又はこれに準ずる者とし、学生と連帯して責任を負うものとする。保証人又は保証人の住所に変更があった場合は、速やかに届け出なければならない。

(入学許可)

第19条 学長は、前条の入学手続(第53条の規定により、入学料の免除又は徴収猶予の申請を行った者は、前条第1号の手続を除く。)を完了した者に入学を許可する。

2 学長は、入学を許可した者に対して、入学時に学生証を交付する。

(転学部等)

第20条 学生から転学部の願い出があったときは、関係学部教授会の議を経て、学長が許可することがある。

2 前項の規定により転学部を許可された者の修業年限等に関しては、第17条の規定を準用する。

3 前2項の規定は、学科及び課程を変更する場合について準用する。この場合において、第1項中「関係学部教授会」とあるのは「所属学部教授会」と読み替えるものとする。

(休学)

第21条 学生が疾病その他の理由により、引き続き2か月以上修学を中止しようとするときは、所属学部長を経て、学長に休学を願い出て、許可を受けなければならない。

(休学期間)

第22条 休学は、引き続き1年を超えることができない。ただし、特別の理由があるときは、更に1年以内の休学を許可することがある。

2 休学期間は、通算して4年(医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科にあつては6年)を超えるこ

とができない。

3 休学期間は、第6条及び第45条の期間に算入しない。

(復学)

第23条 休学期間が満了したとき又は休学期間中にその理由がなくなったときは、所属学部長を経て、学長に復学を願い出て、許可を受けなければならない。

(留学)

第24条 学長は、学生が外国の大学又は短期大学で学修することが教育上有益であると所属学部教授会において認めるときは、あらかじめ、当該外国の大学又は短期大学と協議の上、学生が当該外国の大学又は短期大学に留学することを認めることがある。

2 留学の期間は、第6条及び第45条の期間に算入する。

(退学)

第25条 学生が退学しようとするときは、所属学部長を経て、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

(転学)

第26条 学生が他の大学に転学しようとするときは、所属学部長を経て、学長に願い出て、受験の許可を受けなければならない。

(再入学)

第27条 第25条による退学者が、退学後2年以内に退学前に所属していた学部の学科又は課程に再入学を願い出た場合は、当該学部教授会の議を経て、学長が許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者については、本学退学時までの在学期間、休学期間、留学期間及び停学期間は入学後の当該期間に通算するものとし、既に履修した授業科目について修得した単位の取扱いについては当該学部教授会の議を経て、学長が定めるものとする。

(除籍)

第28条 学生が次の各号の一に該当するときは、所属学部教授会の議を経て、学長がこれを除籍する。

(1) 正当の理由なくして欠席が長期にわたるとき。

(2) 成業の見込みがないと認めたとき。

(3) 在学期間が修業年限の2倍を超えたとき又は休学期間が第22条第2項の期間を超えたとき。

(4) 休学期間が満了しても復学の願い出をしないとき。

(5) 授業料を納めないとき。

(6) 第53条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請した者で、次に掲げるものが納めるべき入学料を所定の期日までに納めないとき。

ア 免除又は徴収猶予が許可されなかったもの

イ 入学料の一部の免除が許可されたもの

ウ 徴収猶予が許可されたもの

第4章 教育課程の編成, 授業科目の区分等, 単位, 履修方法, 考査及び単位の授与

(教育課程の編成)

第29条 教育課程は, 本学, 学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するため, 大学教育における基本的教養を会得させ併せて専門の幅広い基盤を理解させることを目的とした教養教育に関する授業科目(以下「教養教育科目」という。)及び学部等の専攻に係る専門教育に関する授業科目(以下「専門教育科目」という。)を有機的に組み合わせて, 体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては, 学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに, 幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い, 豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目の区分)

第30条 教養教育科目の区分は, 次のとおりとする。ただし, 夜間主コースにあつては健康・スポーツ科学科目, キャリア教育科目及び地域科学科目を除くものとする。

教養ゼミナール科目

情報科学科目

健康・スポーツ科学科目

キャリア教育科目

地域科学科目

外国語科目

全学モジュールⅠ科目

全学モジュールⅡ科目

学部モジュール科目

自由選択科目

2 専門教育科目の区分は, 各学部の履修に関する規程(以下「学部規程」という。)の定めるところによる。

3 第64条に規定する外国人留学生及び外国人留学生以外の学生で外国において相当の期間中等教育(中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。)を受けた者(以下この章において「外国人留学生等」という。)の教育について必要があると認めるときは, 第1項に規定する科目のほか, 留学生用科目を開設する。

4 各授業科目を, 必修科目, 選択科目及び自由科目に分ける。

(授業科目の開設)

第31条 教養教育科目は, 本学のすべての教員の参画により開設するものとする。

2 専門教育科目は, 各学部の教員により開設するものとする。

(授業の方法)

第32条 授業は, 講義, 演習, 実験, 実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(1単位当たりの授業時間)

第33条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じた1単位当たりの授業時間は、次の基準によるものとする。

(1) 講義については15時間

(2) 演習については30時間

(3) 実験、実習及び実技については45時間

2 前項の基準どおりできない事情があるとき又は教育効果を考慮して必要があるときは、前項第1号の講義及び前項第2号の演習については15時間から30時間の範囲で、前項第3号の実験、実習及び実技については30時間から45時間の範囲で、学部規程又は長崎大学教養教育履修規程（平成24年規程第2号。以下「教養教育履修規程」という。）において定めることができる。ただし、講義、演習、実験、実習又は実技の併用により行う授業及び芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、学部規程又は教養教育履修規程の定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

3 前2項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(授業期間)

第34条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

(成績評価基準等の明示等)

第34条の2 各学部は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 各学部は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第34条の3 各学部は、当該学部の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(他学部における授業科目の履修等)

第35条 学生が他学部の授業科目を履修することが教育上有益であると各学部において認めるときは、当該授業科目を履修させることができる。

2 学生は、他学部の開設する授業科目を履修しようとするときは、所属学部長を経て、当該授業科目を開設する学部長の承認を受けなければならない。

3 前2項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位の取扱いは、学部規程の定めるところによる。

(本学大学院における授業科目の履修等)

第35条の2 学生が本学大学院に進学を希望し、当該大学院の授業科目を履修することが教育上有益であると各学部において認めるときは、当該授業科目を履修させることができる。

2 学生は、本学大学院の開設する授業科目を履修しようとするときは、所属学部長を経て、当該授業科目を開設する研究科長の承認を受けなければならない。

3 第1項の規定により学生が履修した授業科目について修得した単位は、所属学部の卒業の要件として学部規程で定める学生が修得すべき単位数（以下「卒業要件単位」という。）に含めることはできない。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第36条 学生が他の大学又は短期大学の授業科目を履修することが教育上有益であると各学部において認めるときは、あらかじめ当該他の大学又は短期大学と協議の上、学生が当該他の大学又は短期大学の授業科目を履修することを認め、その履修した授業科目について修得した単位は60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、第24条の規定により留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第37条 学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修について、教育上有益であると認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第38条 学生が本学に入学する前に次の各号の一に該当する単位を有する場合において、教育上有益であると認めるときは、その単位を入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(1) 大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位

(2) 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条第1項に規定する科目等履修生として
修得した単位

2 学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修について、教育上有益であると認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第36条及び前条第1項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（長期にわたる教育課程の履修）

第39条 学生が職業を有している等の事情により、第4条に規定する修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、長崎大学長期履修規程（平成18年規程第47号）の定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

（外国人留学生等に係る留学生用科目の単位の取扱い）

第40条 外国人留学生等が留学生用科目について修得した単位は、教養教育履修規程の定めるところにより、教養教育科目として修得すべき単位に代えることができる。

（履修科目の登録の上限）

第41条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業要件単位について、学生が1学年又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を学部規程で定めることができる。

2 前項の場合において、学部規程の定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に規定する上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

（考査及び単位の授与）

第42条 学生が一の授業科目を履修した場合には、考査を行い、合格した者に対しては、単位を与える。

2 考査は、試験、論文、報告書その他の方法により行うものとする。

第43条 考査及び単位の認定は、学部規程又は教養教育履修規程の定めるところによる。

（履修方法等）

第44条 この章に定めるもののほか、教育課程の編成、授業科目の名称、単位数、履修方法、履修科目の登録の上限、考査及び単位の授与等については、学部規程及び教養教育履修規程の定めるところによる。

第5章 卒業及び学位並びに教員の免許状授与の所要資格の取得

（卒業及び学位の授与）

第45条 第4条に規定する期間（第15条及び第16条の規定により入学を許可された者については、第17条第1項の規定により定められた在学すべき年数）以上在学し、卒業要件単位を修得した者については、所属学部教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学士の学位を授与する。ただし、各学

部において必要と認めるときは、在学期間及び卒業要件単位に加え、卒業の要件を課すことができる。

2 卒業要件単位のうち、第32条第2項の授業の方法により修得できる単位数は、別に定めのある場合を除き60単位を超えないものとする。

第46条 学部（医学部医学科、歯学部及び薬学部薬学科を除く。この条において同じ。）に3年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣の定める者を含む。）が、卒業要件単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第4条の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

2 前項に規定する卒業の認定は、次の各号に掲げる要件のすべてに該当する場合に限り行うことができる。

(1) 学修の成果に係る評価の基準その他の前項に規定する卒業の認定の基準を定め、それを公表している学部の学生であること。

(2) 第41条に規定する履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、適切に運用している学部の学生であること。

(3) 学生が卒業要件単位を修得し、かつ、当該単位を優秀な成績をもって修得したと認められること。

(4) 学生が前項に規定する卒業を希望していること。

第47条 学位の授与等については、長崎大学学位規則（平成16年規則第11号）の定めるところによる。

（教員の免許状授与の所要資格の取得）

第48条 本学の学部の学科等において、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得した者は、教員の免許状授与の所要資格を取得することができる。

2 前項の規定により所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表第2のとおりとする。

第6章 賞罰

（賞罰）

第49条 学生として表彰に値する行為があった場合は、学長は、所属学部長等の推薦により表彰することがある。

第50条 学生が本学の規則に背き大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反する行為があったときは、長崎大学教育研究評議会の議を経て、学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 停学は、確定期限を付す有期の停学及び確定期限を付さない無期の停学とする。

4 停学の期間が1か月以上にわたるときは、その期間は、第6条の期間に算入し、第45条及び第46条の卒業の要件として在学すべき期間に算入しない。

第7章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

（検定料）

第51条 入学、転入学、編入学及び再入学を志願する者は、検定料を納めなければならない。

(検定料等の額及びその徴収方法等)

第52条 検定料、入学料及び授業料の額並びに徴収方法等は、この学則に定めるもののほか、長崎大学授業料、入学料、検定料及び寄宿料徴収規程(平成16年規程第92号。以下「徴収規程」という。)の定めるところによる。

(入学料の免除及び徴収猶予)

第53条 特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者については、本人の願い出により、入学料の全部又は一部を免除し、又は徴収猶予することがある。

2 入学料の免除及び徴収猶予については、長崎大学入学料、授業料及び寄宿料の免除等に関する規程(平成16年規程第93号。以下「免除規程」という。)の定めるところによる。

(授業料の納期)

第54条 授業料は、前期分及び後期分の2回に分け、それぞれ年額の2分の1に相当する額を次に定める期間に納めなければならない。

前期分 4月1日から4月30日まで

後期分 10月1日から10月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、前期分に係る授業料を納めるときに、当該年度の後期分に係る授業料を併せて納めることができる。

3 入学年度の前期分又は前期分及び後期分に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可されるときに納めることができる。

(授業料の免除及び徴収猶予)

第55条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者その他やむを得ない事情があると認められる者に対しては、願い出によりその事情を審査し、授業料の全部又は一部を免除し、又は徴収猶予することがある。

2 前項の授業料の免除及び徴収猶予については、この学則に定めるもののほか、免除規程の定めるところによる。

第56条 前条に規定する授業料の徴収猶予の期限は、前期分は9月15日限りとし、後期分は3月15日限りとする。

第57条 第54条に規定する授業料の納期中に休学を許可された者については、休学当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。ただし、月の初日から休学期間が開始する場合については休学当月の分、第8条第2項及び第9条第2項の規定により後期の開始日が10月1日前となる場合で当該後期の開始日に復学するときについては復学当月の分についても免除する。

第58条 退学する者、転学する者、停学を命ぜられた者又は除籍される者については、その期分の授業料を徴収する。ただし、免除規程の規定に該当する場合は、この限りでない。

(寄宿料)

第59条 寄宿料の額及び徴収方法等については、徴収規程の定めるところによる。

2 学生に特別の事情がある場合は、寄宿料を免除することがある。

3 寄宿料の免除については、免除規程の定めるところによる。

(料金の返還)

第60条 既納の料金は、返還しない。ただし、次の各号の一に該当する場合は、当該料金の相当額(第2号の場合にあつては第1号に規定する第2段階目の選抜に係る検定料に相当する額を、第4号の場合にあつては後期分の授業料相当額)を返還するものとする。

(1) 選抜試験において、出願書類等による選抜(以下「第1段階目の選抜」という。)を行い、その合格者に限り学力検査等による選抜(以下「第2段階目の選抜」という。)を行い、最終合格者を決定する場合に、第1段階目の選抜の不合格者が、所定の期日までに第2段階目の選抜に係る検定料の返還を申し出たとき。

(2) 個別学力検査の前期日程又は後期日程(以下「前期又は後期試験」という。)の出願受付後に各学部等が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験していないことにより受験資格がないことが判明した者が、所定の期日までに前期又は後期試験に係る検定料の返還を申し出たとき。

(3) 第54条第3項の規定により入学を許可されるときに授業料を納めた者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退し、授業料の返還を申し出たとき。

(4) 第54条第2項又は第3項の規定により前期分の授業料を納入する際に後期分の授業料を併せて納入した者が、後期分の授業料の納入時期前に休学又は退学したとき。

第8章 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、特別の課程及び外国人留学生

(科目等履修生)

第61条 各学部の学生以外の者で、本学が開設する授業科目のうち一又は複数の授業科目について履修を希望するものがあるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

(研究生)

第62条 本学において特殊の事項について研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

(特別聴講学生)

第63条 他の大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)の学生で、本学の特定の授業科目を履修することを希望するものがあるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に係る検定料及び入学料は、徴収しない。

3 特別聴講学生に係る授業料については、科目等履修生と同様とする。

4 前項の規定にかかわらず、特別聴講学生が大学間交流協定において授業料を徴収しないこととしている外国の大学若しくは短期大学の学生又は大学間相互単位互換協定において授業料を徴収しないこととしている大学若しくは短期大学の学生であるときは、授業料を徴収しない。

5 既納の授業料は、返還しない。

6 実験、実習に要する実費は、必要に応じ特別聴講学生の負担とする。

(特別の課程)

第63条の2 学長は、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 本学の学生が前項に規定する特別の課程を履修することが教育上有益であると認めるときは、当該課程を履修させることができる。

(外国人留学生)

第64条 外国人留学生として本学に入学を希望する者があるときは、選考の上、入学を許可することがある。

(規程)

第65条 第61条から前条までに關する細部についての規則は、別に定める。

第9章 雜則

(寄宿舎)

第66条 本学に、寄宿舎を置く。

2 寄宿舎に關する規則は、別に定める。

(保健)

第66条の2 学生は、毎学年本学が行う健康診断を受けなければならない。

2 所属学部長は、学生の健康を管理し、必要に応じて治療を命じ、又は登学を停止することができる。

(補則)

第67条 この学則の施行に必要な事項は学長が定め、各学部に必要な規程については、学長の承認を得て、各学部長が定めるものとする。

附 則 (平成 年 月 日学則第 号)

1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1医学部医学科の項及び同表合計の項の入学定員は、平成31年度までの入学定員とする。

3 医学部の収容定員及び収容定員の合計は、改正後の別表第1医学部の項及び同表合計の項の規定にかかわらず、平成30年度については、次のとおりとする。

学部	学科・課程	平成30年度
医学部	医学科	731
	保健学科	452
	計	1,183

合計	7,063
----	-------

別表第1

学部	定員		入学定員	第3年次（医学部医学科にあつては第2年次）編入学定員	収容定員
	学科・課程				
多文化社会学部	多文化社会学科		100		400
	計		100		400
教育学部	学校教育教員養成課程		240		960
	計		240		960
経済学部	総合経済学科	昼間コース	265		1,060
		夜間主コース	60		240
				15	30
	計		325	15	1,330
医学部	医学科		120	5	745
	保健学科		106	14	452
	計		226	19	1,197
歯学部	歯学科		50		300
	計		50		300
薬学部	薬学科		40		240
	薬科学科		40		160
	計		80		400
工学部	工学科		380		1,520
	計		380		1,520
環境科学部	環境科学科		130	5	530

	計	1 3 0	5	5 3 0
水産学部	水産学科	1 1 0		4 4 0
	計	1 1 0		4 4 0
合計		1, 6 4 1	3 9	7, 0 7 7

別表第2

学部	学科等	教員の免許状の種類（免許教科・領域）	
多文化社会 学部	多文化社会学科	高等学校教諭一種免許状	(英語)
教育学部	学校教育教員養成 課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状 小学校教諭二種免許状	
		中学校教諭一種免許状 中学校教諭二種免許状	(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語)
		高等学校教諭一種免許状	(国語, 地理歴史, 公民, 数 学, 理科, 音楽, 美術, 書道, 保健体育, 家庭, 情報, 工業, 英語)
		特別支援学校教諭一種免 許状	(知的障害者, 肢体不自由者, 病弱者)
経済学部	総合経済学科	高等学校教諭一種免許状	(商業)
工学部	工学科	高等学校教諭一種免許状	(数学, 理科, 工業)
環境科学部	環境科学科	高等学校教諭一種免許状	(公民, 理科)
水産学部	水産学科	高等学校教諭一種免許状	(理科, 水産)

医学部の収容定員変更の趣旨等を記載した書類

1. 収容定員変更の内容

長崎大学医学部医学科の平成20年度以降の入学定員については、平成21年度に「緊急医師確保対策（H19.5）」による平成29年度までの期限を付した5名の臨時定員増、平成22年度に「経済財政改革の基本方針2009（H21.6閣議決定）」による平成31年度までの期限を付した15名の臨時定員増、平成23年度に「新成長戦略（H22.6閣議決定）」による平成31年度までの期限を付した1名の臨時定員増、平成28年度に「地域の医師確保等の観点」による平成31年度までの期限を付した2名の臨時定員増及び平成29年度に「地域の医師確保等の観点」による平成31年度までの期限を付した2名の臨時定員増をそれぞれ実施した。

平成29年度を期限とする5名の入学定員について、平成31年度までの期限を付した再度の定員増を行い、平成30年度について、入学定員の再度の定員増を行わなかった場合の115名から120名に変更する。

これに併せて、収容定員についても、平成31年度までの期限を付した再度の定員増を踏まえ、入学定員の再度の定員増を行わなかった場合の635名から645名に変更する。

2. 収容定員変更の必要性

長崎県の医師数は、人口10万人当たり299.7人（厚生労働省大臣官房統計情報部「平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査」）で、全国平均242.9人を上回っているが、地域偏在が顕著であり、離島・へき地においては、佐世保県北地区227.7人、県南地区174.6人、五島地区207.9人、上五島地区143.5人、壱岐地区155.6人、対馬地区168.8人と深刻な医師不足となっている。【長崎県の医師の状況（資料1）参照】

以上の状況を、喫緊の課題として捉え、平成20年度入学者からAO入試に定員5名の地域枠を設け、平成21年度には「緊急医師確保対策（H19.5）」により増員した定員5名をAO入試の地域枠に充当し、元々あった同枠の定員5名を一般入試（前期日程）に移した。

平成22年度には、AO入試の地域枠を推薦入試A（地域医療枠）に改編し、一般入試（前期日程）から定員10名を充当し、15名とした。また、同年度の「経済財政改革の基本方針2009（H21.6閣議決定）」に沿って増員した15名について、長崎県医学修学資金の貸与を条件として新設した推薦入試B（地域医療特別枠）に5名を充当、残りの10名を一般入試（前期日程）に充当した。なお、この10名のうち4名は、当初計画において、県外枠（佐賀県・宮崎県）に充当することを予定していた。

よって、平成23年度には、推薦入試C（佐賀県枠及び宮崎県枠）を創設し、一般入試（前期日程）の定員4名を充当し、各枠2名の定員とした。また、同年度の「新成長戦略

(H22.6閣議決定)」により増員した1名を一般入試(前期日程)に充当した。

平成24年度には、平成23年度「新成長戦略(H22.6閣議決定)」により増員した1名を、推薦入試B(地域医療特別枠)の定員とした。平成28年度には「地域の医師確保等の観点」による定員増2名を推薦入試B(地域医療特別枠)の定員とし、更に平成29年度には「地域の医師確保等の観点」による定員増2名を推薦入試B(地域医療特別枠)の定員とした。現在は、推薦入試A(地域医療枠)15名、推薦入試B(地域医療特別枠)10名の定員としている。

しかしながら、多くの離島を抱える本県にあつては、かねてよりの医師不足に重ね専門医指向等により都市部病院へ医師が集中し、地域間の医師の偏在が顕著になっており、特に離島及び本土の県北部における医師不足は厳しい状況が続いていることから、長崎県と協議した結果、本学では平成29年度を期限とする入学定員の再度の定員増を行い、平成30年度の推薦入試B(地域医療特別枠)を5名増員するとともに、平成29年度まで当該期限付き定員が含まれ、平成30年度から5名定員減となる推薦入試A(地域医療枠)についても、地域枠でない推薦入試枠から定員5名を充当することにより、現在の定員数を確保し、医師偏在の非常事態に直面する離島・へき地への地域医療人育成について今後も継続して取り組む。

3. 収容定員変更に伴う教育体制等

本学医学部は、長崎県内の地域医療を担う医師を養成するために、これまでも次のとおりの医学教育プログラムを実践してきた。

- 1) 地域医療人基盤育成のために、1年次から主に地域枠学生を対象に開講している「地域医療ゼミ・医学ゼミ」では、県北部地域の平戸市、県島嶼部の五島市へ2泊3日の地域医療集中セミナーを開催し、ワークショップ、講義、施設見学等を通して地域包括医療・ケアの実際を学び、地域に親しむための取組を実施している。【地域医療セミナー実施要領(資料2)参照】

さらに、能動学習プログラムの一環として、地域枠1～3年生で構成された学生実行委員会が主体となって地域医療に関連したテーマでワークショップを企画し、長崎県の地域医療について理解を深めるため、毎年10月に活動報告会を開催している。平成28年度からは本活動報告会に長崎県内の臨床研修病院の医師に参加してもらい、県内地域医療の理解と地域医療に従事するモチベーションを高める取組を行っている。

また、地域枠学生に限らず、広く地域医療に興味を持つ学生等を対象に、県内外の地域医療に従事している医師を講師として招き、地域医療の実際について学ぶ地域医療研究会を開催している。

- 2) 平成16年度文部科学省企画「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に本学の「地域と連携した実践型医学教育プログラム」が採択され、①患者との良好なコミュニケーションを構築し、病気を診るだけでなく患者の心と置かれている環境を

洞察する全人的医療を実践することができ、②医療チームや家族と力を合わせ、患者の社会への復帰を真摯に目指す（包括的保険）医師、「現在版“赤ひげ医師”」を育成することを目的に、医学部4～5年生全学生を対象として、長崎県の特徴である離島をフィールドとした1週間の離島医療・保健実習を必修化している。本プログラムは、地域（離島）医療に貢献できる医療人の育成という地域の切実な要請に応える本学の特色ある取組の1つである。学生の反応も良好で、本実習の延長線上にある5～6年次高次臨床実習（選択制）では、平成17年度から平成29年度（前期）までの13年間で、のべ141名が離島の中核病院での実習を選択している。

- 3) 平成20年度には文部科学省企画「質の高い大学教育推進プログラム」に採択された「地域医療人育成プラットフォームの構築～長崎県離島における医・歯・薬共修を柱とした地域医療一貫教育プログラム「長崎モデル」の開発～」によって、離島医療・保健実習において本学薬学部6年生、歯学部5年生又は6年生、医学部保健学科4年生と医学科学生の共修実習を導入した。本教育プログラムによって、病院や診療所、及び介護サービス等の地域包括医療・ケアの現場で不可欠であるチーム医療の教育に取り組んでいる。なお、他大学医学部学生からの実習希望も可能な限り受け付けており、福岡大学医学部とは教育協定を締結のうえ、長崎県離島の保健・医療・福祉施設で定期的な地域医療・保健実習を行っている。
- 4) 平成16年5月、長崎県及び関連する下五島地区1市5町（現五島市）による寄附講座として、本学大学院医歯薬学総合研究科に「離島・へき地医療学講座」を開講し、開講と同時に離島での活動拠点として長崎県五島中央病院内に「離島医療研究所」を設置した。本研究所には教員3名が常駐しており、本学医学部が推進する離島医療・保健実習のマネジメントと指導を担当している。また、指導者の育成と地域基盤型医学教育の質的向上を目的として、地域の実習指導者を対象に、対馬市、壱岐市、新上五島町、五島市で毎年FDを実施している。
- 5) 長崎大学病院の卒後臨床研修プログラムでは、長崎県内15か所の協力病院において1年間の研修を受けることが可能であり、研修医全体の8割以上が当該研修を受けている。また、地域医療研修プログラムを必修科目として1か月以上3か月未満の短期研修を実施しており、県内の離島・へき地を中心として48施設の地域医療研修施設を整備している。なお、特別コースとして、地域枠に特化した家庭医・総合医コースも用意している。

また、長崎県の医学修学資金貸与制度では、返還免除の必要勤務期間（9年）内に長崎県本土の基幹病院における臨床研修、再研修及び定着勤務の期間を合計4.5年間設け、医師の先端医療研修の機会を確保している。

【長崎県医学修学資金貸与制度（資料3）参照】

- 6) 「地域医療等の社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム教育支援プログラム（平成17年度医療人GP採択）」により、本学病院に「へき地病院再生支援・教

育機構」が設置された。県北部の医療過疎地域にある平戸市民病院に教育拠点を開設し、大学から指導医（准教授）1名を配置して、地域医療の専門家を養成する初期・後期研修プログラムを提供している。へき地病院再生支援・教育機構では県北医療施設と連携してコンソーシアムを組織し指導体制を充実させるとともに、県内外から多くの研修医を受け入れており、県北部の医療機関で在宅医療等を含めた実践的な地域医療研修を実施している。

- 7) 平成24年度には、大学院医歯薬学総合研究科に地域医療学分野を新設し、教授1名、助教2名を配置して、地域医療に関する研究と長崎県本土における地域医療教育、および地域枠学生の指導体制を強化した。この地域医療学分野と従来から地域医療教育を展開していた離島・へき地医療学講座によって、長崎県全域で入学初年次から6年次まで一貫した実践的な地域包括医療・ケア教育を提供する体制を整えた。
- 8) 平成25年度未来医療研究人材養成拠点形成事業の採択をうけ、大学院医歯薬学総合研究科に「地域包括ケア教育センター」（教授1名、助教6名）を設置した。本センターが中心となって、主に長崎市内の在宅医療・介護関連施設において医学部医学科生4～6年生全員を対象とした地域包括ケア実習を開始した。さらに、福祉系大学である長崎純心大学との連携のもと、実習やシミュレーション教育、多職種ワークショップなどを駆使して地域包括ケアシステムを基盤とした地域における専門職連携教育を展開している。
- 9) 平成28年度に医学部委員会に進路指導委員会を新設し、地域枠学生全員に対して定期的な面接と進路指導を行うほか、地域枠学生に対するキャリア形成支援を実施している。

以上のような本学医学部の教育体制と実績を踏まえて、地域枠学生には基本的に一般入試の学生と同じカリキュラムを提供するが、これに加えて、特別プログラムを整備し、広く地域医療に関する学びの機会を提供していく方針である。長崎県内の地域医療への理解はもちろん、地域文化そのものへ親しみを育む地域基盤型医学教育を幅広く展開することで、地域の医師確保対策につなげていく計画である。従前から本学医学部のカリキュラムでは、地域医療、離島医療及びへき地医療の特色であるプライマリ・ケア主体の医療にも着目し、「医と社会」、「医学ゼミ」、「リサーチセミナー」、「臨床実習」、「高次臨床実習」等のカリキュラムの中に地域医療等に関する内容が網羅されている。さらに、平成28年度入学者から「地域医療学」を開講予定であるが、医師の偏在が続く県北部地域への臨床実習派遣及び地域枠の入学者の卒業時の出口管理を含めて、地域医療に係るカリキュラムとして各学年においては次のような対応を行う。

【現行の医学部カリキュラムの概要と特徴的な科目のシラバス（資料4）参照】

1) 1年次への対応

医学入門として開講している「医と社会」は、本学医学部保健学科と連携した共修型

の早期体験科目であり、地域包括ケア教育センター及び先端医育センターの講師陣を中心として、チーム医療や全人的医療等をテーマとした講義の後に大学病院、リハビリテーション施設等での実習を行うことで、病める人の立場に立った医療を実感することができる。また、患者や利用者に直接接することで地域包括ケアシステムを理解し、診療器具を実際に操作する中で診察の心得を修得する。

少人数教育として行う選択必修科目「医学ゼミ」には、地域医療（県北地域）、総合医療、離島医療をテーマとしたゼミを開講しており、地域枠の学生については必修科目としている。

2) 2～3年次への対応

標準履修年次の全学生を対象にした「医と社会」において、引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深める。また、2年次は高齢者介護施設（老健施設等）実習の時間を作り、体験を通して患者とのコミュニケーションの取り方、高齢者との接し方を学び、さらに3年次には地域診療所で実習を行い、診察、介護等の体験実習を通して内在する問題を抽出し自己問題解決能力を身に付け能動学習法を実践する。

3) 4～6年次への対応

4年次から開始する臨床実習については、平成27年度から臨床実習を65週に増やし、地域包括ケア教育センター主導の実習を組み込んだ。また従前から、学生全員が履修する地域病院実習、離島医療・保健実習、地域包括ケア実習にそれぞれ1週間の期間を予定しており、詳細については以下のとおりである。また、医師不足が深刻で初期臨床研修のマッチ率が低い県北部での地域病院実習について、基幹型臨床研修病院（4病院）における実習を平成28年1月から開始した。

なお、平成28年度入学者から4年次生を対象に、新規科目として「地域医療学」を開講することにより、臨床実習開始前に全学生が地域医療への理解を深め、実践学習のより効果的な修得を目指す予定である。

a. 地域病院実習

地域病院実習は、長崎県全域の地域中核病院において診療参加型の実習を行い、地域中核病院の機能と役割について学ぶ。

b. 離島医療・保健実習

離島医療・保健実習は、平成16年度から実施している長崎県離島における包括的な地域医療・ケアの体験実習であり、平成27年度から壱岐市を加えたことで長崎県内離島の全域で展開している。学生は、対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町、小値賀町のいずれかに1週間滞在し、保健・医療・福祉・介護施設において包括的な離島医療の実際を学ぶ。壱岐市、五島市、新上五島町では医学部医学科、医学部保健学科、歯学部、薬学部の共修を行い、多職種の職能理解を目指したチーム医療教育を推進す

る。

c. 地域包括ケア実習

地域包括ケア実習は、長崎市内の地域包括支援センターと訪問看護ステーションにおいて、主に在宅における地域包括ケアについて実践的な実習を行う。

4年生から始まる臨床実習が終了した後、5～6年生全員を対象として、長崎県離島と本土の地域中核病院において最低4週間にわたって学ぶ長期間の診療参加型実習を行っている。また、地域枠入学者については、地域医療学分野教員による面談を受け、卒業後のキャリアパスについての指導を受けている。

なお、6年生の学習室として各自に机を与え、10名～15名一組の部屋を9部屋用意し、国家試験に向けて集中できる環境を提供している。さらには国家試験対策として、保護者で構成する教育後援会の予算で模擬試験受験料を負担し、機会の均等化を図っており、先端医育センターが定期的に学習部屋を訪問し、激励・指導するほか、国家試験対策専門部会長と連携のうえCBT及び模擬試験の成績下位学生（スロースターター）に対しては、面談の機会を設けて個別指導している。

資料1 長崎県の医師の状況

長崎県の医師の状況

(医師・歯科医師・薬剤師調査：H26.12)



長崎県二次医療圏別医師数(人口10万対)

【無職等を除く】

資料2 地域医療セミナー実施要領

平成29年度第5回長崎地域医療セミナーinGOTO実施要領

8月20日(日) セミナー1日目		
7:00	7:15	長崎港 大波止ターミナル集合
8:00	8:05	長崎港出発(九州商船フェリー)
9:00		~
10:00		
11:00	11:15	福江港着
		移動
12:00	12:00	五島市表敬訪問(五島市福江総合福祉保健センター)
	12:30	食事・昼休み
13:00	13:00	開会挨拶:長崎大学離島医療研究所 所長 前田 隆浩・学生実行委員会 委員長 塚崎 晃 アイスブレイキング 学生実行委員会
	13:45	ワークショップ① 全体説明・症例提示 学生実行委員会
14:00	13:45	講義① 徳洲会グループ 家庭医療部 佐野 潔 先生 「これから始まる家庭医療専門医くあなたは何かができるか?何をすべきか?>」
	14:45	休憩
15:00	15:00	講義② 長崎みなとメディカルセンター 宮川 江利 先生 「急性期病院におけるソーシャルワーク」
	15:30	ワークショップ② 事例検討 学生実行委員会
16:00	16:30	講義③ 井上内科小児科医院 井上 効子 先生 「当院における在宅医療の実際」
17:00		移動・チェックイン等
18:00	18:00	
19:00		ウェルカムレセプション さんさん富江キャンプ村
20:00	20:00	
21:00		入浴等 談話室(フェニックス)開放
	22:00	

8月21日(月) セミナー2日目

7:00	7:00	朝食・準備など
8:00		移動・会場設営など
9:00	9:00	講義④ 長崎県上五島病院 八坂 貴宏 先生
	9:30	上五島地域における地域包括ケアの現状と将来 ～最も少子高齢化の進む2次医療圏において～
	9:30	講義⑤ 五島市長寿介護課 大山 智保子 先生
	10:00	「五島市の高齢者支援の現状」
10:00		休憩
	10:15	
		講義⑥・実習① 長崎大学病院 救命救急センター 山下 和範 先生
11:00		「大切な人を救うために 胸骨圧迫とAED」
	11:30	
	11:30	「ワークショップ③ 事例検討 学生実行委員会」
	12:00	
12:00	12:00	昼食・お昼休み
	12:30	
		講義⑦ 各医療機関および施設について
13:00		実習② 島内医療機関実習
14:00		1. 長崎県五島中央病院
		2. 五島市長寿介護課
		3. 特別養護老人ホーム只狩荘
		4. 聖マリア病院
		5. 長崎県奈留医療センター
15:00		6. 久賀診療所
		7. 伊福貴診療所
	16:00	
16:00	16:00	「ワークショップ④ 事例検討 学生実行委員会」
	17:00	
17:00	17:00	移動・入浴など
	18:00	
18:00	18:00	
		意見交換会
19:00		富江たっしやかランド
	20:00	
20:00		片付け・移動など
	21:00	
21:00	21:00	談話室(フェニックス)開放
	22:00	

8月22日(火) セミナー3日目

7:00	7:00	朝食・準備など
8:00	8:00	チェックアウト・移動
9:00	8:30	「ワークショップ⑤ 学生実行委員会」
10:00	9:30	「ワークショップ⑥ 発表(前半)」
11:00	10:30	休憩
12:00	10:45	「ワークショップ⑦ 発表(後半)」
13:00	12:00	総括・アンケート記入
14:00	12:15	昼食
15:00	12:30	「実習③ 地域体験実習」
16:00	16:00	福江港着
17:00	16:30	福江港発 九州商船(ジェットフォイル)
	16:50	福江港発 九州商船(フェリー)

第12回 Summer Camp 2017 in Hirado スケジュール

テーマ：日本のいろんなところで地域医療

～北・島・まちのドクターがあつまる！～

1日目 8月25日 (金)	
10:00	佐世保駅発 (移動：送迎バス)
11:30	オリエンテーション (平戸市未来創造館COLAS平戸 1Fホール) 平戸市長挨拶 在宅医療ショートレクチャー
12:30	昼食
13:00	地域医療実習 ・柿添病院 ・青洲会病院 ・平戸市立生月病院 ・平戸市民病院
16:30	まとめ
17:20	(レジデントハウス 2F研修室) 受付 (サン・ケア平戸 研修室)
17:30	地域医療講演会 I (サン・ケア平戸 研修室) 講師：譜久山 剛 (医療法人社団医仁会 ふくやま病院 理事長)
19:00	演題：「まち医者のお仕事」 移動 (送迎バス)
19:30	夕食兼懇親会
21:00	(ホテル蘭風)
2日目 8月26日 (土)	
7:00	朝食
8:30	ホテル発 移動 (送迎バス)
9:00	地域体験
12:00	昼食 (サン・ケア平戸 研修室)
13:00	シンポジウム I テーマ：離島・海外の医療～地域医療の輝くところ～ 講師：黒田 格 (南大東診療所 所長)
14:00	講師：佐藤隼人 (元JICA職員) 休憩
14:30	ワールドカフェ (サン・ケア平戸研修室)
16:00	テーマ：まち・島・へき地で地域医療 休憩
16:30	地域医療講演会 II (サン・ケア平戸 研修室) 講師：永森克志 (ささえるクリニック岩見沢 院長)
18:00	演題：「2050年の日本の縮図夕張から学ぶ最強の地域医療とまちづくり」 記念撮影
18:30	懇親会 BBQ
20:30	(病院駐車場) 移動 (送迎バス)
21:00	ホテル着

3日目 8月27日 (日)

7:00	朝食
8:20	ホテル発
	移動 (送迎バス)
	受付 (サン・ケア平戸 研修室)
9:00	シンポジウムⅡ テーマ：地域医療の未来～私のキャリア～ 講師：岩田知真 (国民健康保険 平戸市民病院 専攻医) 講師：小田真哉 (長崎県上五島病院 専攻医)
10:30	講師：本石裕也 (長崎県上対馬病院 専攻医)
	休憩
10:45	ワークショップ (サン・ケア平戸研修室、通所リハ)
12:15	テーマ：地域で輝く医療人
12:15	発表
12:45	
	移動 (送迎バス)
13:20	昼食 (シーサイドエリア・各自)
15:00	佐世保駅着

資料3 長崎県医学修学資金貸与制度

長崎県医学修学資金貸与制度

長崎県では、大学医学部を卒業後に離島・へき地の医療に進んで従事しようとする方に修学資金を貸与しています。

◎制度の概要

- (1) **対象者** 医学部入学生及び在学生
- (2) **募集時期・試験** 長崎大学推薦入試Bについては、大学へ出願をする前(11月)に県の面接を実施します(一般入試で入学された場合は、7月頃、面接等を長崎市内で実施)。

(3) 貸与金額

医学修学資金で貸与されるものは、①入学料、②授業料、③専門課程での学習図書購入費(3年生から6年生まで)、④生活費(月額7万円以内)で、平成29年度入学者への貸与金額(例)については次のとおりです。

【貸与額】平成29年度入学者:6年間の貸与総額(予定) 9,336,800 円

単位:円	入学料	授業料	図書費	生活費	年間貸与額
1年生次	282,000	535,800	—	840,000	1,657,800
2年生次	—	535,800	—	840,000	1,375,800
3～6年生次	—	535,800	200,000	840,000	1,575,800

- (4) **貸与利率** 年 14.5 %

(5) 返還免除について

卒業後、「履行すべき義務」を終えた場合に元金及び利息の返還を免除します。

(6) 履行すべき義務

貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間(うち、離島・へき地に2分の1以上の期間)、知事が指定する医療機関等(注1)への勤務が必要です。【下図:勤務例参照】

また、専門課程(概ね3年生以降)からの貸与者については、貸与を受けた期間の1倍に相当する期間(2年間の臨床研修期間は除き、離島・へき地勤務期間は別途知事が定める)、知事が指定する医療機関等への勤務が必要です。

※(注1)県、長崎県病院企業団(長崎県及び市町で構成する一部事務組合)等

勤務例 1年生から6年生まで貸与を受けた場合

(臨床研修期間を含めて貸与年数の1.5倍が全体の義務年数、うち1/2が要離島勤務)

勤務年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9
勤務形態	臨床研修	臨床研修	定着医	研修	定着医				
勤務地	(A)	離島	(A)	離島			(A)		

※(A)は知事が指定する医療機関等(研修期間は長崎医療センター等)

離島勤務4年6月

合計9年

(7) 貸与の取消について

次に該当する場合は貸与を取り消し、直ちに元金及び利息を返還することとなります。

- ・ 同一学年で2回留年した場合
- ・ 卒業までの在学合計年数が修業年限の2倍を超えた場合
- ・ 医師国家試験において3回不合格となった場合

(8) 在学中の離島地域等での研修

離島医療や地域医療への意欲向上や認識を深めるため、次のような離島地域等での研修を行います。

【夏期研修(サマーワークショップ)】毎年8月、離島地区で宿泊研修を実施します。

【離島等病院見学】夏休み期間中等に、長崎県病院企業団等の病院を見学(3年生から)。

【長崎県地域医療研究会】長崎県病院企業団の地域医療研究会等へ参加します。

【冬季研修(ウィンターミーティング)】先輩医師の講演や意見交換を行います。

(9) 卒業後の身分等

身 分：長崎県病院企業団等の地方公務員(臨床研修時は非常勤職員)

研 修：2年間の初期臨床研修期間のほかに、国立病院機構長崎医療センター等で最先端医療を学ぶための研修期間が設けられています。

長崎大学地域医療特別枠(推薦入試B)について

平成22年度から長崎大学に県の地域医療を担う人材を育成するための地域医療特別入学枠(推薦入試B)が設けられています。

入学者には、「長崎県医学修学資金」の貸与を行います。

【主な出願要件(平成30年度入試)】

高等学校又は中等教育学校を平成28年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当するもの

1. 長崎県内の小学校、中学校及び高等学校のいずれかを卒業した者
2. 地域医療を志し、学習成績概評がA又はA段階に属する者で、人物に優れ、長崎県の地域医療に貢献することを高等学校長等が責任をもって推薦できる者
3. 長崎県の推薦がある者
4. 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、医学科の地域医療特別枠所定のカリキュラムを履修し、大学卒業後は長崎県医学修学資金貸与制度に基づき長崎県が指定する長崎県内医療機関等で診療に従事することを確約できる者
5. 大学入試センター試験で、医学部が指定した教科・科目を受験する者
6. 合格した場合は、入学することを確約できる者

※ 選抜方法の詳細については、長崎大学のホームページをご覧ください。

○ 佐賀大学(1名)、川崎医科大学(6名)にも長崎県の地域枠が設定されています。

○ なお、一般入試で入学された場合でも、入学後に「長崎県医学修学資金」の申請を行うことができます。

お問い合わせ先

長崎県福祉保健部医療人材対策室

〒 850-8570 長崎市江戸町2-13

電 話 095-824-1111(代表)、095-895-2421(直通)

F A X 095-895-2573

E-mail s04045@pref.nagasaki.lg.jp

資料4 現行の医学部カリキュラムの概要と

特徴的な科目のシラバス

医学科の 特色あるカリキュラム

【医学科カリキュラムの重点項目】

- ① 医学領域における高い倫理観を身につけるための科目（医と社会）を1年次より4年次まで開講する。
- ② 医学領域における国際的な人材を育成するために外国人教員による医学英語を1年次より4年次まで開講する。
- ③ 医学領域における創造的能力・理論的思考力を修得するために3年次のリサーチセミナーにおいて基礎配属を行う。

多様なカリキュラム

【地域医療枠、地域医療特別枠】

地域医療ゼミにより地域医療に関する理解を深め、将来長崎県の地域医療に貢献する臨床医を育成する。

【グローバルヘルス研究医枠】

グローバルヘルスあるいは基礎医学研究等に興味があり、医学の発展に携わるといふ目標とそれを貫く強い意志を有する人を求める。入学後は、以下の4つのコースのいずれか1つに所属し、医学研究に必要な基礎知識の習得や研究内容の発展を行い、将来の研究医に必要な基礎を築く。

- ① 熱帯医学研究医コース
- ② 国際保健医療コース
- ③ 一般研究医コース
- ④ 法医学コース

卒業後は長崎大学大学院歯歯学総合研究科（医学系基礎研究分野）に進学する。

教育目標

1年次

医学の基礎と医学における倫理の重要性を学ぶ。

医と社会I

【正常構造と機能】

生体分子系
人体構造系I
発生・組織系
内臓機能・体液系I

【学部モジュール】

医科生物学入門
医学史・原簿医学と長崎
Communication Skill in English
医学統計学

2年次

医学基礎と共に疾患について学ぶ。

医と社会II

【正常構造と機能】

人体構造系II
神経・感覚器系
動物性機能系
内臓機能・体液系II
分子遺伝系

【疾患総論】

感染症
免疫系
腫瘍系
遺伝因子系

3年次

疾患について学ぶと共に基礎研究について実習を行う。

医と社会III

【疾患総論】

病理総論系
基礎医学TBL
薬理系

【疾患各論】

血液・リンパ系
循環器系
呼吸器系
感染症系
腎泌尿器系
内分泌・代謝・栄養系
消化器系
運動系
生殖系

【診療の基本】

放射線医学
臨床検査医学

【基礎研究実習】

リサーチセミナー

4年次

疾患と共に診療の基本について学ぶ。

医と社会IV

【正常構造と機能】

人体構造系III

【疾患各論】

精神系
免疫・アレルギー系
脳・神経系
皮膚系
視覚系
耳鼻咽喉口腔系
小児系

【医学・医療と社会】

衛生学・分子疫学
公衆衛生学
法医学系
地域医療学

【診療の基本】

診断学
外科治療学
臨床疫学・医家情報学
臨床薬理学
東洋医学
総合病理学
臨床推論PBL

【臨床実習】

臨床実習

5年次

疾患と診療の知識をふまえて臨床実習を行う。

【臨床実習】

臨床実習
高次臨床実習I

6年次

疾患と診療の知識をふまえて高次の臨床実習を行う。

【臨床実習】

高次臨床実習II

卒業試験

医学英語

医学ゼミ

※研究医枠

※国際医枠

※熱帯医枠

※地域医枠

医学英語

医 と 社 会 I

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年（前期・後期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

医学生として、プライマリヘルスケアから先進医療についてまで幅広い知識を得るとともに、チーム医療および医療に必要な患者とのコミュニケーションスキルを学ぶ。また、病院やリハビリテーション施設での体験実習を通して、医師の立場や病める人の立場から見た医療・リハビリテーション・介護について実感する。さらに地域包括ケアシステムを理解し、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。その他にも、情報収集法の会得などの学び方を学び、医学書にはない“大切なこと”を学ぶ。

2. 授業内容（講義・実習項目）

1) 実習

- (1) 学内演習（保健学科と共修）
- (2) 病院見学 長崎大学病院医局
- (3) 患者に寄り添う心得
- (4) 学外施設見学 リハビリテーション施設（保健学科と共修）

2) 医学テーマ

- (1) チーム医療・ワークショップ（保健学科と共修）
- (2) 実習の心得：病院オリエンテーション（保健学科と共修）
- (3) プロフェッショナリズム
- (4) 地域包括ケアシステム
- (5) 地域医療
- (6) 臓器移植・再生医療
- (7) 熱帯医学
- (7) 対人関係
- (8) プライマリヘルスケア
- (9) グローバルヘルス
- (10) 臨床倫理
- (11) 図書館の利用法

3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する

4. 成績評価の方法・基準

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、西野文子、松坂雄亮、野口郁恵
 保健学科教務委員会：楠葉洋子、松浦江美、森藤香奈子、坂本淳哉、岩永竜一郎
 保健学科：澤井照光、沖田実、東登志夫、宮原春美
 保健学実践教育研究センター：井口茂
 地域医療学：前田隆浩、小屋松淳
 長崎大学病院長：増崎英明
 長崎大学病院看護部長：貞方三枝子
 長崎大学病院リハビリテーション部：
 先端医育センター：安武亨、田中邦彦、江川亜希子、北山素
 医療教育開発センター長：浜田久之、小畑陽子
 学術情報部（図書館担当者）：志波原智美
 非常勤：荒木利卓（長崎医療センター）
 非常勤：八坂貴宏（長崎県離島医療圏組合上五島病院長）

熱帯医学研究所長：平山謙二
第二外科教授：江口晋
非常勤：永田耕司（活水女子大学看護学部看護学科教授）
熱帯医学研究所教授：有吉紅也

「ようこそ先輩」
産婦人科：増崎英明
臨床検査医学：柳原克紀
外傷センター：宮本俊之
第一内科：阿比留教生

6. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを実施する（授業科目の1/3未満）。

H29年度(1年前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室	
4	10	月	3	ようこそ先輩(1)「発生学と進化論」	長崎大学病院長 増崎 英明	第1講義室	
4	11	火	1	授業ガイダンス クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割(1) クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割(2) (保健学科と共修)	保健学科教務委員 教務担当理事 澤井 照光 各専攻主任 地域包括ケア教育センター	第2講義室	
			2				
			3				
4	17	月	3	ようこそ先輩(2)	臨床検査医学 柳原 克紀	第1講義室	
4	18	火	1	クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割(3) クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割(4) クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割(5) ワークショップオリエンテーション (保健学科と共修)	保健学科教務委員 病院長 増崎 英明 地域医療学 前田 隆浩・小屋松 淳 看護部長 貞方 三枝子 リハビリテーション部	第2講義室	
			2				
			3				
4	24	月	3	ようこそ先輩(3)「骨を診るコツ」	外傷センター 宮本 俊之	第1講義室	
4	25	火	1	ワークショップ(1) ワークショップ(2)発表 (保健学科と共修)	保健学科教務委員 各専攻主任 地域包括ケア教育センター	第2講義室	
			2				
			3				
5	1	月	3	ようこそ先輩(4)「代謝(タイシャ)学って、面白い!？」	第一内科 阿比留 教生	第1講義室	
5	2	火	1	病院見学実習のオリエンテーション (保健学科との共修)	地域包括ケア教育センター・保健学科・ 先端医学センター	第4講義室	
			2	医師のキャリアパスとプロフェッショナルリズム	医療教育開発センター 小畑 陽子		
			3	病院実習オリエンテーション「大学病院の役割」	先端医学センター 安武 亨		
				A	B		
5	9	火	1	病院見学 (長崎大学病院医局)	図書館の利用法・情報検索実習	長崎大学病院医局	
			2		患者に寄り添う心得		地域包括ケア教育センター・ 先端医学センター・医学分館
			3				
5	16	火	1	図書館の利用法・情報検索実習	地域包括ケア教育センター・ 先端医学センター・医学分館	長崎大学病院医局	
			2	患者に寄り添う心得			
			3				
5	30	火	1	病院見学のフィードバック・まとめ	地域包括ケア教育センター・ 先端医学センター	第4講義室	
			2				
6	6	火	1	学外施設実習のオリエンテーション (保健学科と共修)	地域包括ケア教育センター・保健学科・ 先端医学センター	第2講義室 セミナー室 視聴覚室 ボンベ会館 良順会館 グローバルヘルス研究棟	
			2				
			3				
			4	熱帯医学	熱帯医学研究所 平山 謙二	第2講義室	
			5	臨床倫理入門	長崎医療センター 荒木 利卓		
			6	プライマリヘルスケア	上五島病院 八坂 貴宏		

月	日	曜日	校時	授業内容		担当講座等・教員	教室	
				A	B			
6	13	火	1	学外施設見学実習 (保健学科との共修)	学内実習 (保健学科と共修)	地域包括ケア教育センター・ 保健学科・先端医育センター	第4講義室	
			2					
			3					
			4					
			5					
			6					
6	20	火	1	学内実習 (保健学科と共修)	学外施設見学実習 (保健学科との共修)	地域包括ケア教育センター・ 保健学科・先端医育センター	第4講義室	
			2					
			3					
			4					
			5					
			6					
6	27	火	1	学外施設見学実習の振り返り (保健学科と共修)		地域包括ケア教育センター	第4講義室	
			2					
			3					
			4	5	熱帯医学とグローバルヘルス		熱帯医学研究所 有吉 紅也	第2講義室
					臓器移植・再生医療		第二外科 江口 晋	
7	4	火	1	未定		未定	第2講義室	
			2	未定		先端医育センター 田中 邦彦		
			3	対人関係		活水女子大学 永田 耕司		
7	10	月	3	ようこそ先輩 (5)		5年生	ボードインホール	

H29年度(1年後期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
12	4	月	3	ようこそ先輩 (6)	5年生	第2講義室
2	5	月	3	ようこそ先輩 (7)	未定	第1講義室

医学ゼミ

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命科学研究支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを実施する（授業科目の1/3未満）。

平成29年度「医学ゼミ」・「地域医療ゼミ」開講テーマ一覧(1年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
地域医療学	前田 隆浩	しまで学ぶ地域医療集中ゼミ	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に関する論文(邦文・英文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。 	地域医療研究会(未定・2か月に1回開催予定) 長崎地域医療セミナー in GOTO 8月20日(日)～8月22日(火)	地域医療研究会(坂本キャンパス) 長崎地域医療セミナー in GOTO(長崎県五島市)	出席・発表・レポート	地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTOの両方への参加が必須です。地域枠入学生を主な対象としますが、地域医療に関心のある地域枠でない学生さんの受講も可です。 ※地域医療セミナー期間中の食費については5000円/人を予定しています。
原研国際	高村 昇	国際保健入門(1)	推薦入学国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特に国際保健分野における活動を紹介します。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	AO国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特に国際保健分野における活動を紹介します。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	月曜日5校時	原研棟3階コミュニティセンター	出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。	
へき地病院再生支援・教育機	調漸、中桶了太	平戸で学ぶ地域医療集中講義	へき地や離島の医療現場を体験する。	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県平戸市、平戸市民病院で開催される2泊3日の集中講義に参加する。地域医療実習(在宅医療など)講義、ワークショップを通して地域医療に対する理解を深める。 ・夏期集中講義の前、6月16日に長崎県の離島・へき地医療についての概論の講義を行う。 	(集中講義) H29年6月16日 H29年8月25日～27日	6月16日医学部基礎棟1階 8月25日～27日長崎県平戸市国民健康保険平戸市民病院	出席・レポート・発表で評価を行います	地域枠1年生は必須単位を取得可能です(五島もしくは平戸いずれかを選択) 地域枠以外の出席も可能です 6月16日の講義は、夏期集中セミナー参加希望者は受講すること。 夏期集中セミナーでは食費、宿泊費として5000円/3日間必要です。佐世保駅まで送迎いたします

平成29年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(2年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
神経形態学(第一解剖)	森 望	Neuroanatomy of the Mind: 心の神経解剖学	神経解剖学、神経生理学の知識をベースに「認知」「意識」「感情」「行動」「意欲」等の脳内原理を理解する。その上で、「こころ」がどう生まれ、成長し、円熟するのか、あるいは、ゆらぎ、崩れるのか、自分の頭で考える。脳神経科学、精神医学への理解とすると、自らの頭で考え、自らの言葉で語り、自らのスタイルで発表できるようにする。	脳には形があるが、心には形がない。しかし、心は脳内に生まれる。では、脳は心はどう形成されるのか? 現代の神経科学、脳科学の知識をベースに、心の形成のナゾへ挑む。	金曜日1校時	視聴覚セミナー室3	出席、発表内容、質疑応答、レポート	
肉眼解剖学(第二解剖)	弦本 敏行	臨床解剖学への招待	様々な疾患の病態・治療を解剖学的側面から理解することにより、それら疾患への理解を深めること	さまざまな臓器に生じる各種の疾患を提示し、それらの発症メカニズムの肉眼的特徴について考察する。ゼミは抄録形式で進行する。解剖学に関連した臨床分野の英語論文を自ら調べた上で読んで理解し、プレゼンテーションする。さらに、全体で討論する。	金曜日1校時	視聴覚セミナー室1	出席、発表の評価、質疑応答	
神経生理(第二生理)	篠原 一之	心の個人差の脳科学	英語論文、原著翻訳を通して心の個人差の脳科学基盤について理解を深めるとともに、英語読解・プレゼンテーション能力を養う。	近年、性格をはじめとした心の個人差、及び、社会的コミュニケーション能力障害を呈する発達障害と、脳機能・形態、遺伝子多型、内分泌機能との関わりが明らかになりつつある。そこで、これらの個人差・発達障害の生物学的基盤に関する最新の研究論文を読み、その内容に関するプレゼンと議論を行う。これらの活動を通して、心の科学に関する理解を深めるとともに、臨床・研究活動に必須の英語読解・プレゼン能力を身につける。	金曜日1校時	神経機能学教室	レポート、出席、発表内容等を加味して総合的に評価する。	
精神神経科	今村 明	児童思春期の精神医学を考える	精神医学の世界に於いて児童・思春期の精神医学はその社会的な重要性に比して、専門家から不足している領域である。本ゼミでは発達障害を中心とした分野を中心に取り上げ、学んでいく。	発達障害を中心に児童・思春期精神医学についての概観を学んでいく。映像作品等での視聴覚的な学習も随時実施する。時間が許せば、課外実習として各種施設などを見学し、実地に学ぶ事も行いたいと考えている。	水曜日の18時以降	精神科外来	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性の高さを評価し、提出してもらった課題の成果を総合的に判断すること。	参加希望者が10名を超える場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
精神神経科	木下 裕久	リエン症例から学ぶ臨床精神医学(基礎編)	総合病院の一般病棟で運送しやすい(すなわち可能性のある)精神障害の症例を題材として、リエン精神医学の基本的な考え方を診断から治療にいたる経過を通して学ぶような講義とする。	評価ツールの使い方をいながら、低学年でも興味を持っていただけるような内容にしたいと考えている。	原則として木曜日19時開始	精神科医局	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性の高さを評価し、提出してもらった課題の成果を総合的に判断すること。	参加希望者が11名を超える場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
小児科	中嶋 有美子	障害が個性か—子どものハンディキャップを知った家族の受容と社会の支援を考える	人と違うことは誰がいのか、個性なのか—家族が直面する葛藤や、乗り越えていくための課題を少しでも理解し、周囲が支援するために何が必要かを一緒に考えてもらいたい。	我が子に染色体異常があるとわかったとき、育児中に育てにくさを感じたとき、よその子よりも遅れていると思えたとき、途方に暮れ、悩み、怒り、苦しむ家族がそれを容認していくことができるのかどうか。子どもが大きくなって社会の中で生きていくためにはどのような道筋があるか。毎回テーマを決めて考察を加える。	木曜日17時~18時	10階小児科医局カンファランス室	最後のまとめ	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川 公一	感染症に強くなる!!	致死率の高い種々の感染症や薬剤耐性微生物の脅威に人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物、生き物の独特な免疫において何が働き手になるか? 学生との双方より意見交換を行う	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならぬ先導的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように研究していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	月曜日5校時	長崎大学病院	出席状況、発表、授業態度などの総合評価	
地域医療学	前田 隆浩	しまで学ぶ地域医療中ゼミ	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・欧文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる。地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	地域医療研究会(木・金・土・日・月・火)に1回参加予定 長崎地域医療セミナー in GOTTO 8月20日(日)~8月22日(火)	地域医療研究会(坂本キャンパス) 長崎地域医療セミナー in GOTTO (長崎県五島市)	出席・発表・レポート	地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTTOの両方への参加が必須です。地域移行入学生を主な対象としますが、地域医療に関心のある地域枠でない学生さんの受講も可です。 ※地域医療セミナー期間中の食費については5000円/人を予定しています。
地域包括ケア教育センター	永田 康浩	医師になるってどんなこと?—包括医療始めの一	医師として患者治療の意義を知り、これに関わる医療資源と社会資源について認識させる。	最先端医療のゴールは患者さんの社会復帰である。疾病を患った患者さんが、医療機関で治療を受け、社会に復帰するまでに、どれだけ医療資源、社会資源を要するかを把握し、理解する。これに関わる、基礎医学、臨床医学、社会医学について考察する。診療の基本手法を学びながら、在宅医療の現場を体験する。	金曜日1校時	地域包括ケア教育センター(医学部基礎棟5階)	出席態度およびレポート内容	
地域包括ケア教育センター	松坂 雄亮	精神科医と学ぶ総合診療への道	人体の基礎知識と疾患の成り立ちを中心に網羅的に復習し、症例を題材とした学習を通して診断から治療への流れを感覚として身に付ける。精神科医という職種「その道のプロではない者」とも行うことで、これからの臨床実習・初期研修で習得すべきエッセンスを見出す機会とする。	1回の授業で1つの症例をテーマにする。ロールプレイ形式で医師面談の練習を行い、症例に関する基礎医学的、病理学的な知識を復習する。また、診断に至る過程と基本的な治療法も学び、1つの疾患を時系列的なストーリーとして把握することで、実臨床に近い形で知識を習得する。毎回異なる臓器の異なる病態について学び、ゼミ全体として総合診療的な能力を身に付ける。	金曜日17:00-18:00	精神科医局	ゼミへの積極的な参加姿勢や取り組み状況を総合的に評価する	
分子生理学	藤田直昌、辻幸臣、石川泰輔	心臓の生理学	内臓機能体系から扱った心臓生理学の内容をさらに深く、関連する疾患や病態についても学び、心臓生理学と不整脈の病態機構について追求する。	生理学・循環器病学の成書や、英語論文をもとにしてプレゼンテーションを行ってもらい、教員が補足を行う。	金曜日1校時	基礎棟3階大学院実験研究室	基礎棟3階出席、積極性、発表内容等を総合的に評価する。	
原研国際	高村 昇	国際保健入門(2)	一年時に引き続き、推薦入学国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、国際保健に関する成書の輪読を行い、あわせて国際保健に関する概説を行う。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	「Textbook of International Health」をはじめとする国際保健関連の英文資料を輪読することで国際保健、国際医療の実践についてより深い理解を得る。	月曜日5校時	原研棟3階コミュニケーションセンター	出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。	
フロンティア生命科学	益谷 美都子	分子情報を基盤とするがんの低分子創薬、新規治療開発の研究手法	がんの低分子創薬・新規治療開発、ゲノム医療に必要なliquid biopsyの導入に関する論文紹介、webセミナーの聴講を行う。		水曜日5校時	フロンティア生命科学分野(医学部C棟6階)	出席状況、発表などの総合評価	
へき地病院再生支援・教育機関	調瀬、中桶了太	離島へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これ	・離島へき地の第一線で活躍する多職種による双方向性の講義を中心とする。 ・地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライマリーとして活躍する医師のほかに行政や地域のメデイカルスタッフによる講義を予定している。 ・「地域医療」という漠然としたイメージをリアルな物として認識できるようにすること。 ・地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。	18:00-19:30	医学部基礎棟3階 視聴覚教室	出席・レポート・発表で評価を行います	全学生を対象としています。地域枠のみならず地域枠以外の学生で地域医療や総合診療に関心のある方の参加を歓迎いたします。
病理診断科	福岡/新野	形態から見る「癌って?」	形態を見て癌に起きている生物学を考えるブレインストーム	がん細胞は本当にモノクローナルなのか? 癌が惹き起こす周囲の環境の変化はどう考えるのか? なぜ癌はCR1にならないのか? などについて、病理学的にアプローチし、ディスカッションを行う	5	病理診断科医局(医学部C棟)	ディスカッションの能力と理解度	
病理診断科	古里	組織標本で見る「癌って?」	組織を見て癌に起きている生物学を考えるブレインストーム	浸潤とは何か? 癌が惹き起こす周囲の環境の変化って組織でみえるの? などについて、病理学的にアプローチし、ディスカッション・研究を行う。継続研究で3年のリサーチセミナーまで続けられる方を募集します。	5	病理診断科医局(医学部C棟)	能力と成果	継続研究で3年のリサーチセミナーも続けられる方を募集します。

平成29年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(3年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
組織解剖 (第三解剖)	小路 武彦	ビデオで学ぶ組織発生	発生学・組織発生で得た知識を深めることを目的とする。	日本語の動画教材を用い、発生学から疾患への理解を深める。各回組織発生に関するDVDを鑑賞の後、グループ討論を行う。	金曜日1校時	小会議室	出席、レポートを総合的に評価。	
医科薬理学	有賀 純 中川慎介 畑山実 松永幸人	最新の論文から探る医学生物学研究の潮流	トッジャーナルに掲載された脳神経、血管、代謝、幹細胞に関する論文の学術的な背景や意義を理解して、最新の研究動向を把握し、今後の研究戦略を考える。	Nature, Science, Cellなどの国際科学誌の最新号に掲載された文献を毎週1報ずつ紹介する。発表はパワーポイントなどを使用し、論文に記載されている実験内容や結果を英語で解説する形式で行う。なお、論文の選定から読解、発表まで教官がマンツーマンで指導する。期間中に2回の発表を予定している。	金曜日1校時	薬理化学教室 セミナー室	出席内容、発表内容を考慮して評価する。	
感染分子	西田教行・田口謙	感染症から学ぶ生物学	感染症をきっかけとして生命現象の奥深さを学ぶ。	興味深い臨床像を呈する感染症のケースレポートから始めて、その疾患の背景にある生物学的現象を原著論文や種々の資料を活用して学ぶ。	金曜日1校時	基礎棟8階 集会室	出席およびレポート	
第一内科	川上 純	臨床内科のエッセンス	Early Bird lesson(EBL)への参加を行ない、臨床の基本的な考え方を学ぶ。	当科では臨床実習生、初期研修医に対して行なわれるEarly Bird lesson(EBL)へ参加する。EBLは、鑑別診断・病態の説明や薬理的治療の解説から、最新トピックスまでの内容を学び、参加を通して実際の臨床の考え方を学ぶ。	火曜日・水曜日 午前7時45分～8時30分	本館9階5号 室(906号 室)	出席やレポートによる総合評価	
消化器内科	竹島史直(消化器内科) 大仁田賢(消化器内科、光学医療診療部)	GI Club	消化管疾患の病態と内視鏡診断についてより深く学習する	前半は、入院、外来の症例検討を行うことで臨床医に対する興味を喚起するとともに、それに関する最新の英文臨床研究やUp to Dateの抄読会を通して理解を深める。	金曜日16:30	病院本館9 階チャペル 室	出席や発表内容より総合的に評価	
腫瘍外科 (第一外科)	日高重和	内視鏡下手術入門～応用	20世紀後半から急速に進歩した内視鏡下手術は外科手術の概念を変え、現在でもその装置、手術手技は進歩し続けている。最先端の技術であってもその基本手技は以前の開腹手術と同様に非常に重要である。内視鏡下手術の原理、基本操作から応用をトレーニング装置で学びながら、内視鏡下手術への理解を深めてもらう。	内視鏡下手術の基礎としてドライボックス、VRシミュレーターを用いて実際の操作手技を修練してみる。次期に高度なテクニックに移行する。その後、シミュレーターを用いた胆膵摘出術、ロボット手術シミュレーターに挑戦する。	水曜日5校時	腫瘍外科医 局	実証トレーニングが主ため出席が重視されます。レポート提出あり。	
臨床検査医学	柳原克紀	分子診断	臨床検査の観点から分子診断を学ぶ	臨床検査の観点から、臨床微生物や腫瘍の分子診断に関する文献を読む。学生は提供された文献について学習し、発表する。	金曜日1校時 (隔週)	臨床検査医学 医局(12 階)	積極的な参加、文献の理解、発表を評価する。	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川 公一	感染症に強くなる!!	致死率の高い様々な感染症や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物・生き物の独特な免疫においてヒトが勝者になれるか?学生との双方向に意見交換を行う	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先端的な研究について、最新の知見が微生物をどのように攻略していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	月曜日5校時	長崎大学病 院	出席状況、発表、授業態度などの総合評価	
地域医療学	前田 隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・英文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる。地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	・金曜日1校時(7 回程度) ・月一回程度18時 ～20時30分(地域 医療研究会・曜日 不定)(4回程度) 上記2つ全てに出席 が必要です。	地域医療学 分野ゼミ 室 (医学部基礎 棟5階) ボンベ会館 (予定)	出席とレポートとゼミ受講態度	
地域医療学	前田 隆浩	しまで学ぶ地域医療集中ゼミ	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・英文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる。地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	地域医療研究会 (未定・2か月に1 回開催予定) 長崎地域医療セ ミナー in GOTO 8月20日(日)～8月 22日(火)	地域医療研 究会 (坂本キャン パス) 長崎地域医 学ゼミ in GOTO (長崎県五島 市)	出席・発表・レポート	地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTOの両方への参加が必須です。地域終了学生を主な対象としますが、地域医療に関心のある地域枠でない学生さんの受講も可です。 ※地域医療セミナー期間中の食費については5000円/人を予定しています。
一病理	林 洋子/下川 功	楽しい病理学	剖検症例を通して、疾患により死に至る病態を考察する。	剖検症例を病理組織学的に検討し、まとめ、発表する。	金曜日1限目	第一病理学 教室所見 室、第二実 習室。	出席、授業態度、発表。	
腫瘍医学	池田裕明、安井潔	自ら読める「がん研究の最先端」	がん研究に関する原著論文を自ら読み解き、他者と議論することにより、科学的思考、論理的検証法の実際的なトレーニングを積む。同時に最先端の科学に触れる喜びを経験する。	がん関連の重要な英文論文について、学生がみずから読んだ後に内容を解説、紹介し、それについて全員で議論する。論文の選択/検索方法、読み方、発表方法について授業を体験する。	金曜日1校時	腫瘍医学教室 集会室	出席、参加態度、発表内容を総合的に評価する。	
臨床薬物動態学(病院薬剤部)	佐々木 均	実践! 医療薬理学	患者の治療においてはほとんどのケースで医薬品を用いる。しかし、実際に処方し、患者に投与する場合には配合変化、相互作用など様々な問題に遭遇する。本邦では医療現場における医薬品の使いやわらスポーツを通じて医学を学ぶ。	医薬品の配合変化を体験する。薬物血中濃度モニタリング(TDM)を行い、論文情報も踏まえて薬物投与スケジュールを設計し、討論する。	金曜日1校時	薬剤部	出席と授業態度での総合評価	
先端体育センター	安武 亨	スポーツ医学概論		運動生理学・スポーツ栄養学など	火曜日または 木曜日16:30から	医学部ゼミ 1～2号など	授業参加状況、レポートなど	体育会系部活に所属する人あるいはスポーツに興味がある人で、グループ討議が出来る人を募ります。
眼科	Masafumi Uematsu, Yasser Helmy Mohamed	Eye: visual sensory organ	To improve English skill and knowledge of eye	Discussion about eye diseases by using audiovisual materials, etc.	月曜日17:00- 18:30	眼科医局	出席、態度、レポートなどによる総合的に評価する	
移植・消化器外科	江口 晋	Nagasaki Surgical Club 外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには国試対策まで	外科の入門編から実技さらには国試対策まで幅広く、週替りの講師陣による座談会形式のゼミです。 外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	1. 外科の歴史(長崎の外科から世界の外科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、縫検下手術実技などの実技を含みます) 3. 診察、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるEBM(論文の見方、読み方教えます) 5. 消化管外科の温故知新:ピルロトって何? 国試に出る外科学(2年生にも分かります)解説します。 7. 移植についても一緒に語ろう 8. 乳腺外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科学(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	金曜日16:30-17:30	移植・消化器外科 医局(第二 カンファ 室)、医局受 付で 問い合わせ てください。	出席を重要視する。ディスカッション内容、フリートーク形式ですので、レポート、試験などはありません。	* 講義内容、順番は予定であり若干の変更があります。 * 学会などにより開催されない場合がありますので、開講日にはご注意ください。 * 欠席する場合は、医局まで連絡ください。 * 時間帯が合わない場合は、申し出て下さい。
へき地病院再生支援・教育機	調漸、中楠了太	離島・へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これからの地域医療や我が国のこれからの医療について考える	・離島・へき地の第一線で活躍する多職種による双方向性の講義を中心とする。 ・地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合室、プライマリーケアとして活躍する医師のほか行政や地域のメディカルスタッフによる講義を予定している。 ・「地域医療」という漠然としたイメージをリアルな物として認識できるようにすること。 ・地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。	18:00-19:30	医学部基礎 棟1階 視 聴覚教室	出席・レポート・発表で評価を行います	全学生を対象としています。地域枠のみならず地域枠以外の学生で地域医療や総合診療に関心のある方の参加を歓迎いたします。

平成29年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(4年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	開講時間	場所	評価方法	備考
免疫学	由井克之	論文から学ぶ免疫学	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根拠にあるアイデアに対する理解を深め、問題解決能力を滋養する。「免疫学」の授業を履修した4年生を対象とする。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自学した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方は適宜指導する。	金曜日1校時	免疫学分野集会室	発表内容、参加態度、レポート、出欠を総合的に評価	
公衆衛生	青柳 深	論文から学ぶ公衆衛生学	文献を通して医学の社会性について学ぶ。	公衆衛生学に関連した論文を各自が紹介・発表し、討論する。	金曜日1校時	公衆衛生学資料室	積極性、レポート	
第二内科	宮崎泰可	内科診療実践編	教科書を読むだけではわからない、内科臨床医に求められる実践的な判断力、手技を身につける。	模擬病歴、実際の画像、シミュレーターなどを用いて実践的な内科の知識と手技の習得を目指す。	金曜日1校時	新中央診療棟4F シミュレーション室	出席状況、レポート、討論への参加具合を評価。	
循環器内科	前村 浩二	心電図道場 (好きになる心電図)	心電図に対する苦手意識をなくし、楽しく読めるようになることをめざす。	講義で学んだだけでは、心電図判読に苦手意識を持っている学生が多い。心電図判読のコツは最初に心電図判読の作法を理解した上で、多くの症例の心電図を自分で読んでみることである。本ゼミでは、さまざまな症例の心電図を自分で実際に読んでもらい、それを添削しながら判読のコツをつかんでもらう。後半では症例に即してクイズ形式で読んでもらう。また心電図判読を入口にして、循環器疾患が好きになるような心エコーなどの実地的な内	金曜日5校時	病院本館9階セミナー室(906)	出席率、討論参加度	
精神神経科	小澤 寛樹	映画から見る精神医学	具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人の心に対する理解を深め、自己の考え・感情を論理的・能動的に議論することを目的とする。	精神疾患を取り扱った映像作品を毎回取り上げ鑑賞し、1〜2、3人がその疾患に関して事前研究と資料作成、講義当日にプレゼンテーション。また様々なトピックでのディスカッションを実施する事で、能動的な参加姿勢を養う。	原則として水曜日17時開始	第3講義室または精神科外来63番診察室	①出席点50% ②視聴後に行うディスカッションへ参加意欲・各回の提出レポート50%	毎回映画の視聴後にテーマディスカッション、解説講義を21時頃まで行います。期間内で5校時目以降に他科目を受講する必要がある人、その他予定のある人などは、その点留意して下さい。
泌尿器科	宮田康好	マンガで学ぶ“泌尿器科ってなんだ?”	本ゼミを初歩の泌尿器科学入門と位置づけ、マンガという身近な教材を用いて泌尿器科学の受け持つ領域と特徴を知り、さらに発展させて現代医学・医療の基本部分の理解へもつなげていく。	泌尿生殖器の解剖、機能および疾患の特徴などを直観的に捉えられるように、主にマンガを用いて、学生自身が司会進行する形で発表を行う。これに適宜教官からの補足を行う。また、その発表を通じて簡単なプレゼンテーションスキルやアイデア抽出法についても学ぶ。	金曜日1校時	泌尿器科医局	出席率、発表および討論への参加態度。	
産科婦人科	増崎英明	女性の一生について考える	産婦人科の最新の知見について、教員員とのディスカッションを通して理解を深める	論文抄読、トピックセミナー、症例検討、講演会	水曜日18:30~	病院11階産婦人科医局ゼミ室	出席、レポート提出により総合的に評価する。	
臨床検査医学	柳原克紀	分子診断	臨床検査の観点から分子診断を学ぶ	臨床検査の観点から、臨床微生物や腫瘍の分子診断に関する文献を読む。学生は提供された文献について学習し、発表する。	金曜日1校時(隔週)	臨床検査医学医局(12階)	積極的な参加、文献の理解、発表を評価する。	
救命救急センター	田崎 修	救命医学を学ぼう!	救命医療は迅速であってはならない。本ゼミにおいては、限られた時間の中で論理的に思考し、救命疾患の診断と治療を進める救命医学の醍醐味を体験する。	臓器や診療科の枠を超えて、「救急的」診療法を学ぶ。また、蘇生・診断、災害対応、緊急の手技、集中治療等、救命医療で必要となる技術をシミュレーションで体験する。	金曜日1校時	大学病院救命救急センター医局(国際医療センター3階)に集合	出席や授業態度で評価する。	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川 公一	感染症に強くなる!!	致死率の高い種々の感染症や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物vs生き物の独特な医療においてヒトが勝者になれるか?学生との双方向に意見交換を行う	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先端的研究について学び、ヒトが微生物をどのように攻略していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	月曜日5校時	長崎大学病院	出席状況、発表、授業態度などの総合評価	
地域医療学	前田 隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・欧文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	・金曜日1校時(7回程度) ・月一回程度18時~20時30分(地域医療研究会・曜日不定)(4回程度)上記2つ全てに出席が必要で	地域医療学分野セミナー室(医学部基礎棟5階)ボンベ会館(予定)	出席とレポートとゼミ受講態度	
法医学	池松 和哉	異状死とは? 死者からの伝言	法医学教室ではさまざまな死と遭遇する。事件事故であれ病気であれ、死には必ず原因があり、生には常にその原因が付随している。各々の症例についてそんな観点から考え、異状死(突然死)について医療人としての理解を深めてもらう。	各症例の事件発生即報告書、死体検案書、解剖検査記録などを参考にして、「なぜ亡くなったのか」、さらには「防ぐことはできたのか」を考える。適宜、論文検討を加え、最終的に症例報告として報告書をまとめる。	金曜日5校時	基礎棟6階法医学教室大学院セミナー室	総合的に評価する	

医 と 社 会 II

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	2年・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

病める人と良好なコミュニケーションが行え、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しうる医師となる。病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭や社会への復帰と社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯にめざす医師となる。

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、老健施設などの体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また高齢者と接する際の医学生としての基本的マナーや心構えおよび対応の仕方などを学ぶ。前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深め、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。長崎純心大学、保健学科との共修を通して医療・福祉・介護の多方面からの視点を理解し尊重する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

- A 医療と人間（保健学科と共修）
人の心の発達、性と生、高齢期を生きる、医療人と患者及び家庭との関係の4区分で講義を行う。
1. 人の心の発達
乳幼児と親の心、子供と社会 児童虐待の現状から、子供の心の発達、学童期、思春期
 2. 性と生
人間の性 概論、ドメスティックバイオレンス
 3. 高齢期を生きる
高齢期介護の実際、認知症高齢者を家族と地域で支える、地域における高齢者の生活を考える
- B Early Exposure（医学科）
老健施設などの体験実習に参加し、体験に基づいたレポートを作成する。
- C 診療の心得（診療マナー、バイタルサインの取り方、超音波や心電計等の基本操作）
- D 事例検討（長崎純心大学、保健学科と共修）

3. 教科書、参考書等

必要に応じて各講義の最初の時間に紹介する。

4. 成績評価の方法・基準

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。

授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

- A：出欠状況及び授業を行った教員の評価結果を総合して決定する。講義・実習には全て出席すること。
- B：体験に基づいたレポートを提出する。
レポート、発表会、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。講義を欠席した学生には別途課題を課す。
- C：出欠状況、実習態度、レポートなどを総合して評価する。
- D：出欠状況、実習態度、レポートなどを総合して評価する。

5. 教員名

委員：医育支援センター：安武亨、田中邦彦、江川亜希子、北山素、保健学科教務委員

A 1：川原ゆかり（長崎短期大学保育学科教授）、小柳憲司（長崎県立こども医療福祉センター診療部長）、福田雅文（みさかえの園むつみの家施設長）

A 2：安日泰子（やすひウィメンズヘルスクリニック院長）、中田慶子（DV防止ながさき）

A 3：陣野紀代美（長崎市医師会保健福祉センター）、菅崎弘之（すがさきクリニック院長）、石松隆和（地方創生推進本部コーディネーター）

B, C, D：地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、西野文子、松坂雄亮、野口郁恵

地域医療学：前田隆浩、田山淳（保健医療推進センター）、中尾理恵子（保健学科）

D：非常勤：潮谷有二（長崎純心大学教授）、宮野澄男（長崎純心大学准教授）、井口 茂（保健学科）

「ようこそ先輩」

脳神経内科：辻野 彰

第一内科：古賀 智裕

第二内科：山口 博之

熱研内科：有吉 紅也

6. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを実施する（授業科目の1/3未満）。

医と社会Ⅱ 授業予定(2年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	6	木	3	ようこそ先輩	未定		ボードイン
4	13	木	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩1	脳神経内科 辻野 彰	ボードイン
4	20	木	3	ようこそ先輩	未定		ボードイン
4	27	木	3	ようこそ先輩	未定		ボードイン

医と社会Ⅱ 授業予定(2年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	27	水	4.5.6	性と生1	オリエンテーション 人間の性、概論	非常勤・安日泰子(保健学科と共修)	2講
				人の心の発達1	乳児と親の心	非常勤・福田雅文(保健学科と共修)	2講
9	28	木	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩2	第一内科 古賀 智裕	ボードイン
10	4	水	4.5.6	人の心の発達2	子供と社会 児童虐待の現状から	非常勤・川原ゆかり(保健学科と共修)	2講
				高齢期を生きる1	高齢者介護の実際	非常勤・陣野紀代美(保健学科と共修)	2講
10	5	木	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩3	第二内科 山口 博之	ボードイン
10	11	水	4.5.6	人の心の発達3	子供の心の発達、学童期、思春期	非常勤・小柳憲司(保健学科と共修)	2講
				性と生2	ドメスティックバイオレンス	非常勤・中田慶子(保健学科と共修)	2講
10	12	木	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩4	熱研内科 有吉 紅也	ボードイン
10	18	水	4	地域包括	共修事前授業	地域包括ケア教育センター(保健学科と共修)	2講,記念講堂
			5				記念講堂
			6				記念講堂
10	25	水	3	地域医療	地域コミュニティにおける保健医療専門職の役割と活動	中尾 理恵子(保健学科)	1講
			4	地域包括	共修【医学科・保健学科・長崎純心大学】	地域包括ケア教育センター	坂本キャンパス
			5				坂本キャンパス
			6				坂本キャンパス
11	1	水	3	地域医療	認知行動療法の適用とその効果	田山 淳(保健医療・推進センター)	1講
			4	地域包括	共修【医学科・保健学科・長崎純心大学】	地域包括ケア教育センター	坂本キャンパス
			5				坂本キャンパス
			6				坂本キャンパス
11	8	水	4.5.6	高齢期を生きる2	認知症高齢者を家族と地域で支える	非常勤・菅崎弘之(保健学科と共修)	2講
				高齢期を生きる3	地域における高齢者の生活を考える	非常勤・石松隆和(保健学科と共修)	2講
11	15	水	4	地域包括	実習オリエンテーション	地域包括ケア教育センター	2講
			5				2講
			6				2講

医と社会Ⅱ 授業予定(2年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容		担当講座等・教員	教室
					A	B		
11	22	水	1	Early Exposure	高齢者診療施設(老健施設)	診療の心得	地域包括ケア教育センター	1講
			2					1講
			3					1講
			4					1講
			5					1講
			6					1講
11	29	水	1	Early Exposure	診療の心得	高齢者診療施設(老健施設)	地域包括ケア教育センター	1講
			2					1講
			3					1講
			4					1講
			5					1講
			6					1講
12	6	水	1	地域包括	実習の振り返り		地域包括ケア教育センター	1講
			2					1講
			3					1講
1	17	水	1	地域包括	地域包括ケアにおける患者・家族の理解		地域包括ケア教育センター	1講
			2					1講
			3					1講
1	24	水	1	地域包括	地域包括ケアシステムのまとめ		地域包括ケア教育センター	1講
			2					1講
			3					1講

医と社会Ⅲ

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

前期

対象年次・学期	3年・通年（前期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medical ethics and philosophy		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、診療所の体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また病気に苦しんでいる人と接する際の医学生としての基本的マナーや心構えおよび対応の仕方などを学ぶ。

前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深め、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。また、ワークライフバランスについて、仕事と生活の相乗効果を高める考え方を学ぶ。

2. 授業内容（講義・実習項目）

1) 実習

(1) 診療所体験実習 (2) 診療の心得

2) 講義(実習も含む)内容

- | | |
|-------------------|----------------|
| (1) 患者とのコミュニケーション | (5) 地域医療 |
| (2) 患者診察入門 | (6) ワークライフバランス |
| (3) 介護・介助 | (7) 地域包括ケアシステム |
| (4) 多職種連携 | |

3) 体験討論・レポート作成

診療所等の体験について討論し、レポートを作成する。

3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する。

4. 成績評価の方法・基準

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。授業回数数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

京都府立医科大学男女共同参画推進センター長：矢部千尋

長崎県県南保健所所長：長谷川麻衣子

参議院議員：秋野 公造

メディカルワークライフバランスセンター：伊東 昌子

保健学科：井口 茂

歯学部：藤原 卓

周術期口腔管理センター：梅田 正博

摂食嚥下リハビリテーションセンター：三串 伸哉

薬学部：中嶋 幹郎

歯学部：吉村 篤利

先端医育センター：安武 亨、田中 邦彦、江川 亜希子、北山 素

地域包括ケア教育センター：永田 康浩、久芳 さやか、西野 文子、松坂 雄亮、
野口 郁恵

地域医療学：前田隆浩

6. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを実施する（授業科目の1/3未満）。

後期

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	3年・通年（後期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medical ethics and philosophy		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

これまで医と社会では、「病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている社会・環境を洞察しうる医師となる」ことなどをめざして、主として医療従事者から見た講義・実習が行われてきた。一方、我々がおかれている現代社会において、「何が正義か?」、「何に価値をおくべきか?」、「倫理観とはどうあるべきか?」、といった根本的な哲学については、病気の診断・治療などの現場の対応に追われていると、社会背景を考慮しているようでも、しだいに見えなくなってゆくものがある。3年生後期の医と社会では、医療職でない立場の人から見た場合の、それら哲学・倫理・社会観を紹介していただき、そこで提起される問題について、学生の皆さんと一緒に考えてもらうことをひとつの目標とする。また、これまでなかなか触れる機会の少なかった歯学系分野についても学んでいく。

2. 授業内容（講義・実習項目）

本年度は、医療倫理分野、歯学系分野、薬害問題、国家行政等幅広い分野についてのお話を聞き、医療をより様々な面より考える。

3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する。

4. 成績評価の方法・基準

出席状況などを総合して評価する。講義には全て出席すること。授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

秋葉 悦子（富山大学経済学部）
間宮 清（いしずえの会）
貝沼 茂三郎（九州大学大学院医学研究院地域医療教育ユニット）
坂上 祐樹（厚生労働省医政局地域医療計画課）
田口 円裕（厚生労働省医政局歯科保健課）
藤原 卓（歯学部）
裴英洙（ハイス株式会社代表取締役社長）
永田 修一（桜町調剤薬局）

6. 備考

10/6、10/13、10/20は 歯学部（5年次）との共修である。

医と社会授業予定(3年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室	
4	6	木	3	地域包括	地域包括ケアにおける医療の役割	地域包括ケア教育センター：永田 康浩	1 講	
4	6	木	4		リハビリテーション総論	保健学科：井口 茂	1 講	
4	13	木	3	地域包括	口腔ケアに関する授業	周術期口腔ケアセンター：梅田 正博	4 講	
4	13	木	4		摂食嚥下リハビリに関して	摂食嚥下リハビリテーションセンター：三串 伸哉	4 講	
4	20	木	3	地域包括	地域包括ケアにおける薬剤師の役割	薬学部：手嶋無限	4 講	
4	20	木	4		医療と栄養	地域包括ケア教育センター：永田 康浩	4 講	
4	27	木	3	医育センター	う蝕（むし歯）について	歯学部：藤原 卓	3 講	
4	27	木	4	医育センター	未定		3 講	
5	24	水	3	オリエンテーション	学外体験実習について	地域包括ケア教育センター	4 講	
5	24	水	4	地域医療	地域医療	参議院議員：秋野 公造	4 講	
6	2	金	3	Early Exposure	診療所（1）	診療の心得	地域包括ケア教育センター	4 講
6	2	金	4				地域包括ケア教育センター	4 講
6	9	金	3	Early Exposure	診療所（2）	診療の心得	地域包括ケア教育センター	4 講
6	9	金	4				地域包括ケア教育センター	4 講
6	16	金	3	Early Exposure	診療の心得	診療所（1）	地域包括ケア教育センター	4 講
6	16	金	4				地域包括ケア教育センター	4 講
6	23	金	3	Early Exposure	診療の心得	診療所（2）	地域包括ケア教育センター	4 講
6	23	金	4				地域包括ケア教育センター	4 講
6	27	火	3	医育センター	歯周病について	歯周病学分野：吉村 篤利	1 講	
6	27	火	4	医育センター	矯正医療について	福岡矯正管区	1 講	
7	3	月	1	ワークライフバランス	医師にとってのワークライフバランス	伊東 昌子	4 講	
7	3	月	2		P B L グループ討論	伊東 昌子	4 講	
7	3	月	3		グループ発表・全体討論	伊東 昌子	4 講	
7	3	月	4		キャリア講習	伊東 昌子、 外部講師：矢部千尋、長谷川麻衣子	4 講	
7	12	水	1	Early Exposure	実習のフィードバック・まとめ	地域包括ケア教育センター	4 講	
7	12	水	2				4 講	

医と社会授業予定(3年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	6	金	3	医育センター	行動科学	医育センター：安武亨	3 講
10	6	金	4		未定		3 講
10	13	金	3		医療安全や医療の質管理	歯学部：藤原 卓	4 講
10	13	金	4		終末期医療における倫理と法 — 医師の職業倫理に立脚した法の形成に向けて —	富山大学：秋葉 悦子	4 講
10	20	金	3		薬害問題(市販薬の薬害/サリドマイド)	間宮 清	3 講
10	20	金	4		技術系行政官としての業務—国民の健康な生活の確保に貢献するために—	厚生労働省医政局歯科保健課 田口 円裕	3 講
10	27	金	3		我が国の医療・介護制度について	厚生労働省医政局地域医療計画課： 坂上 祐樹	4 講
10	27	金	4		漢方について	九州大学： 貝沼 茂三郎	4 講
11	10	金	1		地域包括ケアシステムの構築と医療介護連携の確保について	桜町調剤薬局： 永田修一	4 講
11	10	金	2		病院経営について	ハイズ株式会社代表取締役 社長：裏英洙	4 講

リサーチセミナー

責任者	氏名	蒔田 直昌	内線	7029
	教室	分子生理学	e-mail	makitan@nagasaki-u.ac.jp
	オフィス			

対象年次・学期	3年・後期、4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	11.5
英語名	Research Seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

有能な医師になる為には、基礎研究を理解し、実施する能力が必須である。医学はまだ発展途上にあり、有能な医師は、その発展の一端を担える能力、研究成果の是非を判断する能力を習得しなければならない。現在、専門医の重要性が強調される裏側で、研究に対する意識が薄らぐ傾向にあると言えるが、リサーチセミナーでは、研究の実践を通じて「医学」が「科学」としていかに発展するかというプロセスを学ぶ。セミナー期間中は、熱帯医学研究所・原爆後障害医療研究所を含む基礎系教室で終日研究活動に従事し、配属先の基礎医学系教員とマンツーマンの指導を受け、研究背景を学術論文から理解し、研究計画書を作成して実践し、研究結果をまとめ、発表および討論を行う能力を身につけることを目標とする。なお合同発表会は、可能な限り一般公開する。

2. 期間

平成30年1月4日（木）から2月28日（金）
研究報告書は学務係まで提出すること。（締め切り3月1日（木））

3. 研究テーマの選択方法

1. 各教室から研究テーマ、そのテーマを指導する責任教員名とそのテーマに従事する学生数が公示される。
2. 各学生は希望する教室とテーマを1つ選択して提出する。
3. この時点で学生自身がテーマを提案してもよい。その場合にはそのテーマについて指導することを承諾する講座を必要とする。
4. 各研究テーマの定員を超過した場合には、学生間の抽選により決定する。
5. 抽選にもれた学生は、定員に満たないテーマの中から、テーマを1つ選択して提出する。
6. 全学生が何れかのテーマに属するまで上記4. と5. の操作を繰り返す。

4. リサーチセミナー履修の認定の条件

1. セミナー開始時にオリエンテーション（総合オリエンテーション、実験動物についての講義）、必要な動物実験施設やアイソトープ実験施設の使用に関する説明会に出席していること。
2. 研究活動に200時間以上に従事していること。
3. 研究報告書（A4のフォーマットを準備）を学務係へ提出すること。（〆切り3月1日）
（ワープロまたはボールペン書きのものに限る。鉛筆書きは不可）
4. 実際の研究記録は配属教室の指導責任者に提出すること。配属教室ではリサーチセミナー終了時に発表会を開き、研究記録とともに評価をしてもらう。指導教員はこの評価をリサーチセミナー責任者に提出する。（〆切り3月1日）
5. 今年度5月に開催される「リサーチセミナー合同発表会」に出席していること。
6. 翌年度に開催される「リサーチセミナー合同発表会」に出席し、発表・討論を行うこと。

5. 指導講座等

医学部、熱帯医学研究所、原爆後障害医療研究所及び先導生命科学研究支援センターの基礎系講座。

6. 成績評価の方法・基準

研究報告書・担当教員の評価・発表会の評価から総合的に評価する。

7. アクティブラーニング

高次のアクティブラーニング。

医 と 社 会 IV

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	4年・通年（前期・後期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

がん患者などのターミナルケアなどの医療場面では、たびたび対応が難しい場面に遭遇する。このような状況でのがん患者などへのインフォームドコンセントの取り方及び患者や家族の心の葛藤及びケアについて学ぶ。大学病院及び地域医療におけるターミナルケアの現状及び取り組みについても学ぶ。また、コア・カリキュラムにもあげられているリスクマネジメント、医療事故及び医療法制、死生学を取り上げる。臨床の現場で、医療事故を如何に防止するかの安全管理に関する心構えを身に付け、かつ倫理面を認識した上での医事法制を学ぶ。また、前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深める。

2. 授業内容（講義・実習項目）

がん患者やその家族の心の葛藤及びケアについて学ぶとともに、医師としてのがん患者やターミナルケアにおける実際の接し方を学ぶ。また大学病院及び地域医療でターミナルケアがどのように実践されているかを学ぶ。その他ターミナルケアが必要ながん患者へのインフォームドコンセントの行い方を模擬患者を使って経験する。

また、医療マネジメント、医療事故に関し具体例をあげ、医療リスクマネジメントの実際を学ぶ。さらに医師にとって重要である医療情報のITとその安全管理や医事法制について、また、倫理観、宗教観からみた死生学について学ぶ。また、地域包括ケアシステムの理解を深めるため、地域包括支援センターや訪問看護の役割等について学習する。多職種連携症例検討も行う。

3. 教科書、参考書等

特に指定しない。医療マネジメント、医事法制などの出版物は少なくない。必要に応じて各講義で紹介する。

4. 成績評価の方法・基準

出欠状況及び授業を行った教員の評価結果を総合して決定する。講義・実習には全て出席すること。授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

先端医育センター：安武亨、田中邦彦、江川亜希子、北山素

麻酔科：石井浩二

安全管理部：栗原慎太郎

救命救急センター：山下和範

保健学科教授：大西眞由美

小児歯科教授：藤原卓

非常勤：江崎宏典（長崎医療センター院長）

非常勤：児島達美（前長崎純心大学人文学部教授）

非常勤：永田耕司（活水女子大学教授）

非常勤：浅野直人（福岡大学名誉教授）

非常勤：福田浩久（弁護士）

非常勤：早島理（龍谷大学大学院・実践真宗学研究科教授）

地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、西野文子、松坂雄亮、野口郁恵

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを実施する（授業科目の1/3未満）。

医と社会Ⅳ授業予定(4年前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	金	2	グローバルヘルス／国際保健の動向(保健学科と共修)	保健学科 大西 真由美	2講
4	14	金	2	がん患者と家族(保健学科と共修)	児島 達美	4講
4	21	金	2	死生学	龍谷大学 早島 理	ボードイン
4	28	金	2	医療事故と医師の民事責任	福岡大学 浅野 直人	ボードイン
5	1	月	1	医療安全1 医療のクオリティマネジメントと安全管理	歯学部 藤原 卓	4講
			2	災害医療	救急救命センター 山下 和範	4講
5	12	金	2	法社会と医療	弁護士 福田 浩久	ボードイン
5	19	金	2	医療安全2 医療の質と安全の確保	安全管理部 栗原 慎太郎	4講
5	26	金	2	医療リスクマネジメント	長崎医療センター 江崎 宏典	4講
7	6	木	3	がん患者とのコミュニケーション	活水女子大学 永田 耕司	4講
			4	大学病院における緩和ケア	麻酔科 石井 浩二	4講
7	13	木	3	地域包括ケアに向けた佐々町の取り組み	佐々町地域包括支援センター 江田佳子(地域医療学)	1講
			4	地域包括ケアシステムと他職種連携Ⅰ	地域包括ケア教育センター	1講・視聴覚 ・セミナー室
7	20	木	3	地域包括ケアシステムと他職種連携Ⅱ	地域包括ケア教育センター	1講・視聴覚 ・セミナー室
			4			1講・視聴覚 ・セミナー室

医と社会Ⅳ授業予定(4年後期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	16	月	5	医歯薬共修	地域包括ケア教育センター、 先端医学センター	第2,3,4講義室、 グローバルヘル ス研究棟1階 大セミナー室
10	23	月	5	医歯薬共修	地域包括ケア教育センター、 先端医学センター	第2,3,4講義室、 グローバルヘル ス研究棟1階 大セミナー室

臨床実習

責任者	氏名	上谷 雅孝	内線	7355
	教室	放射線医学	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	4年・後期、 5年・前期、後期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	55単位
英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。目標は、①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種の役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

2. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。臨床実習要項を参照。

3. 教科書、参考書等

適宜。

4. 成績評価の方法・基準

各科で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。Advanced OSCEの成績は臨床実習の成績の一部となる。なお、期間を通じた到達目標達成度・mini-CEX・ポートフォリオ・チーム医療実習においても評価する。

5. 教員名

臨床実習要項を参照。

6. アクティブラーニング

高次のアクティブラーニング。

高次臨床実習

責任者	氏名	上谷雅孝	内線	7353
	教室	放射線医学	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	5年・後期、6年・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	27.5単位
英語名	Clinical Clerkship II (Elective Clerkship courses)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを主旨とする。5年次の臨床実習と比較し、より診療参加型の実習となる。

以下の診療科より3科を選択し、1ターム4週間の実習を3ターム行なう。

第1内科（神経、内分泌・代謝、リウマチ・膠原病）、第2内科（呼吸器、腎臓）、循環器内科、消化器内科、原研内科、熱研内科、総合診療科、離島・地域医療（五島中央病院・上五島病院、中対馬病院、対馬いずはら病院）、精神神経科、小児科、第1外科、第2外科、整形外科、皮膚科・アレルギー科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産科婦人科、麻酔科、救命救急センター、脳神経外科、形成外科、心臓血管外科、法医学、病理部、臨床検査、ライデン大学、ビュルツブルグ大学、プサン大学、ハーリム大学、市民病院、原爆病院、済生会病院

2. 授業内容（講義・実習項目）

各診療科により異なる。臨床実習要項を参照すること。

3. 教科書、参考書等

各診療科の臨床実習要項を参照すること。

4. 成績評価の方法・基準

各タームで、出席状況、実習状況等を総合し、評価表に基づいて評価する。3ターム全ての合格を以て高次臨床実習の合格とする。

5. 教員名

高次臨床実習要項を参照。

6. アクティブラーニング

高次のアクティブラーニング。

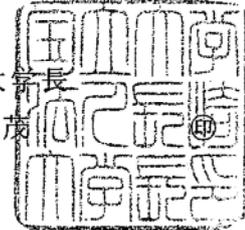
別 添 1

平成 30 年度
医学部入学定員増員計画

長 大 総 第 243号
平成 29 年 7 月 20 日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人長崎大学長
片 峰 茂



「地域の医師確保等の観点からの平成 30 年度医学部入学定員の増加について（平成 29 年 7 月 10 日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

< 連絡先 >

責任者連絡先	職名・氏名	総務部総務企画課長・阿部 勝
	TEL	095-819-2011
	FAX	095-819-2024
	E-mail	soshikai@ml.nagasaki-u.ac.jp

1. 現在（平成 29 年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
120名	5名	0名	727名

(収容定員計算用)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
(ア)入学定員	116	116	116	116	118	120	702
(イ)2年次編入学定員	5	5	5	5	5	-	25
(ウ)3年次編入学定員							

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の平成 30 年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
115名	5名	0名	635名

(収容定員計算用)

	H30	H31	H32	H33	H34	H35	計
(ア)入学定員	115	115	95	95	95	95	610
(イ)2年次編入学定員	5	5	5	5	5	-	25
(ウ)3年次編入学定員							

3. 平成 30 年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
120名	5名	0名	645名

(収容定員計算用)

	H30	H31	H32	H33	H34	H35	計
(ア)入学定員	120	120	95	95	95	95	620
(イ)2年次編入学定員	5	5	5	5	5	-	25
(ウ)3年次編入学定員							

↓ 内訳

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増 5名

ア. 対象都道府県名及び増員数

大学が所在する都道府県	(都道府県名)	5名
-------------	---------	----

大学所在地以外の都道府県	(都道府県名)	0名
--------------	---------	----

(2) (1)のうち平成 29 年度で終了する医学部入学定員の暫定措置の延長に係る入学定員／編入学定員増 5名

ア. 対象都道府県名及び増員数

大学が所在する都道府県	(都道府県名)	5名
-------------	---------	----

大学所在地以外の都道府県	(都道府県名)	0名
--------------	---------	----

4. 地域の医師確保のための入学定員増について

① 大学が講ずる措置

通知 2 (1) 記載の「大学が講ずる措置」に係るこれまでの取組について記入して下さい。

平成 22 年度から「経済財政改革の基本方針 2009」で増員した 15 名のうち 5 名について、地域医療特別枠として長崎県医学修学資金の借入を義務化した。平成 23 年度には、佐賀県枠及び宮崎県枠を創設し、各 2 名の定員を設けた。併せて、同年に「新成長戦略」で 1 名増員した前期日程の定員を、平成 24 年度から地域医療特別枠に振り替えた。また、地域医療特別枠は、平成 28 年度から「地域の医師確保等の観点」で 2 名増員、平成 29 年度から「地域の医師確保等の観点」で 2 名増員し、現在の定員は 10 名である。

平成 29 年度地域枠募集定員数

推薦入試 B (地域医療特別枠)	10 名
推薦入試 C (佐賀県枠)	2 名
推薦入試 C (宮崎県枠)	2 名

通知 2 (1) 記載の「大学が講ずる措置」に係る平成 30 年度以降の取組について具体的に記入して下さい。

長崎県から地域医療に従事する医療人育成及びその増員について要望があり、県と協議のうえ、平成 29 年度で終了する医学部入学定員の暫定措置の延長を希望し、地域医療特別枠 5 名の増員を申請することとなった。

② 地域医療を担う医師の養成に関する取組

①のほか、地域枠の学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からこれまでの取組について記入して下さい。

I 1 年生～3 年生

主に地域枠学生を対象として、平戸市と五島市において 2 泊 3 日の地域医療集中セミナーを開催し、ワークショップ、講義、施設見学などを通して、地域に親しみながら地域包括医療の実際を学ぶ取組を行っている。

また、地域枠学生全員を対象として、毎年 10 月にその年の地域医療に関連した活動報告会と県内医療機関との交流会を実施している。年度初めに対象となる 1～3 年生の地域枠学生の中に実行委員会を立ち上げ、この実行委員会が中心となって策定した活動計画を教務委員会が承認する形で活動報告会が企画される。平成 28 年度は、長崎県の初期臨床研修の概要説明、地域枠卒業医師による業務報告、県内臨床研修病院との意見交換会の後、グループワークとレポート作成を行い、

長崎県の地域医療及び医学生のキャリアパス形成について理解を深めた。

地域枠学生と地域医療に興味を持つ学生を対象に、6カ月に1回程度の頻度で県内外の地域医療に従事している医師を招いて地域医療研究会を開催している。

1～3年生全員を対象として、長崎市内の診療所、老人福祉施設、障害者福祉施設などで地域包括医療・ケアに関する実習を行っている。

II 4年生・5年生

現在は、4年次講義「公衆衛生学」の中で地域医療関連の講義を実施しているが、平成28年度入学者よりカリキュラムを変更し、4年生科目として、地域医療学を開講することとした。この新カリキュラムによって地域医療教育の充実を図る予定である。

4・5年生の臨床実習では、学生全員が地域病院実習、離島医療・保健実習、地域包括ケア実習にそれぞれ1週間ずつ取り組む。

1. 地域病院実習

地域病院実習は長崎市とその近郊及び佐世保市の地域中核病院において診療参加型の実習を行い、機能と役割について学ぶ。

2. 離島医療・保健実習

離島医療・保健実習は、長崎県離島（対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町、小値賀町）に1週間滞在し、保健・医療・福祉・介護施設において包括的な離島医療の実際を学ぶ。また、医学部医学科生に加え、歯学部生、薬学部生、医学部保健学科生が本実習に参加しており、多職種連携教育の機会となっている。

3. 地域包括ケア実習

地域包括ケア実習は長崎市内の地域包括支援センターと訪問看護ステーションにおいて、主に在宅における地域包括ケアについて実践的な実習を行う。

III 5年生・6年生

5・6年生を対象として、長崎県離島と本土の地域中核病院、長崎市近郊の在宅医療を専門とする診療所において4週間にわたって地域医療を学ぶ長期間の診療参加型実習を行っている。4週間の実習が必修であるが、希望者には最長で6カ月間の地域医療実習が可能である。

IV 全学年

平成27年度から地域枠学生6年生全員を対象に面談を行い、進路等に関する指導を行ってきたが、平成28年度からは進路指導委員会を設置し、担当教員を定めて組織的・定期的な進路指導を実施する体制を整えた。さらに、面談については4年次、5年次、6年次の地域枠学生に

	<p>対して毎年実施することとなり、指導の充実を図っている。</p> <p>上記の観点から平成 30 年度以降新たに行おうとする（又は拡充しようとする）取組について記入して下さい。</p> <p>長崎大学医学部では臨床実習について、平成 28 年度より、県内離島、長崎市とその近郊に加え、県北地区の佐世保市の 4 病院での実習を開始したが、学外の臨床教育が卒後の臨床研修に影響を与えることが想定されるため、県内全ての基幹型臨床研修病院を実習施設として、学外臨床教育を拡充するよう検討を進めている。</p> <p>また、離島実習先として平成 27 年度より、対馬・上五島・下五島に加え、壱岐を追加したところであり、現在、個々の受入先における実習内容の充実を図っている。</p> <p>なお、平成 25 年度に採択された未来医療研究人材養成拠点形成事業により地域包括ケア教育センターを開設しており、平成 27 年度より地域包括支援センターと訪問看護ステーション等における地域包括ケア実習を実施しているが、受入先の拡充について検討を行っている。</p> <p>さらに、平成 28 年度より、地域枠学生 1～3 年生全員を対象としたワークショップを開催し、このワークショップに基幹型臨床研修病院の担当者（医師）に参加してもらい、臨床実習前に地域枠学生と臨床研修病院との交流機会を設けている。</p> <p>平成 28 年度に設置した進路指導委員会が中心となって、地域枠出身医師の卒後キャリアを追跡する取組を開始しており、同委員会の活動方針の策定等に役立てている。</p>
<p>③ 都道府県等との連携</p>	<p>通知 2 (2) 記載の「都道府県が講ずる措置」について、奨学金の設定主体及び支給額（月額及び卒業までの総支給額）、返還免除の条件、支給対象及び在学中の学生に対する都道府県の相談・指導、卒後のキャリアパス形成等について具体的に記入して下さい。</p> <p>また、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第 64 号）第 4 条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。</p> <p>長崎県が設定する「医学修学資金」を活用し、地域医療に従事する、明確な意思をもった学生の選抜枠を設定する。</p> <p>I 医学修学資金制度の概要</p> <p>1. 貸与額</p> <p>入学料 国立大学標準額の 1.1 倍以内の額（平成 29 年度標準額 282,000 円）</p> <p>授業料 国立大学標準額の 1.1 倍以内（平成 29 年度標準額 535,800 円）</p>

	<p>専門課程（3年生から6年生まで）における学習図書購入費 年額 20万円以内 生活費 月額 7万円以内 貸与利率 年 14.5%</p> <p>2. 返還免除 卒業後、履行すべき義務を修了した場合は、元金及び利息の返還免除</p> <p>3. 履行すべき義務 初期臨床研修から、貸与期間の1.5倍（うち、離島・へき地に2分の1以上の期間）、長崎県病院企業団等での勤務</p> <p>4. 卒業後の身分や研修等 身分 長崎県病院企業団等の地方公務員（臨床研修時は非常勤職員） 勤務先 長崎県病院企業団の病院、離島等市町立病院等 研修 臨床研修2年間（国立病院機構長崎医療センター等） 診療派遣（長崎県病院企業団等） 再研修1年間（国立病院機構長崎医療センター等） 再々研修1年間（国立病院機構長崎医療センター、長崎大学病院、各自の出身大学の附属病院、その他知事が指定するところ） 診療科の指定 なし</p> <p>※長崎県病院企業団：長崎県と島原地区（島原市、南島原市、雲仙市）、五島地区（五島市、新上五島町）、対馬地区（対馬市）、壱岐地区（壱岐市）で構成された地方自治法上の特別地方公共団体（一部事務組合）</p> <p>II 在学中の学生に対する都道府県の相談・指導 毎年度、県の担当者を含めた面接を大学で行い、地域医療へ貢献する意思を確認すると共に、将来的に適切な人材であることを判断します。在学生に対しては、長崎県では離島医療への意欲向上や認識を深めるため、以下の研修を実施する。 夏期研修（サマーワークショップ） 離島病院見学 長崎県地域医療研究会への参加等 冬季研修（ウィンターミティング）</p> <p>III 卒後のキャリアパス形成等について 初期臨床研修後の定着勤務の間に、国立病院機構長崎医療センター等での再研修、国立病院機構長崎医療センター、長崎大学病院、各自の出身大学の附属病院等での再々研修を実施する。</p>
<p>④都道府県が貸与する奨学金を貸与</p>	<p>上記の都道府県が貸与する奨学金について、<u>どのような方法で対象学生を選抜するか、大学と都道府県との連携の在り方も含め、現時点の検討状況を具体的に記入して下さい。</u>なお、複数の方法により選抜を行う場合は、そのすべての方法について、方法ごとの対象人数とあわせて記入</p>

<p>する者の 選抜方法</p>	<p>して下さい。</p> <p>長崎大学医学部の入学試験においては、地域医療枠を推薦入試 A（奨学金を受給しない）および推薦入試 B（奨学金を受給する）に分けて実施している。高等学校長等から提出された調査書、推薦書、本人直筆の志望理由書、大学入試センター試験及び個人面接の評価を総合して合格者を決定する。</p> <p>なお、推薦入試 B を受験するには、長崎県の推薦が必要であり、県においては、総合適性試験と志望理由書による書類審査と小論文・面接を行い、地域医療に従事する、明確な意思をもった学生を選抜し、推薦する。</p> <hr/> <p><u>平成 22 年度以降に同様の枠組みで増員した人数についても、都道府県が貸与する奨学金の対象学生の選抜方法を記入して下さい。なお、複数の方法により選抜を行う場合は、そのすべての方法について、方法ごとの対象人数とあわせて記入して下さい。</u></p> <p>同上</p>
<p>⑤その他</p>	<p>その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組について自由に記入して下さい。</p> <p>とくに、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、記入して下さい。</p> <p>長崎大学医学部では、オープンキャンパスにおいて、地域枠ならではの教育や活動、そしてキャンパスライフなどについて、地域枠学生の視点から受験者及び保護者への説明を行い、数々の入試説明会においても、受験者や高校教諭向けに入試や奨学金制度の説明を行っており、今後も精力的な広報活動を続けていく。</p> <p>また、入学後については、新入生オリエンテーションのプログラム内に長崎県医療人材対策課による長崎県修学資金に関する説明の時間を設けており、より広く制度の周知に努めていく。</p> <p>学生の自主活動について、地域枠入学生の同窓会を結成し、講演会等の様々な同窓会活動を通じて、同学年はもちろん、卒前・卒後と学年を超えた地域枠学生同士の連携の強化を行っている。</p> <p>また、長崎大学と長崎純心大学の学生が連携し、自らが地域包括ケアを支える存在になることを目指し、長崎多職種連携・たまごの会を結成し、前述の同窓会とたまごの会は全国シンポジウム等で発表を行っている。</p> <p>これら学生の自主活動を併せて、長崎県の地域医療を盛り立てるべく活動していく。</p>

	<p>なお、平成 27 年度から、長崎県立長崎東高等学校の学生に対して、地域包括ケアに関する教育（講義とグループワーク）を定期的実施している。</p>
--	---

5. 研究医養成のための入学定員増について

<p>① 研究医養成に関する実績</p>	<p>通知 1 (2) 及び 3 記載の「研究医養成拠点として相応しい実績」を有していることを説明して下さい。 その際、全国平均や全国ランキング等を活用し、他大学と比較して研究医養成拠点として相応しいことが客観的にわかるよう説明して下さい。</p>
<p>② 大学が講ずる措置</p>	<p>通知 2 (1) 記載の「大学が講ずる措置」に係るこれまでの取組について記入して下さい。 その際、通知 3 に記載の具体例を踏まえて記入して下さい。</p> <p>通知 2 (1) 記載の「大学が講ずる措置」に係る平成 30 年度以降の取組について具体的に記入して下さい。 その際、通知 3 に記載の具体例を踏まえて記入して下さい。</p>
<p>③ 研究医養成に関する取組</p>	<p>上記の他、研究医養成の観点からこれまでの取組について記入して下さい。</p> <p>上記の観点から平成 30 年度以降新たに（又は拡充しようとする）取組について記入して下さい。</p>
<p>④ 過去に当該枠組みにより定員増を実施した場合の現在の状況</p>	<p>（過去に当該枠組みによる入学定員増を実施した場合のみ記入して下さい。） 過去に当該枠組みによる入学定員増を実施した際に大学が講ずることとされていた措置の履行状況を記入して下さい。</p>

	<p>(過去に当該枠組みによる入学定員増を実施した場合のみ記入して下さい。)</p> <p>過去に当該枠組みによる入学定員増を実施した際に計画していた取組の進捗状況を記入して下さい。</p> <p>その際、第三者による評価等により、有効性の高い取組であることが確認できている場合には、その旨がわかるように記入して下さい。</p>
<p>⑤ 他の研究医養成拠点との役割分担</p>	<p>(当該枠組みを活用して入学定員増を実施した大学の連携大学となっている場合(今年度以降に連携大学となろうとする場合を含む。)のみ記入して下さい。)</p> <p>貴大学が連携大学となっている(今年度に連携大学となろうとする場合を含む。)当該枠組みを活用して入学定員増を実施した大学と貴大学との役割分担を記入して下さい。</p>

6. 歯学部入学定員の削減を行う大学の特例について

① 歯学部 入学定員 削減の具 体的内容	歯学部入学定員の削減に係る入学者選抜、教育研究面などの対応について具体的に記入して下さい。また、当該削減に伴う医学部への教育資源の振り替えがある場合は記入して下さい。
② 大学が 講ずる取 組	医学部入学定員の増員に関して大学が講じようとする取組について記入して下さい。

開講学年	科目名	サブタイトル	期間及び授業回数 ※前期4-9月、後期10-3月	場所	教育内容
1年	地域医療ゼミ	しまで学ぶ地域医療	地域医療研究会(2か月に1回開催予定) 長崎地域医療セミナー in GOTO(8月20日(日)~8月22日(火))	地域医療研究会(坂本キャンパス) 長崎地域医療セミナー in GOTO(長崎県五島市)	坂本キャンパスで実施される地域医療研究会で地域医療への知識と理解を深める。そのうえで五島市で行われる集中合宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問など現場の地域医療を体験してより理解を深める。
1年	地域医療ゼミ	離島・へき地医療入門	前期:15コマ 夏季:集中講義	視聴覚セミナー室(医学部基礎棟1階) 平戸市民病院	平戸市の平戸市民病院内のへき地病院再生支援・教育機構、地域臨床教育拠点において合宿形式で保健・医療・福祉が連携した地域包括医療・ケアを実習と講義を通して学習する。地域の最前線の経験に基づいて来るべき未来に求められる医療について考える。 坂本キャンパスで、地域医療の最前線で活躍している医療者による講義を行う。
1年	医学ゼミ	平戸で学ぶ地域医療集中講義	前期:15コマ 夏季:集中講義	視聴覚セミナー室(医学部基礎棟1階) 平戸市民病院	・長崎県平戸市、平戸市民病院で開催される2泊3日の集中講義に参加する。地域医療実習(在宅医療など)講義、ワークショップを通して地域医療に対する理解を深める。 ・夏季集中講義の前、6月16日に長崎県の離島・へき地医療についての概論の講義を行う。
1年	医と社会1	-	前期 36コマ	第2・4講義室 CBT室 学外のリハビリ施設等	医と社会1の一部として、1年生全員を対象として、社会における医療の位置づけと使命を学び、医療のゴールがCureからCareへの継続であることを知る。リハビリ施設等で保健学科との共修によりチーム医療の実践を体験する。
1~3年	医学ゼミ	しまで学ぶ地域医療集中ゼミ	地域医療研究会(2か月に1回開催予定) 長崎地域医療セミナー in GOTO(8月20日(日)~8月22日(火))	地域医療研究会(坂本キャンパス) 長崎地域医療セミナー in GOTO(長崎県五島市)	・地域医療に関する論文(邦文・英文)や記事、教科書、書籍をまとめ読める。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。
1~3年	推薦入学者活動報告会	地域枠学生ワークショップ	10月17日(火)・24日(火)	ボンベ会館 第4講義室	地域枠学生1~3年生全員を対象として、長崎県と臨床研修病院の担当者を交えて地域医療に関連するテーマでワークショップを行い、県内地域医療の理解を深めるとともに、地域医療関係者との交流を図る。
2年	医学ゼミ	離島・へき地医療の達人から学ぶ	前期:15コマ	視聴覚セミナー室(医学部基礎棟1階)	・離島・へき地の第一線で活躍する多職種による双方向的な講義を中心とする。 ・地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライマドクターとして活躍する医師のほか行政や地域のメディカルスタッフによる講義を予定している。 ・「地域医療」という漠然としたイメージをリアルな物として認識できるようになること。 ・地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。
2年	医学ゼミ	医師になるってどんなこと?ー包括医療幕始めー	後期:15コマ	視聴覚セミナー室(医学部基礎棟1階)	疾病を患った患者が、医療機関で治療を受け、社会に復帰するまでに、どれだけの医療資源、社会資源を要するかを認識し、理解する。これに関わる、基礎医学、臨床医学、社会医学について考察する。3コマは長崎市内で在宅診療に同行する。
2年	医と社会2	-	後期 18コマ	第1・2講義室 学外の高齢者診療施設等	医と社会2の一部として、2年生全員を対象として、介護福祉に関する基本知識を学び、高齢者福祉施設の実習見学を通じて社会における医療と介護・福祉の役割を知る。
3年	医と社会3	-	通年 19コマ	第1・4講義室 学外の診療所等	医と社会3の一部として、市内の診療所を少人数で訪問し、地域における医療の役割を知ると同時に医師と他職種の連携についての実際を学ぶ。シミュレーター実習により地域医療の現場で求められる基本的診療技能を習得する。
3・4年	医学ゼミ	地域医療学入門	・全曜日1校時(7回程度) ・月一回程度18時~20時30分(地域医療研究会・曜日不定)(4回程度) 上記2つ全てに出席が必要です	地域医療学分野セミナー 室(医学部基礎棟5階) ボンベ会館	・地域医療に関する論文(邦文・英文)や記事、教科書、書籍をまとめ読める。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。
4年	医と社会4	-	通年 6コマ	第1~4講義室 視聴覚セミナー室 セミナー室	医と社会4の一部として、4年生全員を対象として、在宅医療や地域包括ケア実習の準備授業に位置づけて、医歯薬の共修や専門職を交えた事例検討を行い、専門的視野に偏らない問題解決の思考を養う。
4年	公衆衛生学	-	前期 9コマ	第3・4講義室	公衆衛生学の一部として、4年生全員を対象として、社会医学における保健・医療・福祉・予防医学・健康増進・高齢者保健の講義を行い、関連法を含めて地域における保健医療等の制度と基本について教授する。
4・5年	臨床実習	地域病院実習	4年生の1月~5年生の12月のうち5日間	長崎市内と近郊の地域中核病院	臨床実習の一部として、4・5年生全員を対象として、長崎市とその近郊及び佐世保市の地域中核病院で5日間の実践的な地域病院実習を行う。地域病院それぞれの特性を活かした実習プログラムを整備し、地域病院の機能を体験しながら理解させることで、地域病院が地域の中で担っている役割と地域との関わりについて学ぶ。
4・5年	臨床実習	離島医療・保健実習	4年生の1月~5年生の12月のうち5日間	右記各コース(離島)の各医療・保健施設	臨床実習の一部として、4・5年生全員を対象として、上五島コース、下五島コース、対馬コース、壱岐コースに分かれて、5日間(月~金)の離島医療・地域保健実習を行う。医学部医学科、歯学部、薬学部、医学部保健学科との専門職連携教育によってチーム医療教育と地域包括医療・ケアについて学ぶ。
4・5年	臨床実習	地域包括ケア実習	4年生の1月~5年生の12月のうち5日間	地域包括支援センター、消防署、訪問看護ステーション	臨床実習の一部として、4・5年生全員を対象として、地域包括支援センター、消防署(救急車同乗)、および訪問看護ステーションにおいて、5日間の地域包括ケアに関する実習を行う。
5・6年	高次臨床実習	-	5年生の1月~6年生の7月のうち4週間	各離島と本土の地域中核病院	高次臨床実習の一部として、離島や本土の地域中核病院の希望者は内科系・外科系のコースに分かれ、実習を行う。また、在宅医療実習の希望者は長崎市内近郊の在宅医療を専門とする診療所にて実習を行う。
5・6年	高次臨床実習	-	5年生の1月~6年生の7月のうち4週間	在宅医療実施医療機関	長崎市内近郊の在宅医療を専門とする診療所より在宅に同行して実習を行う。

※様式任意で地域医療に関する学部教育のカリキュラムの概要(A4で一枚)を示す表を添付して下さい。
※学年ごとに該当する科目名、期間、授業が行われる場所、教育内容等が分かるようにご配慮下さい。



29 医人第 155 号

平成 29 年 7 月 21 日

厚生労働省医政局長 様

長崎県福祉保健部長



地域の医師確保のための入学定員増に係る約束文書

平成 29 年 7 月 10 日付け 29 文科高第 328 号、医政発 0710 第 1 号に基づき、下記のとおり、平成 30 年度から長崎大学医学部において地域の医師確保のため入学定員増を行うこととしました。

今後、長崎県地域医療総合確保基金事業計画等の変更を行うなど必要な手続きを行います。

記

1 提携大学及び今回増員数

長崎大学	5 名
計	5 名

2 これまでに修学資金を条件として設定している長崎県地域枠

長崎大学	10 名
佐賀大学	1 名
川崎医科大学	6 名
計	17 名

担当：長崎県医療人材対策室 医師確保推進班

電話：095-895-2421

FAX：095-895-2573

E-mail：s04045@pref.nagasaki.lg.jp

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	コウノ シゲル 河野 茂 <平成29年10月>		医学博士		長崎大学学長 (平成29.10～32.9)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(長崎大学医学部医学科)													
調書 番号	専任 等区分	職位	フリガナ 氏 名 (就任(予定)年月)	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する過当たり平 均日数
1	専	教授	モリノム 森 望 (平成16年6月1日)		薬学博士		プレリサーチセミナーⅠ プレリサーチセミナーⅡ 医学ゼミⅡ 神経・感覚器系 リサーチセミナー アドバンストリサーチセミナーⅢ アドバンストリサーチセミナーⅣ	1年 2年 2年 2年 3年 5年 5年	通年 通年 前 前 後 前 後	0.06 1 1 3.66 11.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成16年6月1日)	教授 5日
2	専	教授	コウジ タヒコ 小路 武彦 (平成10年9月1日)		理学博士		プレリサーチセミナーⅠ 発生・組織系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー 生殖系 アドバンストリサーチセミナーⅤ	1年 1年 3年 3年 3年 6年	通年 通年 前 前 後 前	0.06 3.2 1 11.5 0.06 1	1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成10年9月1日)	教授 5日
3	専	教授	マキタ ナオマサ 蒔田 直昌 (平成21年5月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ 内臓機能・体液系Ⅰ プレリサーチセミナーⅡ 医学ゼミⅡ 内臓機能・体液系Ⅱ 循環器系 リサーチセミナー	1年 1年 2年 2年 2年 3年 3年	通年 通年 通年 前 前 前 後	0.06 0.66 1 0.33 0.66 0.13 11.5	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成21年5月1日)	教授 5日
4	専	教授	ツルモト トシユキ 弦本 敏行 (平成22年3月1日)		医学博士		プレリサーチセミナーⅠ 人体構造系Ⅰ 医学ゼミⅡ 人体構造系Ⅱ プレリサーチセミナーⅢ リサーチセミナー アドバンストリサーチセミナーⅠ 人体構造系Ⅲ アドバンストリサーチセミナーⅡ アドバンストリサーチセミナーⅢ アドバンストリサーチセミナーⅣ アドバンストリサーチセミナーⅤ	1年 1年 2年 2年 3年 3年 4年 4年 4年 5年 5年 6年	通年 通年 前 前 通年 後 前 前 前 前 後 前	0.06 3.2 1 6.6 1 11.5 1 0.71 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成22年3月1日)	教授 5日
5	専	教授	シハラ カスユキ 篠原 一之 (平成14年4月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ 医学ゼミⅡ 動物性機能系 プレリサーチセミナーⅢ リサーチセミナー アドバンストリサーチセミナーⅠ アドバンストリサーチセミナーⅡ アドバンストリサーチセミナーⅢ アドバンストリサーチセミナーⅣ	1年 2年 2年 3年 3年 4年 4年 5年 5年	通年 前 前 通年 後 前 前 前 後	0.06 1 1.46 1 11.5 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成14年4月1日)	教授 5日
6	専	教授	イトウ タシ 伊藤 敬 (平成14年9月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ 生体分子系 リサーチセミナー アドバンストリサーチセミナーⅤ	1年 1年 3年 6年	通年 通年 後 前	0.06 1.46 11.5 1	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成14年9月1日)	教授 5日
7	専	教授	アルガ ジュン 有賀 純 (平成25年10月1日)		医学博士		プレリサーチセミナーⅠ プレリサーチセミナーⅢ 薬理系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー アドバンストリサーチセミナーⅠ 薬理系Ⅲ アドバンストリサーチセミナーⅡ アドバンストリサーチセミナーⅤ	1年 3年 3年 3年 3年 4年 4年 6年	通年 通年 通年 通年 後 前 前 前	0.06 1 1.6 0.26 11.5 1 0.13 1	1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年10月1日)	教授 5日
8	専	教授	イケダ ヒロキ 池田 裕明 (平成28年4月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ 腫瘍系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー	1年 2年 3年 3年	通年 後 前 後	0.06 0.53 0.53 11.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年4月1日)	教授 5日
9	専	教授	フカカ ジュンヤ 福岡 順也 (平成21年11月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ 医学ゼミⅡ 病理各論系 リサーチセミナー 病理各論系Ⅲ 総合病理学 臨床実習 高次臨床実習	1年 2年 3年 3年 4年 4年 4~5年 5~6年	通年 前 通年 後 前 後 通年 通年	0.06 0.53 0.4 11.5 0.13 0.06 55 27.5	1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成21年11月1日)	教授 3日
10	専	教授	ホンダ マサユキ 本多 正幸 (平成13年5月1日)		博士(理学)		臨床疫学・医療情報学 臨床実習 高次臨床実習	4年 4~5年 5~6年	後 通年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成13年5月1日)	教授 5日
11	専	教授	アオヤギ キヨシ 青柳 潔 (平成14年11月16日)		医学博士		プレリサーチセミナーⅠ プレリサーチセミナーⅡ リサーチセミナー 医学ゼミⅣ 公衆衛生学 臨床実習 卒前集中講義	1年 2年 3年 4年 4年 4~5年 6年	通年 通年 後 前 前 通年 前	0.06 1 11.5 1 0.2 55 0.06	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成14年11月16日)	教授 5日
12	専	教授	マエダ タヒコ 前田 隆浩 (平成17年4月1日)		博士(医学)		医と社会Ⅰ 医学ゼミⅠ 地域医療ゼミ 医学ゼミⅡ 医学ゼミⅢ 医学ゼミⅣ 公衆衛生学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	1年 1年 1年 2年 3年 4年 4年 4~5年 5~6年 6年	前 前 前 前 前 前 前 通年 通年 前	0.2 1 1 1 1 1 0.13 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成17年4月1日)	教授 5日
13	専	教授	イケマツ カズヤ 池松 和哉 (平成25年1月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ リサーチセミナー アドバンストリサーチセミナーⅠ 医学ゼミⅣ 衛生学・分子疫学 アドバンストリサーチセミナーⅡ 法医学系 アドバンストリサーチセミナーⅢ アドバンストリサーチセミナーⅣ 高次臨床実習 アドバンストリサーチセミナーⅤ	1年 3年 4年 4年 4年 4年 4年 5年 5年 5~6年 6年	通年 後 前 前 前 後 後 前 前 通年 前	0.06 11.5 1 1 0.26 1 0.93 1 1 27.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年1月1日)	教授 5日

教 員 の 氏 名 等												
(長崎大学医学部医学科)												
調書 番号	専任 等区 分	職 位	フリガナ 氏 名 (就任(予定)年月)	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平 均日数
14	専	教授	ウエニ マサユキ 上谷 雅孝 (平成16年6月1日)		博士(医学)		放射線医学 診断学 臨床実習 高次臨床実習	3年 後 0.06 4年 後 0.06 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5	0.06 0.06 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成16年6月1日)	5日
15	専	教授	サカイ ヒデキ 酒井 英樹 (平成21年7月1日)		博士(医学)		腎泌尿器系 生殖系 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	3年 後 0.13 4年 後 0.13 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	0.13 0.13 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成21年7月1日)	5日
16	専	教授	エイシ キヨキ 江石 清行 (平成11年4月16日)		医学博士		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成11年4月16日)	5日
17	専	教授	ヤスヲ トオル 安武 亨 (平成23年9月1日)		医学博士		医と社会 I 医と社会 III 医学ゼミ III 医と社会 IV 診断学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	1年 前 1.66 3年 通年 0.06 3年 前 1 4年 通年 0.13 4年 後 0.06 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	1.66 0.06 1 0.13 0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成23年9月1日)	5日
18	専	教授	ナカオ カズヒコ 中尾 一彦 (平成21年3月1日)		博士(医学)		消化器系 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	3年 前 0.2 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	0.2 55 27.5 0.06	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成21年3月1日)	5日
19	専	教授	キタカ カシ 北岡 隆 (平成15年9月1日)		医学博士		動物性機能系 視覚系 臨床実習 高次臨床実習	2年 前 0.06 4年 前 0.13 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5	0.06 0.13 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成15年9月1日)	5日
20	専	教授	タナカ カズ 田中 克己 (平成27年11月1日)		博士(医学)		運動系 皮膚系 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 前 0.06 4年 前 0.06 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	0.06 0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成27年11月1日)	5日
21	専	教授	モリウチ ヒロキ 森内 浩幸 (平成11年1月4日)		博士(医学)		免疫系 感染症系 小児系 臨床医学TBL II 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	2年 後 0.06 3年 前 0.33 3年 後 0.2 3年 後 0.13 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	0.06 0.33 0.2 0.13 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成11年1月4日)	5日
22	専	教授	カワカミ アツシ 川上 純 (平成22年11月1日)		医学博士		免疫系 医学ゼミ III 免疫・アレルギー疾患系 診断学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	2年 後 0.13 3年 前 1 3年 後 0.2 4年 後 0.06 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	0.13 1 0.2 0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成22年11月1日)	5日
23	専	教授	オザワ ヒロキ 小澤 寛樹 (平成15年10月1日)		医学博士		医学ゼミ IV 精神系 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 1 4年 前 0.2 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5	1 0.2 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成15年10月1日)	5日
24	専	教授	ムカエ ヒロシ 迎 寛 (平成27年11月2日)		博士(医学)		呼吸器系 臨床実習 診断学 高次臨床実習 卒前集中講義	3年 前 0.2 4~5年 通年 55 4年 後 0.06 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.04	0.2 55 0.06 27.5 0.04	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成27年11月2日)	5日
25	専	教授	マエムラ コウジ 前村 浩二 (平成20年7月16日)		博士(医学)		内臓機能・体液系 I 循環器系 医学ゼミ IV 診断学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	1年 通年 0.06 3年 前 0.06 4年 前 1 4年 後 0.06 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.17	0.06 0.06 1 0.06 55 27.5 0.17	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成20年7月16日)	5日
26	専	教授	ナガタ ヤスヒコ 永田 康浩 (平成25年12月1日)		博士(医学)		医と社会 I 医と社会 II 医学ゼミ II 医と社会 III 臨床実習 医と社会 IV 診断学 高次臨床実習	1年 前 2.2 2年 通年 2.2 2年 前 1 3年 通年 0.86 4~5年 通年 55 4年 通年 0.33 4年 後 0.33 5~6年 通年 27.5	2.2 2.2 1 0.86 55 0.33 0.33 27.5	1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成25年12月1日)	5日
27	専	教授	アシワ カズト 芦澤 和人 (平成24年10月1日)		博士(医学)		腫瘍系 呼吸器系 放射線医学 臨床実習	2年 後 0.06 3年 前 0.26 3年 後 0.13 4~5年 通年 55	0.06 0.26 0.13 55	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成24年10月1日)	5日
28	専	教授	マツオ ヲキ 松尾 孝之 (平成26年11月1日)		博士(医学)		脳・神経系 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 前 0.06 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成26年11月1日)	5日
29	専	教授	ナガヤ スケシ 永安 武 (平成15年7月16日)		博士(医学)		呼吸器系 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	3年 前 0.2 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5 6年 前 0.06	0.2 55 27.5 0.06	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成15年7月16日)	5日
30	専	教授	ハラ テツヤ 原 哲也 (平成25年11月1日)		博士(医学)		外科治療学 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 0.46 4~5年 通年 55 5~6年 通年 27.5	0.46 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 教授 (平成25年11月1日)	5日

教 員 の 氏 名 等														
(長崎大学医学部医学科)														
調書 番号	専任 等区分	職位	フリガナ 氏 名 (就任(予定)年月)	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年間開 講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する過当たり平均 日数	
31	専	教授	ヤナキハラ カツリ 柳原 克紀 (平成25年1月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ 医と社会Ⅰ 感染症系 プレリサーチセミナーⅢ 医学ゼミⅢ 感染症系 医学ゼミⅣ 臨床検査医学 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	1年 通年 1年 前 2年 後 3年 通年 3年 前 3年 前 4年 前 4年 後 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.26 0.06 0.2 2 1 0.06 1 1 0.2 1 0.53 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年1月1日)	教授	5日	
32	専	教授	エグチ ススム 江口 晋 (平成24年1月1日)		博士(医学)		医と社会Ⅰ 医学ゼミⅢ 外科治療学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	1年 前 3年 前 4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.06 1 0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年1月1日)	教授	5日	
33	専	教授	オサキ マコト 尾崎 誠 (平成23年9月1日)		博士(医学)		運動系 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成23年9月1日)	教授	5日	
34	専	教授	ユイ カツキ 由井 克之 (平成9年10月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ プレリサーチセミナーⅡ 免疫系 リサーチセミナー 医学ゼミⅣ	1年 通年 2年 通年 2年 後 3年 後 4年 前	0.06 1 1.6 11.5 1	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成9年10月1日)	教授	5日	
35	専	教授	ニシダ ノブキ 西田 教行 (平成21年7月1日)		博士(医学)		プレリサーチセミナーⅠ 感染症系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー アドバンストリサーチセミナーⅠ アドバンストリサーチセミナーⅡ アドバンストリサーチセミナーⅤ	1年 通年 2年 後 3年 前 3年 後 4年 前 4年 後 6年 前	0.06 1.6 0.53 11.5 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成21年7月1日)	教授	5日	
36	専	教授	イズミカワ コウイチ 泉川 公一 (平成26年3月1日)		博士(医学)		医学ゼミⅡ 感染症系 医学ゼミⅢ 感染症系 呼吸器系 医学ゼミⅣ 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	2年 前 2年 後 3年 前 3年 前 3年 前 4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	1 0.06 1 0.33 0.06 1 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年3月1日)	教授	5日	
37	専	准教授	オカモト ケイ 岡本 圭史 (平成19年4月1日)		医学博士		人体構造系Ⅰ 人体構造系Ⅱ リサーチセミナー 人体構造系Ⅲ	1年 通年 2年 前 3年 後 4年 前	1.2 6.2 11.5 0.71	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成19年4月1日)	准教授	5日	
38	専	准教授	ヤマモト カズオ 山本 一男 (平成19年4月1日)		博士(理学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5		1	長崎大学 生命医科学域 (平成19年4月1日)	准教授	5日
39	専	准教授	タナカ ケニヒコ 田中 邦彦 (平成21年1月1日)		博士(医学)		医と社会Ⅰ 医と社会Ⅳ 臨床実習 高次臨床実習	1年 前 4年 通年 4~5年 通年 5~6年 通年	1.66 0.13 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成21年1月1日)	准教授	5日	
40	専	准教授	フルサト ブンゴ 古里 文吾 (平成27年9月1日)		博士(医学)		医学ゼミⅡ 病理各論系 リサーチセミナー 臨床実習 高次臨床実習	2年 前 3年 通年 3年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	1 0.72 11.5 55 27.5	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年9月1日)	准教授	5日	
41	専	准教授	モリヨウイチ 森 亮一 (平成28年7月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5		1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年7月1日)	准教授	5日
42	専	准教授	マツモト タケヒロ 松本 武浩 (平成19年4月1日)		学士(医学)		臨床疫学・医療情報学 臨床実習 高次臨床実習	4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成19年4月1日)	准教授	5日	
43	専	准教授	アベ ヤスヨ 安部 恵代 (平成25年5月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー 公衆衛生学	3年 後 4年 前	11.5 0.26	1 1	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年5月1日)	准教授	5日
44	専	准教授	ナカミ セイコ 中道 聖子 (平成25年11月1日)		博士(医学)		診断学 臨床疫学・医療情報学 臨床推論PBL 臨床実習 卒前集中講義	4年 後 4年 後 4年 後 4~5年 通年 6年 前	0.86 0.13 0.53 55 0.06	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年11月1日)	准教授	5日	
45	専	准教授	サカモト イチロウ 坂本 一郎 (平成24年4月1日)		博士(医学)		循環器系 放射線医学 診断学 臨床実習	3年 前 3年 後 4年 後 4~5年 通年	0.13 0.06 0.06 55	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年4月1日)	准教授	5日	
46	専	准教授	クロダキ ナオヒロ 黒滝 直弘 (平成28年5月1日)		博士(医学)		分子遺伝学 精神系 高次臨床実習	2年 後 4年 前 5~6年 通年	0.06 0.2 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年5月1日)	准教授	5日	
47	専	准教授	カノ ヒロキ 河野 浩章 (平成19年4月1日)		博士(医学)		循環器系 診断学 臨床実習 高次臨床実習	3年 前 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 0.26 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成19年4月1日)	准教授	5日	
48	専	准教授	タケシマ フミノオ 竹島 史直 (平成19年4月1日)		博士(医学)		医学ゼミⅢ 消化器系 診断学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	3年 前 3年 前 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.53 0.33 0.66 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成19年4月1日)	准教授	5日	

教 員 の 氏 名 等												
(長崎大学医学部医学科)												
調書 番号	専任 等区分	職位	フリガナ 氏名 (就任(予定)年月)	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平 均日数
49	専	准教授	アビル リオ 阿比留 教生 (平成24年6月1日)		博士(医学)		医と社会 I 内分泌・代謝・栄養系 臨床医学TBL II 診断学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	1年 前 3年 後 3年 後 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.06 0.26 0.13 0.26 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年6月1日)	准教授 5日
50	専	准教授	カネコ ケンイチ 金子 賢一 (平成25年1月1日)		博士(医学)		耳鼻咽喉口腔系 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 前 5~6年 通年 6年 前	0.13 27.5 0.04	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年1月1日)	准教授 5日
51	専	准教授	タナカ モイ 竹中 基 (平成26年11月1日)		博士(医学)		皮膚系 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 前 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.26 0.53 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年11月1日)	准教授 5日
52	専	准教授	ヤマサキ ナオヤ 山崎 直哉 (平成25年10月1日)		博士(医学)		呼吸器系 外科治療学 臨床実習	3年 前 4年 前 4~5年 通年	0.13 0.13 55	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年10月1日)	准教授 5日
53	専	准教授	ヤノ ヒロキ 矢野 浩規 (平成28年2月1日)		博士(医学)		小児系 運動系 高次臨床実習	3年 後 4年 前 5~6年 通年	0.06 0.06 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年2月1日)	准教授 5日
54	専	准教授	トミマサト 富田 雅人 (平成27年4月1日)		博士(医学)		運動系 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年4月1日)	准教授 5日
55	専	准教授	オハセ ヤスシ 尾長谷 靖 (平成27年4月1日)		博士(医学)		呼吸器系 臨床医学TBL I 診断学 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	3年 前 3年 後 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.13 0.13 0.26 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年4月1日)	准教授 5日
56	専	准教授	ツチヤ トモシ 土谷 智史 (平成27年5月1日)		博士(医学)		呼吸器系 外科治療学 臨床実習 高次臨床実習	3年 前 4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.06 0.13 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年5月1日)	准教授 5日
57	専	准教授	ミヤタ ヤスヨシ 宮田 康好 (平成26年5月1日)		博士(医学)		腎泌尿器系 医学ゼミIV 高次臨床実習	3年 後 4年 前 5~6年 通年	0.33 1 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年5月1日)	准教授 5日
58	専	准教授	カウキ ミツサ 高槻 光寿 (平成28年4月1日)		博士(医学)		臨床医学TBL III 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年4月1日)	准教授 5日
59	専	准教授	ミウラ キヨノリ 三浦 清徳 (平成24年4月1日)		博士(医学)		分子遺伝系 生殖系 臨床医学TBL II 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	2年 後 3年 後 3年 後 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.06 0.13 0.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年4月1日)	准教授 5日
60	専	准教授	ムラタ ヒロアキ 村田 寛明 (平成27年3月1日)		博士(医学)		外科治療学 高次臨床実習	4年 前 5~6年 通年	0.06 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年3月1日)	准教授 5日
61	専	准教授	タナカ ヨシマサ 田中 義正 (平成24年8月1日)		博士(農学)		薬理系 リサーチセミナー	3年 通年 3年 後	0.06 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年8月1日)	准教授 3日
62	専	准教授	クボ ヨシオ 久保 嘉直 (平成23年6月1日)		博士(医学)		感染系 リサーチセミナー	2年 後 3年 後	0.13 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成23年6月1日)	准教授 5日
63	専	准教授	イシカワ タケシ 石川 岳志 (平成25年2月1日)		博士(理学)		感染系 リサーチセミナー	2年 後 3年 後	0.13 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年2月1日)	准教授 5日
64	専	准教授	イシハン タイスケ 石橋 大輔 (平成27年11月1日)		博士(薬学)		感染系 リサーチセミナー	2年 後 3年 後	0.46 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年11月1日)	准教授 5日
65	専	准教授	ハヤシ ヒロキ 林 日出喜 (平成27年8月1日)		医学博士		腫瘍系 リサーチセミナー	2年 後 3年 後	0.13 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年8月1日)	准教授 5日
66	専	准教授	カマミ タケシ 隈上 武志 (平成28年10月1日)		博士(医学)		視覚系 臨床医学TBL III 診断学 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 前 4年 前 4年 後 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年 6年 前	0.13 0.13 0.06 0.53 55 27.5 0.06	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年10月1日)	准教授 5日
67	専	准教授	イテキ スミト 伊達木 澄人 (平成28年3月1日)		博士(医学)		高次臨床実習	5~6年 通年	27.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年3月1日)	准教授 5日
68	専	講師	サイキ カスノブ 佐伯 和信 (平成25年11月1日)		博士(医学)		人体構造系 I 人体構造系 II リサーチセミナー 人体構造系 III	1年 通年 2年 前 3年 後 4年 前	1.46 6.2 11.5 0.71	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年11月1日)	講師 5日

教 員 の 氏 名 等													
(長崎大学医学部医学科)													
調書 番号	専任 等区分	職位	フリガナ 氏 名 (就任(予定)年月)	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平 均日数
69	専	講師	シバタヤスキ 柴田 恭明 (平成28年3月1日)		博士(歯学)		発生・組織系 リサーチセミナー	1年 3年	通年 後	2.93 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年3月1日)	講師 5日
70	専	講師	ツジユキオミ 辻 幸臣 (平成25年4月1日)		博士(医学)		内臓機能・体液系Ⅰ 医学ゼミⅡ 内臓機能・体液系Ⅱ リサーチセミナー	1年 2年 2年 3年	通年 前 前 後	0.73 0.33 0.66 11.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年4月1日)	講師 5日
71	専	講師	マストヒロシ 増本 博司 (平成26年1月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー	3年	後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年1月1日)	講師 5日
72	専	講師	マツトケン 松本 弦 (平成26年9月1日)		博士(理学)		神経・感覚器系 リサーチセミナー	2年 3年	前 後	1.2 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年9月1日)	講師 5日
73	専	講師	ハヤシヒロ 林 洋子 (平成25年9月1日)		博士(医学)		医学ゼミⅢ リサーチセミナー 総合病理学	3年 3年 4年	前 後 後	0.53 11.5 0.06	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年9月1日)	講師 5日
74	専	講師	アカザユウコ 赤澤 祐子 (平成28年8月1日)		博士(医学)		病理各論系 消化器系 リサーチセミナー 臨床実習 高次臨床実習	3年 3年 3年 4~5年 5~6年	通年 前 前 通年 通年	0.26 0.13 11.5 55 27.5	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年8月1日)	講師 5日
75	専	講師	ナカワシンスケ 中川 慎介 (平成24年1月1日)		博士(医学)		薬理系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー 薬理系Ⅲ	3年 3年 3年 4年	通年 前 前 前	0.93 0.26 11.5 0.13	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年1月1日)	講師 5日
76	専	講師	ドイヒロカス 土居 裕和 (平成25年4月1日)		博士(学術)		動物性機能系 リサーチセミナー	2年 3年	前 後	1.8 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年4月1日)	講師 5日
77	専	講師	イシカワタイスケ 石川 泰輔 (平成26年4月1日)		博士(医学)		内臓機能・体液系Ⅰ 医学ゼミⅡ 内臓機能・体液系Ⅱ リサーチセミナー	1年 2年 2年 3年	通年 前 前 後	0.53 0.33 0.71 11.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年4月1日)	講師 5日
78	専	講師	アリアカスヒコ 有馬 和彦 (平成26年1月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー 公衆衛生学 臨床実習	3年 4年 4~5年	後 前 通年	11.5 0.13 55	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年1月1日)	講師 5日
79	専	講師	イチノセクニヒロ 一瀬 邦弘 (平成27年3月1日)		博士(医学)		免疫・アレルギー疾患系 臨床実習 高次臨床実習	3年 4~5年 5~6年	後 通年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年3月1日)	講師 5日
80	専	講師	カワシリンヤ 川尻 真也 (平成28年5月1日)		博士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 5~6年	通年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年5月1日)	講師 5日
81	専	講師	イケダサトシ 池田 聡司 (平成19年4月1日)		博士(医学)		循環器系 診断学 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	3年 4年 4年 4~5年 5~6年	前 後 後 通年 通年	0.13 1 0.53 55 27.5	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成19年4月1日)	講師 5日
82	専	講師	クワハラヒロナガ 桑原 宏永 (平成25年11月1日)		博士(医学)		内分泌・代謝・栄養系 臨床実習 高次臨床実習	3年 4~5年 5~6年	後 通年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年11月1日)	講師 5日
83	専	講師	カマダケンサク 鎌田 健作 (平成26年12月1日)		博士(医学)		脳・神経系 臨床実習 高次臨床実習	4年 4~5年 5~6年	前 通年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年12月1日)	講師 5日
84	専	講師	ヤマノウチコウシヨウ 山之内 孝彰 (平成27年4月1日)		博士(医学)		内分泌・代謝・栄養系 臨床実習 高次臨床実習	3年 4~5年 5~6年	後 通年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年4月1日)	講師 5日
85	専	講師	タマイミ 玉井 慎美 (平成25年7月1日)		博士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 5~6年	通年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年7月1日)	講師 5日
86	専	講師	サカトノリホ 坂本 憲穂 (平成26年11月1日)		博士(医学)		呼吸器系 診断学 臨床実習 高次臨床実習	3年 4年 4~5年 5~6年	前 後 通年 通年	0.06 0.26 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年11月1日)	講師 5日
87	専	講師	マツモトケイタロウ 松本 桂太郎 (平成27年10月1日)		博士(医学)		呼吸器系 外科治療学 臨床実習	3年 4年 4~5年	前 前 通年	0.06 0.06 55	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年10月1日)	講師 5日
88	専	講師	ミウラタカシ 三浦 崇 (平成26年1月1日)		博士(医学)		臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習 卒前集中講義	4年 4~5年 5~6年 6年	後 通年 通年 前	1.06 55 27.5 0.06	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年1月1日)	講師 5日
89	専	講師	ミヤザキタイガ 宮崎 泰可 (平成26年4月1日)		博士(医学)		感染症系 呼吸器系 医学ゼミⅣ 臨床実習 高次臨床実習	3年 3年 4年 4~5年 5~6年	前 前 前 通年 通年	0.06 0.06 1 55 27.5	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年4月1日)	講師 5日
90	専	講師	ミヤコダマナ 都田 真奈 (平成25年4月1日)		博士(薬学)		リサーチセミナー	3年	後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年4月1日)	講師 5日

教 員 の 氏 名 等												
(長崎大学医学部医学科)												
調書 番号	専任 等区分	職位	フリガナ 氏名 (就任(予定)年月)	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平 均日数
91	専	講師	キムラ ダイスケ 木村 大輔 (平成28年5月1日)		博士(保健学)		免疫系 リサーチセミナー	2年 後 3年 後	0.26 11.5	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成28年5月1日)	講師 5日
92	専	助教	ニタンダ タカオ 二反田 隆夫 (平成26年5月1日)		博士(医学)		病理各論系 臨床実習 高次臨床実習	3年 通年 4~5年 通年 5~6年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成26年5月1日)	助教 5日
93	専	助教	ロースフェルト ルーク フロラン ユジヤーン Loosveldt Luc Florent Eugene (平成23年3月1日)		B. A (アメリカ)		医学英語 I 国際医療英語 I 医学英語 II 国際医療英語 II 医学英語 III 国際医療英語 III 医学英語 IV	1年 前 1年 前 2年 前 2年 前 3年 前 3年 前 4年 前	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成23年3月1日)	助教 5日
94	専	助教	ブリガンティ ジェイムス ジョセフ Briganti James Joseph (平成23年5月16日)		M. A (アメリカ)		医学英語 I 国際医療英語 I 医学英語 II 国際医療英語 II 医学英語 III 国際医療英語 III 医学英語 IV	1年 前 1年 後 1年 前 2年 前 2年 後 3年 前 3年 後 4年 前	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成23年5月16日)	助教 5日
95	専	助教	ムライ キヨヒト 村井 清人 (平成27年11月1日)		博士(工学)		神経・感覚器系 リサーチセミナー	2年 前 3年 後	1.2 11.5	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成27年11月1日)	助教 5日
96	専	助教	ヨネダ ミツヒロ 米田 光宏 (平成27年8月17日)		博士(医学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医学域 (平成27年8月17日)	助教 5日
97	専	助教	ハタヤマ ミル 畑山 実 (平成25年12月1日)		博士(医学)		薬理系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー	3年 通年 3年 前 3年 後	0.6 0.26 11.5	1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成25年12月1日)	助教 5日
98	専	助教	ナカガワ タケヤ 中川 武弥 (平成19年4月1日)		学士(理学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医学域 (平成19年4月1日)	助教 5日
99	専	助教	ハウ センジュン 朴 盛浚 (平成24年4月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医学域 (平成24年4月1日)	助教 5日
100	専	助教	エンドウ タイスケ 遠藤 大輔 (平成23年6月1日)		博士(理学)		発生・組織系 リサーチセミナー	1年 通年 3年 後	2.93 11.5	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成23年6月1日)	助教 5日
101	専	助教	タルミ ワタル 樽見 航 (平成27年5月1日)		博士(医学)		動物性機能系 リサーチセミナー	2年 前 3年 後	1.46 11.5	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成27年5月1日)	助教 5日
102	専	助教	キノ ユイチロウ 菊野 雄一郎 (平成27年4月1日)		博士(人間・環境学)		動物性機能系 リサーチセミナー	2年 前 3年 後	1.66 11.5	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成27年4月1日)	助教 5日
103	専	助教	ナカヨシ マコ 永吉 真子 (平成25年12月1日)		博士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 通年 5~6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成25年12月1日)	助教 5日
104	専	助教	ウメハラ タカヒロ 梅原 敬弘 (平成23年5月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー 法医学系	3年 後 4年 後	11.5 0.06	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成23年5月1日)	助教 5日
105	専	助教	ニシムラ タコキ 西村 貴孝 (平成25年8月1日)		博士(芸術工学)		リサーチセミナー 公衆衛生学	3年 後 4年 前	11.5 0.13	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成25年8月1日)	助教 5日
106	専	助教	トミタ ヨシヒト 富田 義人 (平成28年5月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー 公衆衛生学	3年 後 4年 前	11.5 0.06	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成28年5月1日)	助教 5日
107	専	助教	モリウチ マサコ 森内 昌子 (平成19年4月1日)		Ph. D (アメリカ)		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 通年 5~6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医学域 (平成19年4月1日)	助教 5日
108	専	助教	ホヅミ アキラ 穂積 晃 (平成21年4月1日)		博士(医学)		運動系 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 0.53 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成21年4月1日)	助教 5日
109	専	助教	ニシダ アキフミ 西田 暁史 (平成22年4月1日)		博士(医学)		放射線医学 臨床実習 卒前集中講義	3年 後 4~5年 通年 6年 前	0.06 55 0.06	1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成22年4月1日)	助教 5日
110	専	助教	ヤマグチ ナオヒロ 山口 尚宏 (平成28年4月1日)		博士(医学)		精神系 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.06 0.53 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成28年4月1日)	助教 5日
111	専	助教	ウシフク ケンタ 氏福 健太 (平成22年4月1日)		博士(医学)		脳・神経系 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成22年4月1日)	助教 5日
112	専	助教	ソヤマ アキヒロ 曾山 明彦 (平成23年4月1日)		博士(医学)		外科治療学 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成23年4月1日)	助教 5日
113	専	助教	エガワ アキコ 江川 亜希子 (平成23年6月1日)		学士(医学)		医と社会 I 放射線医学 医と社会 IV 臨床実習	1年 前 3年 後 4年 通年 4~5年 通年	1.6 0.06 0.13 55	1 1 1 1	長崎大学 生命医学域 (平成23年6月1日)	助教 5日

教 員 の 氏 名 等												
(長崎大学医学部医学科)												
調書 番号	専任 等区分	職位	フリガナ 氏 名 (就任(予定)年月)	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平 均日数
114	専	助教	ハカリヤ トモキ 計屋 知彰 (平成25年4月1日)		博士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 通年 5~6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年4月1日)	助教 5日
115	専	助教	マツモト マキコ 松本 牧子 (平成22年6月16日)		博士(医学)		視覚系 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成22年6月16日)	助教 5日
116	専	助教	ムラカミ トモリ 村上 友則 (平成22年1月1日)		博士(医学)		法医学系 臨床実習 高次臨床実習	4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成22年1月1日)	助教 5日
117	専	助教	イワモト ナオキ 岩本 直樹 (平成24年4月1日)		博士(医学)		免疫・アレルギー疾患系 臨床医学TBL II 臨床推論PBL 高次臨床実習	3年 後 3年 後 4年 後 5~6年 通年	0.06 0.26 0.53 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年4月1日)	助教 5日
118	専	助教	ウノ ナオキ 宇野 直輝 (平成25年4月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー 診断学 臨床検査医学 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	3年 後 4年 後 4年 後 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	11.5 0.06 0.13 1.06 55 27.5	1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年4月1日)	助教 5日
119	専	助教	チハ コウ 千葉 恒 (平成23年4月1日)		博士(医学)		運動系 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成23年4月1日)	助教 5日
120	専	助教	ハンモト クニオ 橋本 邦生 (平成23年5月1日)		博士(医学)		小児系 高次臨床実習	3年 後 5~6年 通年	0.13 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成23年5月1日)	助教 5日
121	専	助教	モリナガ ヨシモ 森永 芳智 (平成22年4月1日)		博士(医学)		臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.53 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成22年4月1日)	助教 5日
122	専	助教	クハ サヤカ 久芳 さやか (平成25年12月1日)		博士(医学)		医と社会 I 医と社会 II 医と社会 IV 臨床実習 高次臨床実習	1年 前 2年 通年 4年 通年 4~5年 通年 5~6年 通年	2.2 2.2 0.33 55 27.5	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年12月1日)	助教 5日
123	専	助教	イチミヤ タイガ 一ノ宮 大雅 (平成24年4月1日)		博士(医学)		外科治療学 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.06 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成24年4月1日)	助教 5日
124	専	助教	クワツカ ユカ 鍬塚 大 (平成21年8月1日)		博士(医学)		皮膚系 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成21年8月1日)	助教 5日
125	専	助教	ヒガシジマ アイ 東島 愛 (平成21年4月1日)		博士(医学)		生殖系 臨床実習 高次臨床実習	3年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成21年4月1日)	助教 5日
126	専	助教	マツザカ ユウスケ 松坂 雄亮 (平成25年12月1日)		学士(医学)		医と社会 I 医と社会 II 医学ゼミ II 医と社会 IV 精神系 脳・神経系 臨床医学TBL III 臨床推論PBL 高次臨床実習	1年 前 2年 通年 2年 前 4年 通年 4年 前 4年 前 4年 前 4年 前 4年 後 5~6年 通年	2.2 2.2 1 0.33 0.13 0.06 0.13 0.53 27.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年12月1日)	助教 5日
127	専	助教	コイケ ユウタ 小池 雄太 (平成25年4月1日)		博士(医学)		皮膚系 臨床実習 高次臨床実習	4年 前 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年4月1日)	助教 5日
128	専	助教	サカイ ユウスケ 堺 裕輔 (平成23年4月1日)		博士(工学)		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 通年 5~6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成23年4月1日)	助教 5日
129	専	助教	イサガワ カユキ 砂河 孝行 (平成28年4月1日)		博士(理学)		臨床実習 高次臨床実習	4~5年 通年 5~6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年4月1日)	助教 5日
130	専	助教	キタヤマ ト 北山 素 (平成28年8月1日)		学士(医学)		医と社会 I 臨床医学TBL I 医と社会 IV 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	1年 前 3年 後 4年 通年 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	1.6 0.13 0.13 0.53 55 27.5	1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年8月1日)	助教 5日
131	専	助教	カノ ヒロ 賀来 敬仁 (平成27年10月1日)		博士(医学)		感染系 リサーチセミナー 診断学 臨床検査医学 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	2年 後 3年 後 4年 後 4年 後 4年 後 4~5年 通年 5~6年 通年	0.13 11.5 0.06 0.2 0.53 55 27.5	1 1 1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年10月1日)	助教 5日
132	専	助教	ニシノ アヤコ 西野 文子 (平成28年4月1日)		学士(医学)		医と社会 I 医と社会 II 医と社会 IV 臨床実習 高次臨床実習	1年 前 2年 通年 4年 通年 4~5年 通年 5~6年 通年	2.2 2.2 0.33 55 27.5	1 1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年4月1日)	助教 5日
133	専	助教	サンダース トッド リー SAUNDERS TODD LEIGH (平成25年2月6日)		博士(環境科学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年2月6日)	助教 5日

教 員 の 氏 名 等												
(長崎大学医学部医学科)												
調書 番号	専任 等区 分	職 位	フリガナ 氏 名 (就任(予定)年月)	年 齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する週当たり平 均日数
134	専	助教	ヤスイ キヨシ 安井 潔 (平成19年4月1日)		博士(理学)		医学ゼミⅢ リサーチセミナー	3年 前 3年 後	0.53 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成19年4月1日)	助教 5日
135	専	助教	ワタベ ケン 渡邊 健 (平成25年2月1日)		博士(工学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年2月1日)	助教 5日
136	専	助教	タグチ ユズル 田口 謙 (平成27年10月1日)		博士(医学)		感染系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー	2年 後 3年 前 3年 後	0.13 0.53 11.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年10月1日)	助教 5日
137	専	助教	フセ カユキ 布施 隆行 (平成20年10月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成20年10月1日)	助教 5日
138	専	助教	ゴーチヤン プニータ GAUCHAN PUNITA (平成25年8月1日)		博士(医学)		リサーチセミナー 衛生学・分子疫学	3年 後 4年 前	11.5 0.4	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年8月1日)	助教 5日
139	専	助教	タカゾノ カヒロ 高園 貴弘 (平成27年2月1日)		博士(医学)		臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	4年 後 4～5年 通年 5～6年 通年	0.53 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年2月1日)	助教 5日
140	専	助教	ナカキ タヒロ 中垣 岳大 (平成28年4月1日)		博士(医学)		感染系 リサーチセミナー	2年 後 3年 後	0.13 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年4月1日)	助教 5日
141	専	助教	タシロ マサト 田代 将人 (平成26年4月1日)		博士(医学)		感染症系 臨床実習 高次臨床実習	3年 前 4～5年 通年 5～6年 通年	0.2 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年4月1日)	助教 5日
142	専	助教	ミズタ サトシ 水田 賢志 (平成25年5月27日)		博士(工学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年5月27日)	助教 5日
143	専	助教	カネコ ミホ 金子 美穂 (平成26年4月1日)		博士(保健学)		リサーチセミナー 衛生学・分子疫学	3年 後 4年 前	11.5 0.4	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成26年4月1日)	助教 5日
144	専	助教	オオタキ ヒロキ 大滝 大樹 (平成27年7月1日)		博士(理学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成27年7月1日)	助教 5日
145	専	助教	ヤマナン ヒロモト 山梨 啓友 (平成25年9月1日)		学士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4～5年 通年 5～6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成25年9月1日)	助教 5日
146	専	助教	コヤマツ ジュン 小屋松 淳 (平成28年4月1日)		学士(医学)		医と社会Ⅰ 臨床実習 高次臨床実習	1年 前 4～5年 通年 5～6年 通年	0.2 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年4月1日)	助教 5日
147	専	助教	マツナガ ハヤト 松永 隼人 (平成29年4月1日)		博士(薬学)		薬理系 医学ゼミⅢ リサーチセミナー	3年 通年 3年 前 3年 後	0.6 0.26 11.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年4月1日)	助教 5日
148	専	助教	ヨダ アヤ 依田 彩文 (平成29年4月1日)		博士(医学)		診断学 臨床推論PBL 臨床実習 高次臨床実習	4年 後 4年 後 4～5年 通年 5～6年 通年	0.6 0.53 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年4月1日)	助教 5日
149	専	助教	イシザキ ヒロリ 石崎 泰令 (平成29年4月1日)		博士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4～5年 通年 5～6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年4月1日)	助教 5日
150	専	助教	キタジマ コリコ 北島 百合子 (平成29年2月1日)		博士(医学)		生殖系 臨床実習 高次臨床実習	3年 後 4～5年 通年 5～6年 通年	0.13 55 27.5	1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年2月1日)	助教 5日
151	専	助教	ヤマグチ ヒロユキ 山口 博之 (平成29年4月1日)		博士(医学)		医と社会Ⅱ 呼吸器系 臨床実習 高次臨床実習	2年 通年 3年 前 4～5年 通年 5～6年 通年	0.06 0.13 55 27.5	1 1 1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年4月1日)	助教 5日
152	専	助教	トモンゲ コウイチ 朝重 耕一 (平成29年9月1日)		博士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4～5年 通年 5～6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年9月1日)	助教 5日
153	専	助教	アサカワ テツヤ 浅川 徹也 (平成29年5月1日)		博士(応用情報科学)		リサーチセミナー	3年 後	11.5	1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年5月1日)	助教 5日
154	専	助教	コガ トモヒロ 古賀 智裕 (平成28年12月1日)		博士(医学)		医と社会Ⅱ リサーチセミナー	2年 通年 3年 後	0.06 11.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成28年12月1日)	助教 5日
155	専	助教	キタカ キヨカ 北岡 杏子 (平成29年6月1日)		博士(医学)		臨床実習 高次臨床実習	4～5年 通年 5～6年 通年	55 27.5	1 1	長崎大学 生命医科学域 (平成29年6月1日)	助教 5日

(注)

1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校に就任に係る学則の変更の許可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認定を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。

3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。